

Discussion Paper Series

RIEB

Kobe University

DP2022-J10

家計のリスクマネジメント行動と
金融リテラシー
—2022年調査の概要報告—

家森 信善
上山 仁恵

2022年11月21日



神戸大学 経済経営研究所

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1

家計のリスクマネジメント行動と金融リテラシー[#]

—2022 年調査の概要報告—

神戸大学経済経営研究所 家森信善
名古屋学院大学経済学部 上山仁恵

<要約>

自然災害が頻繁に発生しているにもかかわらず、損害額のごく一部しか保険でカバーされていない。保険によって必要な補償を入手していない理由の一つとして、そもそも自然災害リスクに対する認識が乏しいこと、リスクに対する保険で備えることの有用性についての理解が乏しいこと、つまり、金融・保険リテラシーが乏しいことが考えられる。そこで、我々は 2022 年 8 月に 3,000 人を対象にして「金融リテラシーとリスクマネジメント行動(2022 年)」調査を実施した。本稿は、その結果の概要を報告するものである。

1. はじめに

日本では、自然災害が頻繁に発生している。図 1 に示したように、火災保険金の支払いベースで見ても、2018 年には 7,079 億円と史上最高額となり、2019 年も 5,080 億円と高い水準となっている。台風による風災の被害が大きく増えている上に、洪水などによる水災被害も大きく増えている。たとえば、2018 年の台風 21 号では、火災保険支払保険金が 8,790 億円、そのほかに、車両保険が 750 億円、新種保険(傷害保険など)が 158 億円の合計で約 1 兆円となっている¹。

こうした巨額の保険金の支払いから、保険によって多くの損害が補償されていることがわかる。しかし、すべての被害が保険によってカバーされているわけではない。それどころか、保険によってカバーされている部分が少ないことがしばしば課題として指摘されている。たとえば、スイスリー²によると、過去 10 年間に発生した自然災害の補償ギャップ(プロテクションギャップ 経済損失額と被保険損失額の差)は世界全体で 64%に達しており、さらに、日本では過去 10 年間の自然災害

[#] 本研究は、野村財団から研究費(「金融・証券のフロンティアを拓く研究」2021 年度)を受けて実施している共同研究(プロジェクトタイトル「金融・証券リテラシーと金融行動：老後生活の安心と自然災害に対する強靱性を高めるために」)の成果の一部である。

¹ 損害保険協会 「平成 30 年台風 21 号および台風 24 号に係る各種損害保険の支払件数・支払保険金(見込含む)等について【No.18-048】」2019 年 03 月 22 日。

https://www.sonpo.or.jp/news/release/2018/1903_03.html

² 「アジアにおける自然災害に対する補償ギャップ」2021 年 12 月 15 日

<https://corporatesolutions.swissre.com/japan/insights/knowledge/resilience/nat-cat-protection-gap-in-asia.html>

損失の74%(2,600億ドル)が無保険である。2018年の台風7号では73%の補償ギャップであったし、東日本大震災の補償ギャップは84%に達するとされている。

このように大きな補償ギャップが存在していると、大規模災害の発生後に、生活の再建が非常に難しくなってしまう。それにもかかわらず、補償ギャップが存在する理由として、家計保険の部分では、われわれは保険リテラシーの不足があるのではないかと考えられる。保険リテラシーの重要な要素は、リスクの存在を知り、そのリスクへの対処手段を選択して、実際に行動できることである。逆に言えば、保険リテラシーが乏しいと、自然災害が発生するリスクや、そのリスクに対してどのように対処したら良いのかについて考えることができないのである。

もし日本において金融・保険リテラシーの不足が保険加入の障害になっているとすれば、保険教育の充実を図る重要性を根拠づけることができる。そこで、われわれは、金融・保険リテラシーと自然災害への備えた行動や意識との関連性をアンケート調査を使って解明してみることにした。本稿は、その調査結果の概要を紹介することを目的にしている。

第2節では、調査の概要を紹介する。第3節が回答の単純集計結果である。第4節は、回答結果を年代で比較している。第5節で、本調査で行った金融・保険リテラシーの特徴を説明する。第6節では金融・保険リテラシーとリスクマネジメント行動の簡易な分析を行う。第7節は本稿のまとめである。

図1 自然災害による火災保険金の支払い状況



(出所) 損害保険料率算出機構「火災保険・地震保険の概況 2021年度版」2022年5月。

https://www.giroj.or.jp/publication/outline_k/k_2021.pdf#view=fitV

2. 「金融リテラシーとリスクマネジメント行動」調査

(1) 調査の実施概要

筆者らは、2022年8月26日から8月31日に「金融リテラシーとリスクマネジメント行動(2022年)」調査(以下では、本調査と称する)を実施した。これは、マイボイスコム株式会社に委託したweb調査である。

自然災害に対するリスクマネジメント行動に焦点を当てることにし、さらに具体的には、住宅損害に対する地震災害と水災とに焦点を当てることにした。そのために、調査対象者は、本人もしくは配偶者が住宅を保有している者とした。さらに、様々な世代および男女の意見を反映させるために、20歳代以下から70歳代までの6区分ごとに男女各250人の回答を集めることにした。したがって、合計では3,000人から回答を得た。

(2) 回答者の基本属性

回答者の性別

表1 回答者の性別

全体	3000 (100%)
1. 男性	1500 (50.0%)
2. 女性	1500 (50.0%)

表1は、回答者の性別について見たものである。男女同数になるように割り付けしているため、男性が50%、女性が50%である。

回答者の年齢

表 2 回答者の年齢

全体	3000 (100%)
1. 20 代以下	500 (16.7%)
2. 30 代	500 (16.7%)
3. 40 代	500 (16.7%)
4. 50 代	500 (16.7%)
5. 60 代	500 (16.7%)
6. 70 代	500 (16.7%)
平均年齢	47.9 歳
標準偏差	16.8 歳
最小値	16 歳
最大値	79 歳

表 2 は、回答者の年齢分布と記述統計量についてまとめたものである。各年代 500 サンプルを割付で回収している。平均年齢は 47.9 歳、最少年齢は 16 歳、最高年齢は 79 歳である。

回答者の居住地

表 3 回答者の居住地

全体	3000 (100%)
1. 北海道	136 (4.5%)
2. 東北	159 (5.3%)
3. 関東	1248 (41.6%)
4. 北陸	85 (2.8%)
5. 中部	329 (11.0%)
6. 近畿	648 (21.6%)
7. 中国	142 (4.7%)
8. 四国	75 (2.5%)
9. 九州	178 (5.9%)

表 3 は、回答者の居住エリアについて見たものである。全ての都道府県から回答が得られている。関東居住者が約 4 割(41.6%)で 1 番多く、次いで近畿居住者が 21.6%、東海居住者が 11.0%で続いている。

婚姻状態

表 4 回答者の婚姻状態

全体	3000 (100%)
1. 結婚していない(未婚・離死別)	1029 (34.3%)
2. 結婚している	1971 (65.7%)

表 4 は、回答者の婚姻状態を見たものである。65.7%が結婚しており、34.3%が結婚していない。

回答者の職業

表 5 回答者の職業

全体	3000 (100%)
1. 会社員・役員	1034 (34.5%)
2. 自営業	148 (4.9%)
3. 専門職(医師、弁護士、美容師、デザイナー等)	105 (3.5%)
4. 公務員	136 (4.5%)
5. 学生	142 (4.7%)
6. 専業主婦・専業主夫	555 (18.5%)
7. パート・アルバイト・フリーター	412 (13.7%)
8. 無職・定年退職	427 (14.2%)
9. その他	41 (1.4%)

表 5 は、回答者の職業について見たものである。「1. 会社員・役員」が 34.5%と1番多く、次いで「6. 専業主婦・専業主夫」が 18.5%、「8. 無職・定年退職」が 14.2%、「7. パート・アルバイト・フリーター」が 13.7%で続いている。その他の職業は 1 割に満たない。

住居の形態

表 6 住居の形態

全体	3000 (100%)
1. 持ち家(一戸建て)	2245 (74.8%)
2. 持家(分譲マンション)	755 (25.2%)

表 6 は、回答者の住居の形態について見たものである。本調査の対象者は持家であり、一戸建てが約 4 分の 3(74.8%)、分譲マンションが約 4 分の 1(25.2%)である。

住宅の建築時期

表 7 住宅の建築時期

	全体	一戸建て	分譲マンション
全体	3000 (100%)	2245 (100%)	755 (100%)
1. 2011 年以降の建築	690 (23.0%)	527 (23.5%)	163 (21.6%)
2. 2001 年から 2010 年の建築	720 (24.0%)	509 (22.7%)	211 (27.9%)
3. 1981 年から 2000 年の建築	1137 (37.9%)	822 (36.6%)	315 (41.7%)
4. 1980 年以前の建築	453 (15.1%)	387 (17.2%)	66 (8.7%)

表 7 は、住宅の建築時期について見たものである。住宅の耐震性については、1981 年(6 月)以降は「新耐震基準」で建築されており(それまでは「旧耐震基準」である)、さらに、2000 年(6 月)以降は新耐震基準の厳格化が始まり「2000 年基準」と呼ばれる。「旧耐震基準」の建築物は 15.1% であり、「新耐震基準」を満たす建築物は 84.9%(内、2000 年基準を満たす物件が約半数(47.0%)である。

なお、一戸建てと分譲マンションで建築時期を比較すると、一戸建てに 1980 年以前(旧耐震基準)の建築物が多い。

3. 本調査の結果（単純集計）

Q1. ご自身の住居は次のどれに当てはまりますか。当てはまるものを一つ選んで下さい。

表 8 住居の階層

全体	3000 (100%)
1. 一戸建て	2245 (74.8%)
2. 高層建物の 1 階部分	70 (2.3%)
3. 高層建物の 2 階部分	69 (2.3%)
4. 高層建物の 3 階部分	90 (3.0%)
5. 高層建物の 4 階から 10 階部分	377 (12.6%)
6. 高層建物の 11 階以上の部分	83 (2.8%)
7. その他	66 (2.2%)

表 8 は、回答者の住居の階層について見たものである。分譲マンション居住者は 755 人であり、その内、「5. 高層建物の 4 階から 10 階部分」が 12.6%と 1 番多い(その他の階層はいずれも 2～3%である)。

Q2. ご自身の住居の構造としても最も当てはまるものは次のどれですか。当てはまるものを一つ選んで下さい。

表 9 住居の建築構造

	全体	一戸建て	分譲マンション
全体	3000 (100%)	2245 (100%)	755 (100%)
1. 木造住宅	1687 (56.2%)	1687 (75.1%)	0 (0.0%)
2. 鉄骨造住宅	359 (12.0%)	312 (13.9%)	47 (6.2%)
3. 鉄筋コンクリート造住宅	805 (26.8%)	142 (6.3%)	663 (87.8%)
4. その他	19 (0.6%)	13 (0.6%)	6 (0.8%)
5. わからない	130 (4.3%)	91 (4.1%)	39 (5.2%)

表 9 は、住居の建築構造について見たものである。過半数(56.2%)が木造であり、次いで、鉄筋コンクリート造が 26.8%、鉄骨造が 12.0%である。

一戸建てと分譲マンションで分けて見ると、戸建ての 4 分の 3(75.1%)が木造であり、鉄骨造が 13.9%、鉄筋コンクリート造が 6.3%である。マンションについては 9 割弱(87.8%)が鉄筋コンクリート造である。

Q3. ご自身の住居について住宅ローンの残高は残っていますか。当てはまるものを一つ選んで下さい。

表 10 住宅ローン残高

全体	3000 (100%)
1. 年収の 3 倍以上の残高がある	450 (15.0%)
2. 年収の 2 倍以上 3 倍未満の残高がある	177 (5.9%)
3. 年収の同額以上 2 倍未満の残高がある	179 (6.0%)
4. 年収よりは少ない額の残高がある	153 (5.1%)
5. 住宅ローンは返済済みである	1126 (37.5%)
6. 住宅ローンの残高の状況はわからない	272 (9.1%)
7. もともと住宅ローンを利用せずに住宅を購入(相続などを含む)した	643 (21.4%)

表 10 は、持家の住宅ローン残高について見たものである。「5. 住宅ローンは返済済みである」が 37.5%、「7. もともと住宅ローンを利用せず住宅を購入した」が 21.4%である。

現在、住宅ローン返済中の方は 959 人(全体の 32.0%)であり、ローン返済中 959 人の内、「1. 年収の 3 倍以上の残高がある」が 46.9%と半数近くを占めている。

Q4. 現在、家計全体でのお持ちの金融資産(預金や有価証券など)は、ご自身の住居の価値(同等の住居を新たに購入するために必要な金額)を100としたとき、どの程度になりますか。当てはまるものを一つ選んで下さい。

表 11 金融資産残高 (住居価値を基準)

全体	3000 (100%)
1. 100 以上(つまり、金融資産を現金化すれば同等の住居をあらたに購入可能である)	520 (17.3%)
2. 75 以上 100 未満	239 (8.0%)
3. 50 以上 75 未満	321 (10.7%)
4. 25 以上 50 未満	401 (13.4%)
5. 10 以上 25 未満	276 (9.2%)
6. ゼロではないが 10 未満	228 (7.6%)
7. ゼロ	90 (3.0%)
8. わからない	925 (30.8%)

表 11 は、家計全体の金融資産残高を、住居の価値を基準(100)として見たものである。「8. わからない」が 30.8%と 1 番多いが、把握している人の内、「100 以上(金融資産で同等の住居を購入することが可能)」が 17.3%と 1 番多く、次いで「25 以上 50 未満(住居の価値の 4 分の 1~半分程度の金融資産の保有)」が 13.4%、「50 以上 75 未満(住居の価値の半分~4 分の 3 程度)」が 10.7%である。

Q5. ご自身の住居の立地の洪水リスク(想定最大規模)について、ハザードマップではどのように示されていますか。当てはまるものを一つ選んで下さい。

表 12 居住地の洪水リスク

全体	3000 (100%)
1. 浸水深 0～0.5 メートル未満	999 (33.3%)
2. 浸水深 0.5 メートル以上～1 メートル未満	143 (4.8%)
3. 浸水深 1 メートル以上～3 メートル未満	168 (5.6%)
4. 浸水深 3 メートル以上～5 メートル未満	78 (2.6%)
5. 浸水深 5 メートル以上	133 (4.4%)
6. ハザードマップで確認したことはあるが忘れた	530 (17.7%)
7. ハザードマップは知っているが、立地を確認したことはない	832 (27.7%)
8. ハザードマップを知らない	117 (3.9%)

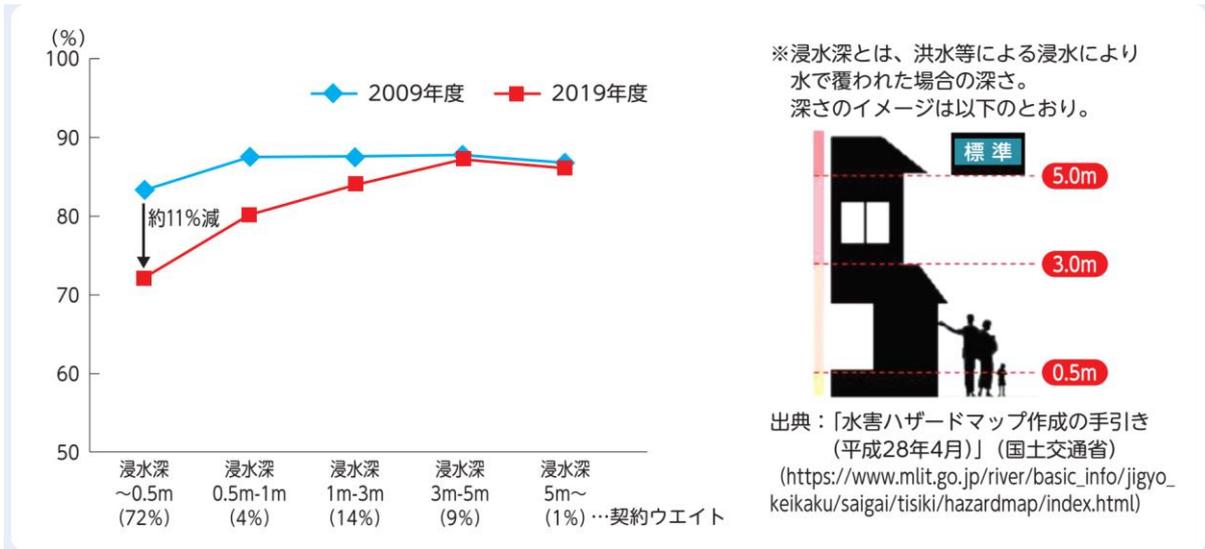
表 12 は、居住地の洪水リスクについて見たものである。「6. ハザードマップで確認したことはあるが忘れた」が 17.7%、「7. ハザードマップは知っているが、立地を確認したことはない」が 27.7%、「8. ハザードマップを知らない」が 3.9%である。

ハザードマップで洪水リスクを確認し、浸水深を把握している人は 1521 人(全体の 50.7%)であり、その内、999 人(確認し把握している人の 65.7%)が「浸水深 0～0.5 メートル未満」である。

図 2 には、水災補償にかかる浸水深区分別の付帯率を示している。2009 年度と比べると 2019 年度の水災補償の付帯率は特に浸水深の小さい立地で低下が目立つ。これは、水災料率が全国で一律であり、リスクに比べて割高と感じる人が加入を止めている部分もあると分析されている。

なお、図 2 によると、「浸水深 0～0.5 メートル未満」が契約者の 72%を占めている。表 12 において、浸水深の具体的な回答のない 1479 人を除いて比率を計算すると、「浸水深 0～0.5 メートル未満」は 71.9%となり、ほぼ同じ水準である。本調査の回答者の居住地に著しい偏りがないといえる。

図 2 水災補償にかかる浸水深区分別の付帯率（東京都の例）



※マンションに住む契約者は除きます。
 ※損害保険料率算出機構火災保険統計と国管理河川による計画規模の洪水ハザードマップに基づく浸水シミュレーションデータ（国土交通省）を基に損害保険料率算出機構にて作成

（出所）損害保険料率算出機構「2,021 年度 火災保険・地震保険の概況」2022 年 4 月。

https://www.giroj.or.jp/publication/outline_k/k_2021.pdf#view=fitV

Q6. ご自身の住居の立地の土砂災害リスクについて、ハザードマップではどのように示されていますか。当てはまるものを一つ選んで下さい。

表 13 居住地の土砂災害リスク

全体	3000 (100%)
1. 土砂災害リスクがある地域	241 (8.0%)
2. 土砂災害リスクがない地域	1692 (56.4%)
3. ハザードマップで確認したことはあるが、土砂災害リスクの内容は忘れた	215 (7.2%)
4. ハザードマップは知っているが、土砂災害リスクを確認したことはない	745 (24.8%)
5. ハザードマップを知らない	107 (3.6%)

表 13 は、居住地の土砂災害リスクについて見たものである。過半数(56.4%)が「2. 土砂災害リスクがない地域」に居住しており、241 人(8.0%)が「1. 土砂災害リスクがある地域」に居住している。「4. ハザードマップは知っているが、土砂災害リスクを確認したことはない」が約 4 分の 1 (24.8%)である。

Q7. 以下の災害から、ご自身の住居に関して全壊に相当する損害(建物価値の50%以上が損耗)が発生する可能性をどの程度、心配されていますか。それぞれについて当てはまるものを一つ選んで下さい。

表 14 災害による住宅の損害に対する心配度 (分布)

	全体	非常に心配	ある程度心配	少し心配	ほとんど心配していない	全く心配していない	わからない
1. 地震	3000 (100%)	732 (24.4%)	1020 (34.0%)	731 (24.4%)	338 (11.3%)	105 (3.5%)	74 (2.5%)
2. 火山噴火	3000 (100%)	82 (2.7%)	174 (5.8%)	317 (10.6%)	702 (23.4%)	1632 (54.4%)	93 (3.1%)
3. 津波	3000 (100%)	145 (4.8%)	201 (6.7%)	300 (10.0%)	652 (21.7%)	1630 (54.3%)	72 (2.4%)
4. 高潮・洪水・浸水	3000 (100%)	187 (6.2%)	351 (11.7%)	457 (15.2%)	718 (23.9%)	1220 (40.7%)	67 (2.2%)
5. 土砂災害	3000 (100%)	112 (3.7%)	240 (8.0%)	461 (15.4%)	901 (30.0%)	1209 (40.3%)	77 (2.6%)

表 15 災害による住宅の損害に対する心配度 (平均値)

	有効サンプル数	平均値
1. 地震	2926	3.66
2. 火山噴火	2907	1.75
3. 津波	2928	1.83
4. 高潮・洪水・浸水	2933	2.17
5. 土砂災害	2923	2.02

表 14 は、災害による住宅の損害に対する心配度について尋ねたものである。「1. 地震」に対しては「非常に心配」が 24.4%、「ある程度心配」が 34.0%、「少し心配」が 24.4%であり、8 割以上 (82.8%) が心配している。

一方、「2. 火山噴火」や「3. 津波」については過半数の人が「全く心配していない」と回答しており(「全く心配していない」は火山噴火で 54.4%、津波で 54.3%)、「4. 高潮・洪水・浸水」と「5. 土砂災害」について「全く心配していない」は約 4 割(高潮・洪水・浸水で 40.7%、土砂災害で 40.3%)である。

なお、表 15 は、「非常に心配」を 5 点から、「全く心配していない」を 1 点に点数化して平均値を採ったものである(5 点満点で点数が高いほど心配度が高いことを意味する)。「1. 地震」に対する心配度が 3.66 点で 1 番高く、次いで「4. 高潮・洪水・浸水」に対する心配度が 2.17 点、「5. 土砂災害」(2.02 点)、「3. 津波」(1.83 点)、「2. 火山噴火」(1.75 点)で続いている。

Q8. 地震災害に対する備えとして、以下の中からあなたが実施しているものがあれば、全て選んで下さい。

表 16 地震災害に対する備え

全体	3000 (選択率)
1. 家具の固定	1305 (43.5%)
2. 持ち出し品の準備	1116 (37.2%)
3. 非常時の食料・物資の備蓄	1597 (53.2%)
4. 家族の緊急時の集合場所	695 (23.2%)
5. 自宅の免震性・耐震性の確認(耐震診断など)	532 (17.7%)
6. 住宅の耐震化に関する自治体の補助を受けたことがある	70 (2.3%)
7. 地域や職場、学校などで実施される避難訓練に参加している	357 (11.9%)
8. 被害の小さそうな場所への転居	65 (2.2%)
9. その他	24 (0.8%)
10. 何もしていない	688 (22.9%)

表 16 は、地震災害の備えについて尋ねたものである。「3. 非常時の食料・物資の備蓄」が 53.2%で 1 番多く、次いで「1. 家具の固定」が 43.5%、「2. 持ち出し品の準備」が 37.2%、「4. 家族の緊急時の集合場所」が 23.2%で続いている。「10. 何もしていない」は 22.9%である。

Q9. 次の①～⑩の各項目は、あなたにどの程度、当てはまりますか。「ぴったり当てはまる」から「全く当てはまらない」の5段階で評価して下さい。「忘れた／該当しない／当てはめられない」場合は、6を選んで下さい。

表 17 回答者の生活習慣や家計管理の考え方（分布）

	全体	ぴったり当てはまる	どちらかという当てはまる	どちらとも言えない	どちらかという当てはまらない	全く当てはまらない	忘れた／該当しない／当てはめられない
①現在の生活には経済的なゆとりがある	3000 (100%)	139 (4.6%)	870 (29.0%)	903 (30.1%)	588 (19.6%)	470 (15.7%)	30 (1.0%)
②死ぬまで生活に経済的な問題は起こらないと思う	3000 (100%)	106 (3.5%)	548 (18.3%)	1051 (35.0%)	593 (19.8%)	661 (22.0%)	41 (1.4%)
③自分は、同世代の平均的な人に比べて健康である	3000 (100%)	140 (4.7%)	878 (29.3%)	1218 (40.6%)	511 (17.0%)	218 (7.3%)	35 (1.2%)
④自分は、同世代の平均的な人に比べて慎重である	3000 (100%)	177 (5.9%)	1095 (36.5%)	1317 (43.9%)	302 (10.1%)	75 (2.5%)	34 (1.1%)
⑤自分の家計の経済状態に気をつけている	3000 (100%)	356 (11.9%)	1473 (49.1%)	814 (27.1%)	244 (8.1%)	73 (2.4%)	40 (1.3%)
⑥毎日、新聞を読む	3000 (100%)	729 (24.3%)	504 (16.8%)	342 (11.4%)	267 (8.9%)	903 (30.1%)	255 (8.5%)
⑦健康診断は欠かさず受診している	3000 (100%)	1035 (34.5%)	794 (26.5%)	473 (15.8%)	307 (10.2%)	314 (10.5%)	77 (2.6%)
⑧購入した株式の価格が下落して損失が生じてても、株式投資をしたことを後悔しない	3000 (100%)	236 (7.9%)	588 (19.6%)	793 (26.4%)	392 (13.1%)	409 (13.6%)	582 (19.4%)
⑨満期返戻金のない保険は、保険料の支払いだけで受け取りがなく、損だと思う	3000 (100%)	219 (7.3%)	620 (20.7%)	1244 (41.5%)	437 (14.6%)	268 (8.9%)	212 (7.1%)
⑩外出する前に、天気予報を確認する	3000 (100%)	892 (29.7%)	1419 (47.3%)	459 (15.3%)	148 (4.9%)	48 (1.6%)	34 (1.1%)

表 18 回答者の生活習慣や家計管理の考え方（平均値）

	有効サンプル数	平均値
①現在の生活には経済的なゆとりがある	2970	2.87
②死ぬまで生活に経済的な問題は起こらないと思う	2959	2.61
③自分は、同世代の平均的な人に比べて健康である	2965	3.07
④自分は、同世代の平均的な人に比べて慎重である	2966	3.34
⑤自分の家計の経済状態に気をつけている	2960	3.61
⑥毎日、新聞を読む	2745	2.96
⑦健康診断は欠かさず受診している	2923	3.66
⑧購入した株式の価格が下落して損失が生じてても、株式投資をしたことを後悔しない	2418	2.94
⑨満期返戻金のない保険は、保険料の支払いだけで受け取りがなく、損だと思う	2788	3.03
⑩外出する前に、天気予報を確認する	2966	4.00

表 17 は、回答者の生活習慣や家計管理等に対する考え方について尋ねたものである。なお、表 18 は、「ぴったり当てはまる」を 5 点から、「全く当てはまらない」を 1 点として点数化し平均値を採ったものである(点数が高いほど当てはまりの度合いが高いことを意味する)。

「ぴったり当てはまる」の高い項目を見ると、「⑦健康診断は欠かさず受診している」が 34.5%、「⑩外出する前に、天気予報を確認する」が 29.7%であり、平均値を見ても⑦が 3.66 点、⑩が 4.00 点と上位 1・2 位の高さである。

そして、「⑥毎日、新聞を読む」については「ぴったり当てはまる」が 24.3%と高いが、「全く当てはまらない」も 30.1%と高く、読む人と読まない人で 2 局化の様子がうかがえる。

また、「⑤自分の家計の経済状態に気を付けている」の平均値は 3.61 点と高いが、「ぴったり当てはまる」は 11.9%に過ぎず、「どちらかという当てはまる」が約半数(49.1%)と高い。

一方、平均値が低い項目を見ると、「①現在の生活には経済的なゆとりがある」が 2.87 点、「②死ぬまで生活に経済的な問題は起こらないと思う」が 2.61 点である。「①現在の生活には経済的なゆとりがある」の分布を見ると、「当てはまる(「ぴったり」と「どちらかという」の計)」は 33.6%、「当てはまらない(「全く」と「どちらかという」の計)」は 35.3%であり、経済的なゆとりを実感していない人の方が若干高い。同様に、「②死ぬまで生活に経済的な問題は起こらないと思う」について、「当てはまる」は 21.8%、「当てはまらない」は 41.8%であり、生涯の経済的な生活に対して不安を持つ人の方が多くなっている。

Q10. これまでに、ご自身が自然災害によって住居に大きな損害を受けた経験がありますか。当てはまるものを全て選んで下さい。

表 19 自然災害のよる住居損害の経験

全体	3000 (選択率)
1. 地震	430 (14.3%)
2. 火山噴火	18 (0.6%)
3. 津波	32 (1.1%)
4. 高潮・洪水・浸水	94 (3.1%)
5. 土砂災害	32 (1.1%)
6. 風害	176 (5.9%)
7. 雪害	80 (2.7%)
8. 上記の被災の経験はない	2316 (77.2%)

表 19 は、自然災害による住居の損害経験について、回答者自身の状況を尋ねたものである。8割弱(77.2%)が被災経験は無く、684 人(22.8%)が被災を経験している。内訳を見ると、地震が430 人で1 番多く(被災経験者 684 人の内 62.9%を占める)、次いで、風害が 176 人(被災経験者の 25.7%)である。

Q11. Q10 で、「上記の被災の経験はない」以外を選択した方にお尋ねします。最も大きな損害を受けたときの住居の被害状況はどのようなものでしたか。当てはまるものを一つ、選んで下さい。

表 20 住居の被害状況 (分布)

全体	684 (100%)
1. 50%以上の損害	45 (6.6%)
2. 30%以上 50%未満の損害	58 (8.5%)
3. 10%以上 30%未満の損害	130 (19.0%)
4. 10%未満の損害	382 (55.8%)
5. わからない	69 (10.1%)

表 21 住居の被害状況 (災害別・平均値)

	有効サンプル数	平均値
1. 地震	384	19.7%
2. 火山噴火	16	24.4%
3. 津波	27	28.5%
4. 高潮・洪水・浸水	80	21.3%
5. 土砂災害	28	21.1%
6. 風害	166	15.0%
7. 雪害	76	14.1%

表 20 は、自然災害により住居に大きな損害を受けた 684 人を対象に(Q10 の選択肢 1~7 選択者)、その被害状況について尋ねたものである。「10%未満の損害」が 55.8%で 1 番多く、次いで「10%以上 30%未満の損害」が 19.0%である。

なお、表 21 は、被害状況の階級の中央値を採り(「50%以上の損害」は 50%、「10%未満の損害」は 10%)、災害別で被害状況の平均値を比較したものである。津波による被害が 28.5%と 1 番大きく、雪害による被害が 14.1%と 1 番小さい。

Q12. Q10で、「上記の被災の経験はない」以外を選択した方にお尋ねします。最も大きな損害を受けた後、住居面で平常に復旧できる(建物の修理、再建、一時的ではない住居への転居)までどの程度の時間がかかりましたか。当てはまるものを一つ、選んで下さい。

表 22 住居の復旧期間

全体	684 (100%)
1. 2週間以内	254 (37.1%)
2. 2週間から1か月以内	95 (13.9%)
3. 1か月から3か月以内	84 (12.3%)
4. 3か月から6か月以内	39 (5.7%)
5. 6か月から1年以内	39 (5.7%)
6. 1年から2年以内	22 (3.2%)
7. 2年から3年以内	12 (1.8%)
8. 3年から5年以内	21 (3.1%)
9. 5年超	17 (2.5%)
10. 現在も復旧できていない	16 (2.3%)
11. わからない	85 (12.4%)

表 22 は、自然災害により住居に大きな損害を受けた 684 人を対象に(Q10 の選択肢 1~7 選択者)、住居の復旧期間について尋ねたものである。「2 週間以内」が 37.1%と 1 番多く、次いで「2 週間から 1 か月以内」が 13.9%、「1 か月から 3 か月以内」が 12.3%で続いている。半数(51.0%)が 1 ヶ月以内(63.3%が 3 か月以内)に復旧している。

他方で、1 年以上かかっている人が合計で 88 人(12.9%)いる。

Q13. Q10で、「上記の被災の経験はない」以外を選択した方にお尋ねします。その際に、保険金を受け取りましたか。当てはまるものを一つ、選んで下さい。

表 23 保険金の受取状況

全体	684 (100%)
1. 受け取った	237 (34.6%)
2. 受け取らなかった	335 (49.0%)
3. わからない	112 (16.4%)

表 23 は、自然災害により住居に大きな損害を受けた 684 人を対象に(Q10 の選択肢 1~7 選択者)、保険金の受取状況について尋ねたものである。「1. 受け取った」が 34.6%、「2. 受け取らなかった」が 49.0%、「3. わからない」が 16.4%であり、半数近くの人が保険金を受け取っていない。

表 24 保険金の受取状況別の住居面での影響が 1 年以上の場合

	長期影響	合計
保険金受け取った	15.7%	230
保険金受け取らなかった	12.8%	288

表 24 は、Q12 で「住居面で普通に復旧できる」までに 1 年以上かかったという人の比率を、保険金の受け取りの有無で分けてみたものである。ここでは、分からないという回答者を除いている。保険金を受け取ったら早期に住居面の復旧ができると想定したが、実際には、保険金の受け取りの有無は大きな影響はないようであり、表の数値だけから言うと、むしろ保険金を受け取ったの方が長期影響を受けているという結果となっている。その理由としては、保険金の支払いを受けるほどの大きな損害であった可能性と、保険金が十分ではなかった可能性が考えられる。

Q14. Q10で、「上記の被災の経験はない」以外を選択した方にお尋ねします。その際に、公的な各種の支援金を受け取りましたか。当てはまるものを一つ、選んで下さい。

表 25 公的支援金の受取状況

全体	684 (100%)
1. 受け取った	127 (18.6%)
2. 受け取らなかった	454 (66.4%)
3. わからない	103 (15.1%)

表 25 は、自然災害により住居に大きな損害を受けた 684 人を対象に(Q10 の選択肢 1~7 選択者)、公的な支援金の受取状況について尋ねたものである。「1. 受け取った」が 18.6%、「2. 受け取らなかった」が 66.4%、「3. わからない」が 15.1%であり、過半数以上の人が公的支援金を受け取っていない。

表 26 公的支援の受取状況別の住居面での影響が 1 年以上の場合

	長期影響	合計
公的支援受け取った	22.4%	125
公的支援受け取らなかった	12.5%	400

表 26 は、Q12 で「住居面で平常に復旧できる」までに 1 年以上かかったという人の比率を、公的な支援金の受け取りの有無で分けてみたものである。ここでは、分からないという回答者を除いている。「公的支援受け取った」人の方が長期影響を受けている結果となっている。これは、公的支援の対象になるほどの大きな被害を受けているためであると思われる。

Q15. Q10で、「上記の被災の経験はない」以外を選択した方にお尋ねします。被災の経験によって、あなたの保険に対する加入意欲に影響はありましたか。当てはまるものを一つ、選んで下さい。

表 27 保険の加入意欲に対する変化

全体	684 (100%)
1. 大きく高まった	70 (10.2%)
2. 高まった	148 (21.6%)
3. 少し高まった	192 (28.1%)
4. ほとんど変化なかった	172 (25.1%)
5. 全く変化なかった	54 (7.9%)
6. わからない	48 (7.0%)

表 27 は、自然災害により住居に大きな損害を受けた 684 人を対象に(Q10 の選択肢 1～7 選択者)、保険の加入意欲に対する変化について尋ねたものである。「3. 少し高まった」が 28.1%と 1 番多く、次いで「4. ほとんど変化なかった」が 25.1%、「2. 高まった」が 21.6%で続いている。保険の加入意欲が高まった(「大きく高まった」・「高まった」・「少し高まった」の計)は約 6 割(59.9%)であり、過半数以上が被災の経験により保険の加入意欲が高まっている。

Q16. 現在、お住まいの住宅(マンションにおいては、専有部分)および家財の地震保険等に加入していますか。それぞれについて加入状況として当てはまるものを一つ選んで下さい。

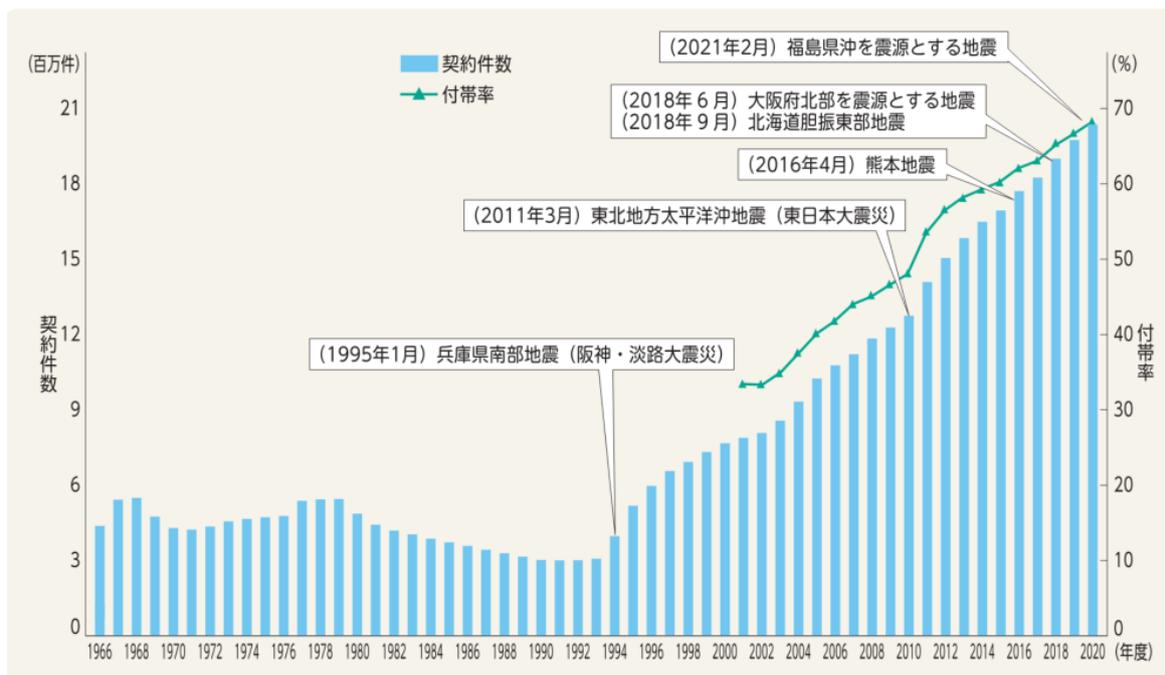
表 28 地震保険の加入状況

	全体	加入している	加入していない	わからない
1. 建物の地震保険	3000 (100%)	1648 (54.9%)	884 (29.5%)	468 (15.6%)
2. 家財の地震保険	3000 (100%)	1225 (40.8%)	1203 (40.1%)	572 (19.1%)
3. 建物更生共済(JA)	3000 (100%)	237 (7.9%)	1994 (66.5%)	769 (25.6%)
4. その他の地震損害を補償する保険	3000 (100%)	208 (6.9%)	1932 (64.4%)	860 (28.7%)

表 28 は、地震保険の加入状況について見たものである。建物の加入者は 54.9%（非加入者は 29.5%）、家財の加入者は 40.8%（非加入者は 40.1%）である。

図 3 は、地震保険の付帯率の推移を示している。2000 年代を通じて、付帯率は着実の上昇しており、2020 年度には 68.3% に達している。本調査の「建物の地震保険」の付帯率は、「わからない」を除くと、65.1% となるのでほぼ同じ水準であるといえる。

図 3 地震保険の契約件数、付帯率の推移



(出所) 損害保険料率算出機構。

Q17. 地震保険に加入するか否かについて、次の中から助言を受けたり、参考にしたりしたものをすべて選んで下さい。

表 29 地震保険の加入の有無に影響を与えたもの

全体	3000 (選択率)
1. 保険会社の代理店(対面を伴うもの)	557 (18.6%)
2. 住宅ローンの貸し手(銀行など)	217 (7.2%)
3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	316 (10.5%)
4. 家族や知人	467 (15.6%)
5. ファイナンシャルプランナー(FP)などの保険や金融の専門家(保険代理店を除く)	145 (4.8%)
6. 保険会社、代理店、比較サイトなどの HP	237 (7.9%)
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事	325 (10.8%)
8. 上記以外	45 (1.5%)
9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない	989 (33.0%)
10. わからない／忘れた	457 (15.2%)

表 29 は、地震保険に加入するか否かに影響を与えたものについて尋ねた結果である。「9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない」が 33.0%で 1 番多い。

1554 人(全体の 51.8%)については影響を受けたものがあり、その内、「1. 保険会社の代理店(対面を伴うもの)」が 557 人(1554 人の内 35.8%)、「4. 家族や知人」が 467 人(30.1%)、「7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事」が 325 人(20.9%)、「3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者」が 316 人(20.3%)で続いている。

Q18. Q16 で建物か家財の地震保険に加入していると回答した方にお尋ねします。下記の中に、割引の適用を受けているものがありますか。同時に適用されませんので、いずれか一つを選んで下さい。

表 30 割引適用状況

全体	1721 (100%)
1. 建築年割引	111 (6.4%)
2. 耐震等級割引	114 (6.6%)
3. 免震建築物割引	42 (2.4%)
4. 耐震診断割引	20 (1.2%)
5. 割引を受けているがどれかはわからない	170 (9.9%)
6. 割引を受けているかどうかわからない	696 (40.4%)
7. 割引を受けていない	568 (33.0%)

表 30 は、建物または家財の地震保険加入者 1721 人を対象に、保険料の割引の適用状況について尋ねたものである。「6. 割引を受けているかどうかわからない」が 40.4%と 1 番多く、割引の適用状況について把握していない人が多い。

割引を受けていることが明確な人(選択肢 1~5 選択者)は 457 人(地震保険加入者 1721 人中 26.6%)であるが、その内、「5. 割引を受けているがどれかはわからない」が 170 人(457 人中 37.2%)である。

そして、「7. 割引を受けていない」は 568 人(地震保険加入者の 33.0%)である。表 31 には、地震保険全体の割引提供状況を示している。「保有」でみると、地震保険契約 2036 万件の内、「割引なし」が 30.1%である。それと比較するとそれほどおかしい数字ではない。一方で、表 7 によると、「1980 年以前の建築」は 15.1%しかなく、基本的には 85%は建築年割引の対象になるはずである³。建築年の記憶がはっきりしない場合もあると思われるが、「割引を受けているかどうかわからない」の大半は建築年割引を受けているものと予想される。

また、表 31 によると、耐震等級割引は合計 7.8%、免震建築物割引は 0.3%、耐震診断割引は 0.1%となっており、表 30 の方が数値が高い。したがって、「5. 割引を受けているがどれかはわからない」や「6. 割引を受けているかどうかわからない」の大半が建築年割引を受けているとすると、全国と大きく変わらない数値となる(56.7%)。建築年割引については意識されることが少なく、インセンティブとしては十分に機能していないことを示している。

³ 建築年割引の対象は、1981 年 6 月 1 日以降に新築された建物とされている。

表 31 地震保険 割引種類別統計表 (2020 年度)

割引種類		新 契 約			保 有	
		件 数	保 険 金 額 百万円	保 険 料 千円	件 数	保 険 金 額 百万円
割引あり	免震建築物	28,413	295,098	769,327	70,968	731,817
	耐震等級3	427,647	6,270,175	17,692,529	1,152,676	17,111,322
	耐震等級2	59,790	760,162	2,623,604	156,798	2,048,033
	耐震等級1	103,632	848,421	3,942,494	276,494	2,191,622
	耐震診断	11,346	116,131	735,169	27,040	282,406
	建築年	5,740,396	54,573,028	226,997,411	12,537,156	130,493,629
割引なし		3,188,765	20,019,104	83,552,572	6,134,330	42,163,017
合 計		9,559,989	82,882,120	336,313,105	20,355,462	195,021,847

※1 「保険料」は異動・解約にかかる保険料を加減していません。

※2 「件数」は証券件数を表します。

(出所)損害保険料率算出機構「火災保険・地震保険の概況 2021 年度(2020 年度統計)」

Q19. Q16 で建物の地震保険に加入していると回答した方にお尋ねします。地震保険の保険金額は、火災保険の金額の何%に設定していますか。当てはまるものを一つ選んで下さい。

表 32 地震保険の保険金額の設定

全体	1648 (100%)
1. 100%(火災保険金額と同額)	136 (8.3%)
2. 50%超~100%未満	145 (8.8%)
3. 50%ちょうど	271 (16.4%)
4. 30%超~50%未満	77 (4.7%)
5. 30%ちょうど	31 (1.9%)
6. 30%未満	51 (3.1%)
7. わからない	937 (56.9%)

表 32 は、建物の地震保険加入者 1648 人を対象に、保険金額の設定(火災保険の保険金額の何割か)について尋ねたものである。6 割弱(56.9%)が「わからない」と回答している。

なお、地震保険の保険金額は、火災保険の保険金額の30%～50%の範囲内で設定することになっている。したがって、この回答のうち、「1. 100%(火災保険金額と同額)」、「2. 50%超～100%未満」、「6. 30%未満」の合計332人(20.1%)は保険金額について誤認している可能性がある。制度的に妥当な回答である「30%～50%で設定したと回答した人は379人(23.0%)にとどまっている。非常の多くの人々が地震保険の補償額について把握していないことがうかがえる。

Q20. Q16で建物の地震保険に加入していると回答した方にお尋ねします。地震保険はだれの勧めで入りましたか。当てはまるものをすべて選んで下さい。

表 33 建物の地震保険加入の勧誘

全体	1648 (選択率)
1. 自分自身の考え	765 (46.4%)
2. 保険会社の代理店の勧め	223 (13.5%)
3. 住宅ローンの貸し手(銀行など)の勧め	164 (10.0%)
4. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者の勧め	235 (14.3%)
5. 家族や知人の勧め	366 (22.2%)
6. ファイナンシャルプランナー(FP)などの保険や金融の専門家(保険代理店を除く)の勧め	52 (3.2%)
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの推奨記事	68 (4.1%)
8. 学校での保険教育	8 (0.5%)
9. 上記以外	51 (3.1%)
10. わからない/忘れた	161 (9.8%)

表 33 は、建物の地震保険加入者 1648 人を対象に、加入を勧めた人(加入のきっかけとなった媒体)について尋ねたものである。半数近く(46.4%)が「1. 自分自身の考え」で加入している。

自分自身の考え以外で加入した人について見ると、「5. 家族や知人の勧め」が 22.2%と 1 番多く、次いで、「4. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者の勧め」が 14.3%、「2. 保険会社の代理店の勧め」が 13.5%、「3. 住宅ローンの貸し手(銀行など)の勧め」が 10.0%で続いている。加入の経緯については、自分自身の考えや親族等の勧めに加え、住宅購入の過程で関わる業者や金融機関の影響も大きい。

Q21. Q16 で建物の地震保険に加入していると回答した方にお尋ねします。地震保険に加入している理由として当てはまるものを全て選んで下さい。

表 34 建物の地震保険に加入している理由

全体	1648 (選択率)
1. 住宅ローンの条件とされたから	252 (15.3%)
2. 地震被災後の住宅ローンの支払い負担を軽減できるから	151 (9.2%)
3. 多くの人が入っているから	169 (10.3%)
4. 政府が加入を勧めているから	37 (2.2%)
5. 勧めてくれる人・会社があったから	164 (10.0%)
6. 地震被災後の住宅再建の費用をまかなう必要があるから	545 (33.1%)
7. 地震被災後の生活資金をまかなうことができるから	362 (22.0%)
8. 保険料負担が大きくないから	274 (16.6%)
9. 特に理由はない	233 (14.1%)
10. わからない	110 (6.7%)

表 34 は、建物の地震保険加入者 1648 人を対象に、加入している理由について尋ねたものである。「6. 地震被災後の住宅再建の費用をまかなう必要があるから」が 33.1%で 1 番多く、次いで「7. 地震被災後の生活資金をまかなうことができるから」が 22.0%で続いている。地震被災後の資金面を考えて加入している人が多い。

Q22. Q16 で建物の地震保険に加入していないと回答した方にお尋ねします。地震保険に加入しない理由として当てはまるものを全て選んで下さい。

表 35 地震保険非加入の理由

全体	884 (選択率)
1. 大きな地震が起こりそうにない	86 (9.7%)
2. 建物の免震性や耐震性が高いので、被害を受けるとは思えない	134 (15.2%)
3. 保険料がリスクに見合わない	294 (33.3%)
4. 補償が限られている	218 (24.7%)
5. 保険料を負担できない	152 (17.2%)
6. 加入する機会がなかった	82 (9.3%)
7. 地震保険のしくみがよくわからない	85 (9.6%)
8. 地震保険の存在を知らなかった	15 (1.7%)
9. 家族や知人から地震保険は不要だと聞いたことがある	33 (3.7%)
10. その他	53 (6.0%)
11. 理由はない	155 (17.5%)

表 35 は、建物の地震保険非加入者 884 人を対象に、非加入の理由について尋ねたものである。「3. 保険料がリスクに見合わない」が 33.3%と 1 番多く、次いで「4. 補償が限られている」が 24.7%、「5. 保険料を負担できない」が 17.2%で続いている(「11. 理由はない」も 17.5%と多い)。費用面(費用対効果)の理由から加入していない人が多い。

Q23. もし地震によって自宅が全壊したら、自宅の再建の資金をどのように手当てされますか。予定しているものを全て選んで下さい。

Q25. 住宅再建のための資金源としてあてにしているもののうち、重要なものを3つまで選んで下さい。(3つまで)

表 36 地震による自宅の再建資金

全体	3000 (選択率)	1871 (選択率)
1. 地震保険	1250 (41.7%)	1203 (64.3%)
2. 火災保険(地震保険を除く)	720 (24.0%)	789 (42.2%)
3. 公的支援金(被災者生活再建支援金など)	549 (18.3%)	614 (32.8%)
4. 自身の預貯金	1207 (40.2%)	1242 (66.4%)
5. 自身の預貯金以外の金融資産(有価証券など)	340 (11.3%)	340 (18.2%)
6. 親族からの資金援助	120 (4.0%)	98 (5.2%)
7. 銀行等からの借り入れ	231 (7.7%)	187 (10.0%)
8. 土地の売却代金	97 (3.2%)	103 (5.5%)
9. その他	49 (1.6%)	46 (2.5%)
10. 自宅の再建は諦める(借り家に住むや、親族の住宅に同居するなど)	279 (9.3%)	
11. そうしたことは起こることはないので、考えたことはない	120 (4.0%)	
12. そうしたことは起こるかもしれないが、考えたことはない	730 (24.3%)	

表 36 は、地震により自宅が全壊した場合、自宅の再建資金について尋ねたものである(左列は全員に、右列は選択肢 1~9 を選択した人について、重要なものを 3 つまで選択して貰った結果である)。

まず、全員対象を見ると(左列)、約 4 分の 1(24.3%)は「12. そうしたことは起こるかもしれないが、考えたことはない」と回答している。

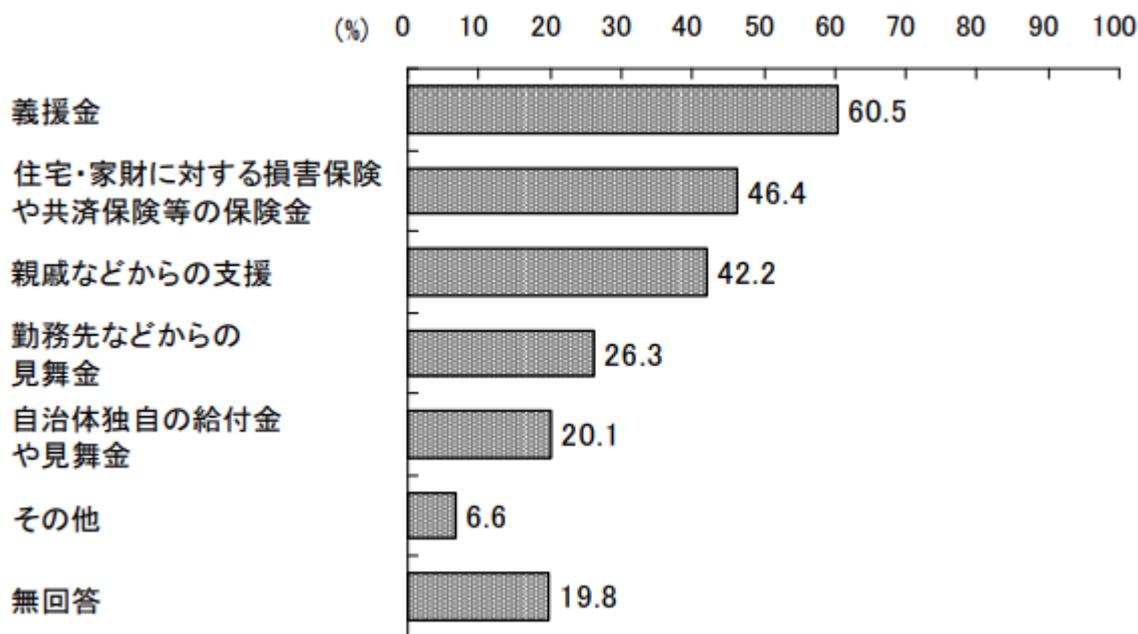
そして、再建資金を考えている 1871 人の選択率を見ると、「1. 地震保険」が 41.7%と 1 番多く、次いで、「4. 自身の預貯金」が 40.2%、「2. 火災保険(地震保険を除く)」が 24.0%、「3. 公的支援金」が 18.3%で続いている。

なお、再建資金を考えている人に対し、重要なものを 3 つ選択して貰った結果を見ると(右列)、「4. 自身の預貯金」が 66.4%と 1 番多くなっており、次いで「1. 地震保険」が 64.3%である。

東日本大震災で全壊被害に遭った住宅の新築費用は、平均して約 2,500 万円で、それに対して公的支援として受給できたのは、義援金約 100 万円と被災者生活再建支援金 300 万円の合計約 400 万円であり、残りの 2100 万円の資金調達が必要であったとされている⁴。

また、内閣府の自然災害の被災者に対するアンケート調査によると、国の支援金以外で、現金の給付による支援を受けた又は受ける予定が図 4 にまとめている⁵。義援金以外には、保険金が重要である、親戚からの支援が続いている。

図 4 支援金以外の資金の活用状況 (1,403 世帯)



⁴ <https://www.bousai.go.jp/kyoiku/hokenkyousai/hiyou.html>

⁵ 内閣府（防災担当）「被災者へのアンケート調査結果」2011年

https://www.bousai.go.jp/kaigirep/kentokai/hisaishashien/pdf/daikai/siryos3_3.pdf

Q24. Q23 で地震保険を選んだ方にお尋ねします。自宅の再建費用の内、地震保険でどの程度をまかなうことを見込んでいますか。下記の中から最も当てはまるものを一つ選んで下さい。

表 37 地震保険による再建費用の補填率

全体	1250 (100%)
1. 100%程度(ほぼ全て)	99 (7.9%)
2. 90%程度	33 (2.6%)
3. 80%程度	106 (8.5%)
4. 70%程度	92 (7.4%)
5. 60%程度	60 (4.8%)
6. 50%程度	318 (25.4%)
7. 40%程度	45 (3.6%)
8. 30%程度	124 (9.9%)
9. 20%程度	40 (3.2%)
10. 10%程度	13 (1.0%)
11. 0%程度(ごくわずか)	11 (0.9%)
12. わからない	309 (24.7%)

表 37 は、地震により自宅が全壊した場合、住宅再建の資金源として地震保険を選んだ 1250 人を対象に、地震保険でどの程度、住宅再建資金を賄う予定か尋ねたものである。「50%程度」と回答した人が 25.4%と 1 番多く、309 人(24.7%)が「わからない」と回答している。

なお、仮に火災保険金額を現在の住宅の再建費用の 100%としていた場合、地震保険は最大でもその 50%までとなるが、新しい住宅は現在の住宅よりも安いものを建てるなどすることができるので、この回答については上限や下限は存在しない。

Q26. 火災保険では、追加的な保険料を支払うことで、水災の損害(水災補償)を対象にすることができます。台風、暴風雨、豪雨等による洪水・融雪洪水・高潮・土砂崩れ・落石等が、この水災補償の対象になります。

逆に言えば、これらの水災は、通常の火災保険だけでは保険の対象になりません。こうした火災保険や水災補償の内容についてご存じですか。当てはまるものを一つ選んで下さい。

表 38 火災保険の水災補償の認知度

全体	3000 (100%)
1. しっかりと知っていた	232 (7.7%)
2. おおよそ知っていた	805 (26.8%)
3. 部分的に知っていた	824 (27.5%)
4. 知らなかった	1139 (38.0%)

表 38 は、火災保険の水災補償の特約の認知度について尋ねたものである。「4. 知らなかった」が 1139 人(38.0%)である。知っている 1861 人の理解度について見ると、「3. 部分的に知っていた」が 27.5%で1番多く、次いで「2. おおよそ知っていた」が 26.8%、「1. しっかりと知っていた」は 7.7%である。過半数が火災保険の水災補償の特約について知っているものの、しっかり理解している人は少ない。

Q27. 現在、お住まいの住宅(マンションにおいては、専有部分)および家財の火災保険(共済なども含みます)の加入についてお尋ねします。当てはまるものを一つ選んで下さい。なお、火災保険は、水災補償を含んだものとそうでないものがありますので、それを区別してお答えください。

表 39 火災保険の加入状況

	建物	家財
全体	3000 (100%)	3000 (100%)
1. 火災保険には加入しており、水災補償も付加している	666 (22.2%)	551 (18.4%)
2. 火災保険には加入しているが、水災補償は付加していない	892 (29.7%)	743 (24.8%)
3. 火災保険に加入しているが、水災補償を付加しているかはわからない	690 (23.0%)	649 (21.6%)
4. 火災保険に加入しているかどうかわからない	362 (12.1%)	422 (14.1%)
5. 火災保険に加入していない	390 (13.0%)	635 (21.2%)

表 39 は、火災保険(水災補償の有無別)の加入状況について尋ねたものである。建物・家財ともに「2. 火災保険には加入しているが、水災補償は付加していない」が 1 番多い(建物 29.7%・家財 24.8%)。次いで、「3. 火災保険に加入しているが、水災補償を付加しているかはわからない」が多く(建物 23.0%・家財 21.6%)、水災補償を付加した火災保険に加入している人は、約 2 割である(建物 22.2%、家財 18.4%)。

Q28. 火災保険に水災補償を付加するか否かについて、助言を受けたり、参考にしたりしたものを次の中からすべて選んで下さい。

表 40 火災保険の水災補償付加の有無に影響を与えたもの

全体	3000 (選択率)
1. 保険会社の代理店	541 (18.0%)
2. 住宅ローンの貸し手(銀行など)	147 (4.9%)
3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	233 (7.8%)
4. 家族や知人	327 (10.9%)
5. ファイナンシャルプランナー(FP)などの保険や金融の専門家(保険代理店を除く)	122 (4.1%)
6. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事	223 (7.4%)
7. 学校での保険教育	23 (0.8%)
8. 上記以外	64 (2.1%)
9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない	1200 (40.0%)
10. わからない／忘れた	544 (18.1%)

表 40 は、火災保険に水災補償を付加するか否かに影響を与えたものについて尋ねた結果である。「9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない」が 40.0%で 1 番多い。

一方、1256 人(全体で 41.9%)が影響を与えたものがあり、その内、「1. 保険会社の代理店」が 541 人(1256 人の内 43.1%)、「4. 家族や知人」が 327 人(1256 人の内 26.0%)であり、保険会社の代理店や家族・知人の影響が大きい。

Q29. 火災保険に水災補償を付けていない方にお尋ねします。水災補償を付けていない理由として当てはまるものを全て選んで下さい。

表 41 火災保険に水災補償を付加していない理由

全体	970 (選択率)
1. 水災補償の内容及よくわかっているが、不要だと判断した	184 (19.0%)
2. 大きな洪水が起こりそうにない	296 (30.5%)
3. 立地から洪水の被害を受けそうにない	476 (49.1%)
4. 建物の構造(たとえば、高層階)から、洪水の被害を受けるとは思えない	130 (13.4%)
5. 保険料がリスクに見合わない	72 (7.4%)
6. 補償が限られている	46 (4.7%)
7. 保険料を負担できない	42 (4.3%)
8. 加入する機会がなかった	39 (4.0%)
9. 水災補償の内容及よくわからない	43 (4.4%)
10. 水災補償の存在を知らなかった	98 (10.1%)
11. 家族や知人から水災補償は不要だと聞いたことがある	14 (1.4%)
12. その他	10 (1.0%)
13. 理由はない	105 (10.8%)

表 41 は、火災保険に水災補償を付加していない 970 人を対象に、その理由について尋ねたものである。「3. 立地から洪水の被害を受けそうにない」の選択率が半数(49.1%)と 1 番多く、次いで「2. 大きな洪水が起こりそうにない」が 30.5%、「1. 水災補償の内容及よくわかっているが、不要だと判断した」が 19.0%、「4. 建物の構造(たとえば、高層階)から、洪水の被害を受けるとは思えない」が 13.4%で続いている。全体的に、立地や建物の構造から必要無いと判断して付加していない人が多い。

Q30. ご自身は、金融に関する知識をどの程度お持ちとお考えですか。①金融全般、②資産運用、③損害保険の3つの面について、下記から当てはまるものをそれぞれ一つお選びください。

表 42 金融に関する知識の自己評価

	①金融全般	②資産運用	③損害保険
全体	3000 (100%)	3000 (100%)	3000 (100%)
1. 平均よりもかなり詳しい	145 (4.8%)	130 (4.3%)	74 (2.5%)
2. 平均よりも詳しい	313 (10.4%)	309 (10.3%)	161 (5.4%)
3. 平均的	990 (33.0%)	887 (29.6%)	912 (30.4%)
4. 平均よりも少し劣る	439 (14.6%)	468 (15.6%)	605 (20.2%)
5. 平均よりもかなり劣る	691 (23.0%)	776 (25.9%)	794 (26.5%)
6. わからない	422 (14.1%)	430 (14.3%)	454 (15.1%)

表 42 は、金融に関する知識を「①金融全般」、「②資産運用」、「③損害保険」に分け、これらの知識の主観的な評価について尋ねたものである。いずれの金融知識についても、「3. 平均的」と回答する人が 1 番多く、「①金融全般」については 33.0%、「②資産運用」は 29.6%、「③損害保険」は 30.4%の選択率である。

なお、自己評価を「詳しい(「かなり」を含む)」と「劣る(「少し」と「かなり」の計)」で分けて見ると、「①金融全般」について「詳しい」は 15.2%、「劣る」は 37.6%、「②資産運用」について「詳しい」は 14.6%、「劣る」は 41.5%、「③損害保険」について「詳しい」は 7.9%、「劣る」は 46.7%であり、いずれの知識についても「劣る」と回答する人が「詳しい」を上回る。特に「損害保険」の知識については「詳しい」と評価する人は 1 割を切り(7.9%)、他に比べても少ない。

Q31. 次の説明文は正しいと思いますか。「正しい」、「誤り」の中から、適切であると思うものをそれぞれ一つお選び下さい。わからない場合は、「わからない」を選んで下さい。

表 43 金融リテラシーの水準⁶

	全体	正しい	誤り	わからない
1. 100 万円の現金を1年満期の銀行預金(年利子率 2%)に預けて、5 年間、同条件で更新しながら運用したら、5 年後には 110 万円を受け取れる。(税率はゼロとする)。	3000 (100%)	1063 (35.4%)	1158 (38.6%)	779 (26.0%)
2. インフレ率が年率 5%であり、銀行預金の年利子率が 3%であるとして、1 年間、銀行預金をしておくと、満期時に預金で買える財やサービスの量は一般的に減少する。	3000 (100%)	1487 (49.6%)	280 (9.3%)	1233 (41.1%)
3. 一般的に、一社の株式を購入する方が、株式投資信託(多くの会社の株式に投資)を購入するよりも、投資収益は安定する。	3000 (100%)	206 (6.9%)	1595 (53.2%)	1199 (40.0%)
4. 一般に、利子率が上昇すると、債券価格も上昇する。	3000 (100%)	760 (25.3%)	754 (25.1%)	1486 (49.5%)
5. インフレは一般的に、借金をして住宅を購入する人にとって有利なことである。	3000 (100%)	759 (25.3%)	876 (29.2%)	1365 (45.5%)

表 43 は、回答者の金融リテラシーの水準について見たものである(■のセルが正答者を表す)。

まず、正答率が高い問題は設問 3 の分散投資の理解であり、53.2%が正答している。次いで、設問 2 のインフレーションと金利の関係(実質金利)の理解であり、49.6%の正答率である。

逆に、正答率が低い問題は、設問 4 の利子率と債券価格の関係(正答率は 25.1%)と設問 5 のインフレーションと貨幣価値の関係(正答率は 25.3%)である。これらの設問については「わからない」の選択率が半数近くと高い。

なお、設問 1 の問題の正答率は 38.6%であるが、誤回答(「正しい」の選択者)は 35.4%と高い。設問 1 は複利計算の理解を見たものであるが、単利で計算している人が「正しい」を選択したものと考えられる。

Q32. 次の保険や地震保険に関する説明文は正しいと思いますか。「正しい」、「誤り」の中から、適切であると思うものをそれぞれ一つお選び下さい。わからない場合は、「わからない」を選んで下さい。

⁶ 設問 1 の正解は「誤り」：5 年後には 110 万円より多く受け取れるため。文章は単利の内容である。
 設問 2 の正解は「正しい」：銀行金利よりインフレ率が高いため、満期時に預金で買える財やサービスは減少する。
 設問 3 の正解は「誤り」：投資信託の方がリスク分散から一般的に収益が安定する。
 設問 4 の正解は「誤り」：利子率と債券価格は逆の動きをする。
 設問 5 の正解は「正しい」：インフレになると貨幣価値が下がるため、一般的に借金が有利となる。

表 44 保険リテラシーの水準⁷

	全体	正しい	誤り	わからない
1. 保険は、損失の発生頻度が低いものの、発生すると損失の深刻度が高い場合に向くリスク管理手段である。	3000 (100%)	1844 (61.5%)	184 (6.1%)	972 (32.4%)
2. 1,000 万円の価値を持つ住宅を持っている X さんは、安心のために、A 社の火災保険 1,000 万円と B 社の火災保険 1,000 万円に加入したとします。全焼してしまったときに、X さんは火災保険金として合計 2,000 万円を受け取れる。	3000 (100%)	534 (17.8%)	1347 (44.9%)	1119 (37.3%)
3. 火災保険について「時価」で契約しているので、全損になった場合、同じ住宅を新築するのに必要な金額の保険金を受け取れる。	3000 (100%)	319 (10.6%)	1461 (48.7%)	1220 (40.7%)
4. 火災保険では、台風等の強風による損害(風災)をカバーできず、特約を付ける必要がある。	3000 (100%)	1425 (47.5%)	460 (15.3%)	1115 (37.2%)
5. 火災保険に加入している隣家からの出火で、自宅が全焼してしまった場合、隣家の火災保険で損害が賠償される。	3000 (100%)	561 (18.7%)	1296 (43.2%)	1143 (38.1%)
6. 地震によって生じた火災の被害は、地震保険に入っていないくても、火災保険でカバーされる。	3000 (100%)	380 (12.7%)	1462 (48.7%)	1158 (38.6%)
7. 耐火がしっかりしている建物の場合、火災保険に入らなくても、地震保険だけに加入できる。	3000 (100%)	225 (7.5%)	1423 (47.4%)	1352 (45.1%)
8. 3,000 万円の建物について、地震保険は最大 3,000 万円の保険金額を設定できる。	3000 (100%)	416 (13.9%)	1083 (36.1%)	1501 (50.0%)
9. 地震保険料は、建物の免震性や耐震性に応じて割引が設けられている。	3000 (100%)	1597 (53.2%)	202 (6.7%)	1201 (40.0%)
10. 住宅ローンと同時に加入している火災保険には、自動的に地震保険が付帯している。	3000 (100%)	346 (11.5%)	1205 (40.2%)	1449 (48.3%)

表 44 は、保険リテラシーの水準について見たものである⁸。正答率が高い問題は、設問 1 の保険の原理に対する理解と(正答率は 61.5%)、設問 9 の地震保険料の割引であり(正答率は 53.2%)、過半数の人が正答している。逆に、正答率が低い問題は、設問 4 の火災保険の風災補償である(正答率は 15.3%)。また、設問 8 の地震保険の保険金額の理解(正答率は 36.1%)や、

⁷ 設問 1 の正解は「正しい」：保険は発生頻度が低く、発生すると損失が高い場合のリスク管理手段である。
 設問 2 の正解は「誤り」：保険料は実損払いで支払われるため、住宅の価値を超える支払いは無い。
 設問 3 の正解は「誤り」：「時価」ではなく「新価」である。
 設問 4 の正解は「誤り」：一部の保険では、風災補償をオプションとした火災保険も販売されているが、一般的には風災は火災保険の補償対象である。
 設問 5 の正解は「誤り」：火災保険は契約している物件のみが補償対象である。
 設問 6 の正解は「誤り」：地震による火災被害は火災保険ではカバーされない。
 設問 7 の正解は「誤り」：地震保険は火災保険に付帯する契約のため、火災保険の加入が前提である。
 設問 8 の正解は「誤り」：地震保険で設定できる保険金額は火災保険金額の 30%~50%である。
 設問 9 の正解は「正しい」：建物の免震性や耐震性に応じて割引が適応される。
 設問 10 の正解は「誤り」：火災保険に地震保険を付帯するか否かは契約者の判断である。

⁸ Sanjeeva and Ouyang[2019]は、保険リテラシーに関しての 37 本の文献をサーベイしている。そして、彼らは、「保険リテラシーの概念は、安心や経済的厚生を改善するために、潜在的なリスクエクスポージャーや個人々の環境に基づいて、健全な保険決定を行うのに必要な、知識、スキル、態度、および行動と定義できる」としている。また、具体的な保険リテラシーの尺度として、知識、スキル、自信の水準が使われている。さらに、6つの保険知識の領域として、①潜在的なリスクエクスポージャーの理解、②リスク軽減戦略、③保険の概念、原則、および利点、④保険商品とカバー、⑤被保険者の権利と義務、および⑥情報源、をあげている。保険教育に関しては、それぞれの人口学的特徴(死亡率など)、ライフステージ、学習スタイルなどに合うように保険教育は組み立てられていなければならないとしている。

設問 10 の住宅ローン契約時の地震保険に対する理解(正答率は 40.2%)も低く、これらの設問については、「わからない」の選択率が約半数と高い(設問 8 の「わからない」選択率は 50.0%、設問 10 は 48.3%である)。

Q33. ご自身が持っている金融や保険に関する知識はどこで学ばれましたか。当てはまるものをすべて選んで下さい。

表 45 金融や保険の学習経験

	金融の知識	年金の知識	知識 生命保険の	知識 損害保険の	知識 地震保険の
全体	3000 (100%)	3000 (100%)	3000 (100%)	3000 (100%)	3000 (100%)
1. 学校: 小学校～高校	152 (5.1%)	95 (3.2%)	56 (1.9%)	48 (1.6%)	46 (1.5%)
2. 学校: 専門学校、短大、大学、大学院	155 (5.2%)	125 (4.2%)	75 (2.5%)	62 (2.1%)	44 (1.5%)
3. 職場	337 (11.2%)	436 (14.5%)	329 (11.0%)	276 (9.2%)	236 (7.9%)
4. 対面型の研修、講演会、公開講座	73 (2.4%)	66 (2.2%)	46 (1.5%)	46 (1.5%)	35 (1.2%)
5. オンライン型の研修、講演会、公開講座	49 (1.6%)	33 (1.1%)	44 (1.5%)	36 (1.2%)	31 (1.0%)
6. 雑誌や本	514 (17.1%)	444 (14.8%)	350 (11.7%)	315 (10.5%)	302 (10.1%)
7. テレビやラジオ	366 (12.2%)	389 (13.0%)	266 (8.9%)	264 (8.8%)	262 (8.7%)
8. インターネット(保険会社の HP などを含む)	670 (22.3%)	669 (22.3%)	581 (19.4%)	565 (18.8%)	550 (18.3%)
9. 家族	265 (8.8%)	251 (8.4%)	243 (8.1%)	212 (7.1%)	208 (6.9%)
10. 知人・友人	142 (4.7%)	153 (5.1%)	120 (4.0%)	106 (3.5%)	93 (3.1%)
11. 保険会社の職員	84 (2.8%)	95 (3.2%)	424 (14.1%)	254 (8.5%)	238 (7.9%)
12. 保険会社の代理店	53 (1.8%)	58 (1.9%)	238 (7.9%)	246 (8.2%)	228 (7.6%)
13. 銀行などの金融機関	183 (6.1%)	89 (3.0%)	68 (2.3%)	63 (2.1%)	54 (1.8%)
14. FP などの専門家	72 (2.4%)	61 (2.0%)	95 (3.2%)	62 (2.1%)	52 (1.7%)
15. その他	47 (1.6%)	82 (2.7%)	46 (1.5%)	56 (1.9%)	61 (2.0%)
16. 特に学んだことはない	1270 (42.3%)	1247 (41.6%)	1307 (43.6%)	1441 (48.0%)	1481 (49.4%)

表 45 は、金融や保険の学習経験について尋ねたものである。いずれの知識についても、「16. 特に学んだことはない」が 4 割を超え多いが、特に、損害保険や地震保険については、半数近くが学んだ経験が無い（損害保険は 48.0%、地震保険は 49.4%）。

学んだ経験がある人を見ると、いずれの知識についても「8. インターネット」が 2 割前後で 1 番多く、次いで、「6. 雑誌や本」である。学んだ経験がある人は、独学で学んでいる様子が見えがえる。

なお、保険の知識については、「11. 保険会社の職員」や「12. 保険会社の代理店」で学ぶ人も見られ、生命保険の知識について「11. 保険会社の職員」から学んだ人は 14.1%である。

Q34. 次の災害後の公的支援に関する説明文は正しいと思いますか。「正しい」、「誤り」の中から、適切であると思うものをそれぞれ一つお選び下さい。わからない場合は、「わからない」

表 46 公的支援リテラシーの水準⁹

	全体	正しい	誤り	わからない
1. 大災害に遭った場合、「被災者生活再建支援制度」を利用でき、支給額は全壊の場合、3,000 万円なので、普通の住宅なら再建可能である。	3000 (100%)	281 (9.4%)	834 (27.8%)	1885 (62.8%)
2. 従前の住宅ローンが残っていると、住宅金融支援機構から災害復興住宅融資を受けることはできない。	3000 (100%)	200 (6.7%)	841 (28.0%)	1959 (65.3%)
3. 一定の自然災害で、生計維持者が亡くなった場合に、遺族に対して災害弔慰金が支給される。	3000 (100%)	1105 (36.8%)	194 (6.5%)	1701 (56.7%)
4. 被災者に対して市町村が融資をしてくれる「災害援護資金制度」があり、貸付限度額は 3,500 万円である。	3000 (100%)	227 (7.6%)	394 (13.1%)	2379 (79.3%)
5. 被災者に対して市町村が融資をしてくれる「災害援護資金制度」では、金利はゼロ%とされている。	3000 (100%)	577 (19.2%)	383 (12.8%)	2040 (68.0%)

表 46 は、災害後の公的支援に関する認知度について見たものである。いずれの支援内容についても「わからない」が半数を超えており、災害における公的支援の認知度は低い。

正答率が 1 番高い内容は設問 3 であり、36.8%の人が災害弔慰金の支給について知っている。一方、正答率が低い内容は設問 4 と設問 5 であり、災害援護資金制度の理解は約 1 割である（正答率は設問 4 が 13.1%、設問 5 が 12.8%である）。

⁹ 設問 1 の正解は「誤り」：全壊の場合、支給最大限度額は 300 万円である。

設問 2 の正解は「誤り」：総返済負担率（年収に占める借入年間合計返済額の割合）の基準を満たせば、従前の住宅ローンが残っていても受給可能である。

設問 3 の正解は「正しい」：生活維持者が亡くなった場合、災害弔慰金が 500 万円支給される。

設問 4 の正解は「誤り」：災害援護資金制度の貸付限度額は 350 万円である。

設問 5 の正解は「誤り」：災害援護資金制度の金利は年 3%である。

4. 自然災害に対するリスクマネジメント行動の年代比較

本節では、リスクマネジメント行動と年齢の関係について分析する。

居住地の洪水リスクの把握(Q5)の年代比較

表 47 洪水リスクの把握の年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
把握している	184*** (36.8%)	231** (46.2%)	289*** (57.8%)	254 (50.8%)	272* (54.4%)	291*** (58.2%)
確認したことはあるが忘れた	103* (20.6%)	121*** (24.2%)	82 (16.4%)	84 (16.8%)	82 (16.4%)	58*** (11.6%)
立地を確認したことはない	173*** (34.6%)	121* (24.2%)	109*** (21.8%)	146 (29.2%)	137 (27.4%)	146 (29.2%)
ハザードマップを知らない	40*** (8.0%)	27* (5.4%)	20 (4.0%)	16 (3.2%)	9*** (1.8%)	5*** (1.0%)
Chi 2 test	118.4***					

表 47 は、居住地の洪水リスクについて把握しているかどうかを年代別で比較したものである(表中の■は、調整済み残差より、有意に多いセルを、■は有意に少ないセルを表している)。1%水準の有意差が見られ、60代以上では浸水深を把握している(選択肢1~5選択者)は半数を超えている(40代でも認知度は有意に高いが、50代では有意性は見られない)。一方、30代以下では浸水深を把握している人は半数を切り、特に20代以下では確認したことがない人やハザードマップを知らない人が有意に多い。なお、各年代で男女の比較をすると、いずれの年代においても、男性の方が浸水深を把握している人が有意に多かった。

居住地の土砂災害リスクの把握(Q6)の年代比較

表 48 土砂災害リスクの把握の年代比較

	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
1. 土砂災害リスクがある地域	39 (7.8%)	44 (8.8%)	50* (10.0%)	47 (9.4%)	27** (5.4%)	34 (6.8%)
2. 土砂災害リスクがない地域	202*** (40.4%)	270 (54.0%)	296 (59.2%)	285 (57.0%)	318*** (63.6%)	321*** (64.2%)
3. リスクの内容は忘れた	50*** (10.0%)	52*** (10.4%)	32 (6.4%)	33 (6.6%)	31 (6.2%)	17*** (3.4%)
4. 確認したことはない	167*** (33.4%)	110 (22.0%)	107* (21.4%)	119 (23.8%)	118 (23.6%)	124 (24.8%)
5. ハザードマップを知らない	42*** (8.4%)	24 (4.8%)	15 (3.0%)	16 (3.2%)	6*** (1.2%)	4*** (0.8%)
Chi 2 test	140.6***					

表 48 は、居住地の土砂災害リスクについて把握しているかどうかを年代別で比較したものである。1%水準で有意差が見られ、60 代以上では過半数が土砂災害リスクを把握しており、6 割以上が「2. 土砂災害リスクがない地域」に居住している。一方、20 代以下では居住地の土砂災害リスクを把握している人は半数を切り、確認したことがない人やハザードマップを知らない人が有意に多い。

なお、各年代で男女の比較をすると、60 代以下では性別で土砂災害リスクの認知度について有意差は見られなかったが、70 代以上では有意差が見られ、女性の方が「4. ハザードマップは知っているが、土砂災害リスクを確認したことはない」や「5. ハザードマップを知らない」が有意に多かった。

自然災害のよる住居の損害発生に対する心配度(Q7)の年代比較

表 49 自然災害のよる住居の損害発生に対する心配度の年代比較

① 地震						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
心配	398** (79.6%)	411 (82.2%)	422 (84.4%)	431** (86.2%)	428* (85.6%)	393*** (78.6%)
心配していない	74 (14.8%)	72 (14.4%)	70 (14.0%)	62 (12.4%)	65 (13.0%)	100*** (20.0%)
わからない	28*** (5.6%)	17 (3.4%)	8 (1.6%)	7* (1.4%)	7* (1.4%)	7* (1.4%)
Chi 2 test	45.6***					
平均値	3.70	3.66	3.62	3.72	3.71	3.56
Kruskal-Wallis test	9.34*					

② 火山噴火						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
心配	138*** (27.6%)	109* (21.8%)	108 (21.6%)	81* (16.2%)	76** (15.2%)	61*** (12.2%)
心配していない	331*** (66.2%)	371** (74.2%)	380 (76.0%)	409** (81.8%)	414*** (82.8%)	429*** (85.8%)
わからない	31*** (6.2%)	20 (4.0%)	12 (2.4%)	10 (2.0%)	10 (2.0%)	10 (2.0%)
Chi 2 test	81.0***					
平均値	2.03	1.80	1.82	1.70	1.68	1.48
Kruskal-Wallis test	60.4***					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

③ 津波						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
心配	175*** (35.0%)	135*** (27.0%)	105 (21.0%)	99 (19.8%)	66*** (13.2%)	66*** (13.2%)
心配していない	298*** (59.6%)	347*** (69.4%)	386 (77.2%)	395* (79.0%)	429*** (85.8%)	427*** (85.4%)
わからない	27*** (5.4%)	18* (3.6%)	9 (1.8%)	6* (1.2%)	5** (1.0%)	7 (1.4%)
Chi 2 test	147.1***					
平均値	2.25	1.97	1.84	1.80	1.56	1.58
Kruskal-Wallis test	99.5***					

④ 高潮・洪水・浸水						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
心配	232*** (46.4%)	202*** (40.4%)	186** (37.2%)	167 (33.4%)	110*** (22.0%)	98*** (19.6%)
心配していない	240*** (48.0%)	283*** (56.6%)	306* (61.2%)	328 (65.6%)	385*** (77.0%)	396*** (79.2%)
わからない	28*** (5.6%)	15 (3.0%)	8 (1.6%)	5** (1.0%)	5** (1.0%)	6* (1.2%)
Chi 2 test	175.7***					
平均値	2.62	2.35	2.25	2.21	1.83	1.77
Kruskal-Wallis test	162.9***					

⑤ 土砂災害						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
心配	222*** (44.4%)	157** (31.4%)	154** (30.8%)	103*** (20.6%)	96*** (19.2%)	81*** (16.2%)
心配していない	248*** (49.6%)	327*** (65.4%)	334* (66.8%)	389*** (77.8%)	398*** (79.6%)	414*** (82.8%)
わからない	30*** (6.0%)	16 (3.2%)	12 (2.4%)	8 (1.6%)	6** (1.2%)	5** (1.0%)
Chi 2 test	190.7***					
平均値	2.50	2.12	2.10	1.90	1.80	1.74
Kruskal-Wallis test	133.8***					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 49 は、自然災害による住居の損害発生に対する心配度を年代で比較したものである(「心配」は「非常に」、「ある程度」、「少し」の計、「心配していない」は「ほとんど」と「全く」の計である)。地震に対して「心配」している年代は50代・60代で85%を超え有意に多いが、地震以外の災害に対して「心配」している年代は40代以下で有意に多くなっている。70代以上については、いずれの災害についても「心配していない」人が有意に多い。

なお、「非常に心配」を5点から、「全く心配していない」を1点とし、点数化して平均値で比較すると(点数が高いほど心配度が高いことを意味する)、地震に対する心配度は10%水準で年齢との明確な関係は見られないが、それ以外の災害に対する心配度は1%水準で有意であり、年齢が低いほど平均値が高い(心配度が高い)傾向が見られる。

地震災害に対する備え(Q8)の年代比較

表 50 地震災害に対する備えの年代比較

年代	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
備えをしている	370* (74.0%)	369* (73.8%)	400* (80.0%)	387 (77.4%)	373 (74.6%)	413*** (82.6%)
何もしていない	130* (26.0%)	131* (26.2%)	100* (20.0%)	113 (22.6%)	127 (25.4%)	87*** (17.4%)
Chi 2 test	18.5***					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

表 50 は、地震災害に対する備えについて年代で比較したものである。「備えをしている(Q8 の選択肢 1~9 のいずれかを選択した人)」は 70 代以上で 8 割を超え 1%水準で有意に多く、30 代以下では 7 割強と有意に少ない傾向である。

なお、各年代で性別の比較をしたところ、60 代以上で有意差が見られ、60 代で備えをしている比率は女性が 81.6%、男性が 67.6%と 1%水準の有意差、70 代以上で女性が 85.6%、男性が 79.6%と 10%水準の有意差であり、高齢層については女性の方が備えをしている人が有意に多い。

保険金・公的支援金の受給状況(Q13・Q14)の年代比較

表 51 保険金の受給状況の年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	117 (100%)	100 (100%)	104 (100%)	93 (100%)	123 (100%)	147 (100%)
受け取った	28*** (23.9%)	21*** (21.0%)	40 (38.5%)	35 (37.6%)	48 (39.0%)	65*** (44.2%)
受け取らなかった	60 (51.3%)	56 (56.0%)	48 (46.2%)	49 (52.7%)	61 (49.6%)	61** (41.5%)
わからない	29*** (24.8%)	23* (23.0%)	16 (15.4%)	9* (9.7%)	14* (11.4%)	21 (14.3%)
Chi 2 test	30.6***					

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	88 (100%)	77 (100%)	88 (100%)	84 (100%)	109 (100%)	126 (100%)
受け取った	28** (31.8%)	21*** (27.3%)	40 (45.5%)	35 (41.7%)	48 (44.0%)	65*** (51.6%)
受け取らなかった	60** (68.2%)	56*** (72.7%)	48 (54.5%)	49 (58.3%)	61 (56.0%)	61** (48.4%)
Chi 2 test	16.0***					

表 52 公的支援金の受給状況の年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	117 (100%)	100 (100%)	104 (100%)	93 (100%)	123 (100%)	147 (100%)
受け取った	26 (22.2%)	19 (19.0%)	17 (16.3%)	12 (12.9%)	22 (17.9%)	31 (21.1%)
受け取らなかった	64*** (54.7%)	61 (61.0%)	70 (67.3%)	71** (76.3%)	90* (73.2%)	98 (66.7%)
わからない	27*** (23.1%)	20 (20.0%)	17 (16.3%)	10 (10.8%)	11** (8.9%)	18 (12.2%)
Chi 2 test	20.1**					

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	90 (100%)	80 (100%)	87 (100%)	83 (100%)	112 (100%)	129 (100%)
受け取った	26 (28.9%)	19 (23.8%)	17 (19.5%)	12 (14.5%)	22 (19.6%)	31 (24.0%)
受け取らなかった	64 (71.1%)	61 (76.3%)	70 (80.5%)	71 (85.8%)	90 (80.4%)	98 (76.0%)
Chi 2 test	6.39					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 51 と表 52 は、被災経験のある 684 人を対象に、保険金(表 51)と公的支援金(表 52)の受給状況を年代別で比較したものである。

まず、保険金・公的支援金ともに 20 代以下で「わからない」の回答者が約 4 分の 1 を占めており有意に多い。従って、「わからない」の回答者を除く受給状況で比較すると、保険金については 70 代以上の半数が受け取っており、30 代以下は受け取っていない人が有意に多くなっている。公的支援金については年代別で受給の有無に有意差は見られない。

被災経験後の保険加入意欲(Q15)の年代比較

表 53 被災経験後の保険加入意欲の年代比較

	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
全体	117 (100%)	100 (100%)	104 (100%)	93 (100%)	123 (100%)	147 (100%)
高まった	76 (65.0%)	66 (66.0%)	66 (63.5%)	55 (59.1%)	66 (53.7%)	81 (55.1%)
変化なかった	24*** (20.5%)	23** (23.0%)	30 (28.8%)	37 (39.8%)	50** (40.7%)	62*** (42.2%)
わからない	17*** (14.5%)	11* (11.0%)	8 (7.7%)	1** (1.1%)	7 (5.7%)	4** (2.7%)
Chi 2 test	39.6***					

	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
全体	100 (100%)	89 (100%)	96 (100%)	92 (100%)	116 (100%)	143 (100%)
高まった	76*** (76.0%)	66** (74.2%)	66 (68.8%)	55 (59.8%)	66* (56.9%)	81** (56.6%)
変化なかった	24*** (24.0%)	23** (25.8%)	30 (31.3%)	37 (40.2%)	50* (43.1%)	62** (43.4%)
Chi 2 test	17.8***					

注) ***は 1%水準、**は 5%水準、*は 10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 53 は、被災経験のある 684 人を対象に、保険に対する加入意欲の変化を年代別で比較したものである(「高まった」は「大きく」と「少し」を含む。「変化なかった」は「ほとんど」と「全く」の計である)。30 代以下は「わからない」と回答する人が有意に多いため、「わからない」の回答を除いて比較すると、60 代以上では「変化なかった」と意識する人が 4 割を超え有意に多く、30 代以下では「高まった」と意識する人が約 4 分の 3 で有意に多い。

なお、各年代で性別の比較をすると、30 代のみで有意差が見られ、男性で「高まった」と意識する人が 83.0%、女性が 61.1%であり、男性の方が有意に多かった。

地震保険の加入状況(Q16)の年代比較

表 54 地震保険の加入状況の年代比較

建物の地震保険						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
加入している	173** (59.0%)	286*** (73.7%)	309** (69.6%)	299 (64.7%)	282** (60.9%)	299 (62.0%)
加入していない	120** (41.0%)	102*** (26.3%)	135** (30.4%)	163 (35.3%)	181** (39.1%)	183 (38.0%)
Chi 2 test	26.9***					

家財の地震保険						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
加入している	118*** (43.1%)	191 (53.1%)	218 (51.8%)	214 (48.4%)	228 (50.2%)	256 (53.7%)
加入していない	156*** (56.9%)	169 (46.9%)	203 (48.2%)	228 (51.6%)	226 (49.8%)	221 (46.3%)
Chi 2 test	9.97*					

建物更生共済(JA)						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
加入している	46*** (18.9%)	27* (8.0%)	38 (9.8%)	36 (8.5%)	48 (11.3%)	42 (10.2%)
加入していない	198 (81.1%)	312* (92.0%)	351 (90.2%)	388 (91.5%)	375 (88.7%)	370 (89.8%)
Chi 2 test	22.6***					

その他の地震損害を補償する保険						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
加入している	36*** (15.5%)	25 (7.8%)	37 (9.8%)	24*** (5.9%)	42 (10.4%)	44 (11.0%)
加入していない	196*** (84.5%)	295 (92.2%)	341 (90.2%)	382*** (94.1%)	362 (89.6%)	356 (89.0%)
Chi 2 test	17.9***					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

表 54 は、年代別で地震保険の加入状況を比較したものである。まず、いずれの保険についても 30 代以下で「わからない」の回答者が有意に多いため(20 代以下で 4~5 割、30 代で 3 割前後が「わからない」と回答)、「わからない」を除く加入の有無で比較している。加入の有無で比較すると、30 代・40 代では建物の地震保険加入者が約 7 割と有意に多く、20 代以下では建物・家財ともに地震保険に加入していない人が 4~5 割と有意に多い。ちなみに、20 代以下では建物更生共済やその他の保険の加入者が有意に多くなっている。

なお、各年代で性別の比較をしたところ、建物の地震保険加入者については 30 代女性で 78.7%、男性で 69.3%と女性の方が 5%水準で有意に多い。また、建物更生共済の加入者については 30 代男性で 24.0%、女性で 13.0%と男性の方が 5%水準で有意に多かった。

地震保険の加入の有無に影響を与えたもの(Q17)の年代比較

表 55 地震保険の加入の有無に影響を与えたものの年代比較

	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	Chi 2 test
全体	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	
1. 保険会社代理店	66*** (13.2%)	96 (19.2%)	93 (18.6%)	84 (16.8%)	111** (22.2%)	107* (21.4%)	17.7***
2. 住宅ローン貸し手	39 (7.8%)	44 (8.8%)	60*** (12.0%)	39 (7.8%)	23** (4.6%)	12*** (2.4%)	41.8***
3. 住宅販売会社など	57 (11.4%)	92*** (18.4%)	78*** (15.6%)	42* (8.4%)	26*** (5.2%)	21*** (4.2%)	85.6***
4. 家族や知人	98*** (19.6%)	80 (16.0%)	85 (17.0%)	74 (14.8)	66 (13.2%)	64* (12.8%)	12.3**
5. FP などの専門家	28 (5.6%)	32* (6.4%)	30 (6.0%)	28 (5.6%)	15** (3.0%)	12*** (2.4%)	15.5***
6. 保険会社等 HP	38 (7.6%)	36 (7.2%)	37 (7.4%)	48 (9.6%)	38 (7.6%)	40 (8.0%)	2.63
7. テレビ等の記事	41** (8.2%)	35*** (7.0%)	57 (11.4%)	43* (8.6%)	73*** (14.6%)	76*** (15.2%)	31.2***
8. 上記以外	1*** (0.2%)	2** (0.4%)	7 (1.4%)	10 (2.0%)	15*** (3.0%)	10 (2.0%)	18.2***
9. 助言・参考はない	128*** (25.6%)	129*** (25.8%)	160 (32.0%)	163 (32.6%)	199*** (39.8%)	210*** (42.0%)	53.2***
10. わからない	154*** (30.8%)	98*** (19.6%)	49*** (9.8%)	69 (13.8%)	49*** (9.8%)	38*** (7.6%)	147.4***

注) ***は 1%水準、**は 5%水準、*は 10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 55 は、年代別で地震保険の加入状況に影響を与えたものについて比較したものである。30 代以下は「10. わからない」の選択率が有意に多く、60 代以上は「9. 助言を受けたり、参考にしたものはなし」の選択率が約 4 割と 1%水準で有意に多くなっている。

助言を受けたり参考にしたりしたものがある人を見ると、60代以上では「1. 保険会社の代理店」が約2割と有意に多く、また「7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事」の影響も有意に多い。そして、30代や40代の住宅購入世代では、「3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者」や「2. 住宅ローンの貸し手」の影響が有意に多い傾向が見られる。20代以下では「4. 家族や知人」の影響が約2割と有意に多い。

地震保険料の割引適用状況(Q18)の年代比較

表 56 地震保険料の割引適用状況の年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	182 (100%)	290 (100%)	314 (100%)	315 (100%)	300 (100%)	320 (100%)
割引を受けている	56*** (30.8%)	74*** (25.5%)	55 (17.5%)	43 (13.7%)	33*** (11.0%)	26*** (8.1%)
割引を受けているがどれかはわからない	19 (10.4%)	27 (9.3%)	29 (9.2%)	31 (9.8%)	36 (12.0%)	28 (8.8%)
割引を受けているかどうかわからない	61** (33.5%)	120 (41.4%)	129 (41.1%)	128 (40.6%)	120 (40.0%)	138 (43.1%)
割引を受けていない	46** (25.3%)	69*** (23.8%)	101 (32.2%)	113 (35.9%)	111 (37.0%)	128*** (40.0%)
Chi 2 test	79.7***					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 56 は、建物または家財の地震保険に加入している 1721 人を対象に、保険料割引の適用状況について年代別で比較したものである。割引を受けている人は 30 代以下で有意に多く(20 代以下では約 3 割、30 代では約 4 分の 1 が割引の適用を受けている)、70 代以上では割引を受けていない人が 4 割と有意に多い。

ちなみに、年代別で割引の種類(建築年割引・耐震等級割引・免震建築物割引・耐震診断割引)には有意差は見られなかった。

なお、各年代で性別の比較を見ると、50 代以下では男性の方が割引を受けている人が有意に多く、女性については「割引を受けているかどうかわからない」と回答する人が有意に多かった(60 代以上では性別で有意差は見られなかった)。

地震保険(建物)の保険金額の設定(Q19)の年代比較

表 57 地震保険(建物)の保険金額の設定の年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	173 (100%)	286 (100%)	309 (100%)	299 (100%)	282 (100%)	299 (100%)
100%	10 (5.8%)	23 (8.0%)	34* (11.0%)	17* (5.7%)	25 (8.9%)	27 (9.0%)
50%超~100%未満	17 (9.8%)	38*** (13.3%)	22 (7.1%)	19 (6.4%)	26 (9.2%)	23 (7.7%)
50%ちょうど	28 (16.2%)	39 (13.6%)	52 (16.8%)	50 (16.7%)	56* (19.9%)	46 (15.4%)
30%超~50%未満	6 (3.5%)	14 (4.9%)	15 (4.9%)	13 (4.3%)	10 (3.5%)	19 (6.4%)
30%ちょうど	8*** (4.6%)	5 (1.7%)	4 (1.3%)	6 (2.0%)	3 (1.1%)	5 (1.7%)
30%未満	6 (3.5%)	5 (1.7%)	5* (1.6%)	9 (3.0%)	10 (3.5%)	16** (5.4%)
わからない	98 (56.6%)	162 (56.6%)	177 (57.3%)	185* (61.9%)	152 (53.9%)	163 (54.5%)
Chi 2 test	43.7*					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

表 57 は、建物の地震保険に加入している 1648 人を対象に、保険金額の設定(火災保険金額の何%にしているか)について年代別で比較したものである。ちなみに、地震保険は火災保険金額の 30%~50%で設定することになっている。年代別の設定比率は 10%水準の有意差であり、20 代以下で 30%ちょうどに設定している人が有意に多い傾向が見られる。

地震保険(建物)の加入に影響を与えたもの(Q20)の年代比較

表 58 地震保険(建物)加入に影響を与えたものの年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	Chi 2 test
全体	173 (選択率)	286 (選択率)	309 (選択率)	299 (選択率)	282 (選択率)	299 (選択率)	
1. 自分自身の考え	51*** (29.5%)	108*** (37.8%)	125** (40.5%)	140 (46.8%)	167*** (59.2%)	174*** (58.2%)	68.3***
2. 保険会社代理店	26 (15.0%)	44 (15.4%)	34 (11.0%)	33 (11.0%)	43 (15.2%)	43 (14.4%)	5.34
3. 住宅ローン貸し手	17 (9.8%)	26 (9.1%)	46*** (14.9%)	39** (13.0%)	24 (8.5%)	12*** (4.0%)	24.2***
4. 住宅販売会社など	39*** (22.5%)	64*** (22.4%)	54* (17.5%)	45 (15.1%)	22*** (7.8%)	11*** (3.7%)	64.9***
5. 家族や知人	49** (28.3%)	82*** (28.7%)	80* (25.9%)	60 (20.1%)	43*** (15.2%)	52** (17.4%)	25.8***
6. FPなどの専門家	16*** (9.2%)	9 (3.1%)	12 (3.9%)	9 (3.0%)	3** (1.1%)	3** (1.0%)	30.1***
7. テレビ等の記事	11 (6.4%)	12 (4.2%)	10 (3.2%)	5 (1.7%)	15 (5.3%)	15 (5.0%)	9.00
8. 学校での保険教育	6*** (3.5%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	37.9***
9. 上記以外	4 (2.3%)	4 (1.4%)	9 (2.9%)	14 (4.7%)	7 (2.5%)	3 (4.3%)	7.56
10. わからない	26 (15.0%)	26 (9.1%)	32 (10.4%)	26 (8.7%)	25 (8.9%)	26 (8.7%)	6.74

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 58 は、建物の地震保険に加入している 1648 人を対象に、年代別で加入に影響を与えたものについて比較したものである。60代以上では「1. 自分自身の考え」で加入を決めた人が約 6 割であり、1%水準で有意に多い。

そして、住宅購入層でも高い年齢層である 40代や 50代では、「3. 住宅ローンの貸し手(銀行など)の勧め」が有意に多く、住宅購入層の低い年齢層である 30代以下では「4. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者の勧め」が有意に多くなっている。また、30代以下では「5. 家族や知人」の影響に有意に多い。

ちなみに、20代以下では「6. ファイナンシャルプランナー(FP)などの保険や金融の専門家(保険代理店を除く)の勧め」や「8. 学校での保険教育」の影響が有意に多く、若い世代に学校での保険教育が普及している傾向がうかがえる。

地震保険(建物)の加入理由(Q21)の年代比較

表 59 地震保険(建物)加入理由の年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	Chi 2 test
全体	173 (選択率)	286 (選択率)	309 (選択率)	299 (選択率)	282 (選択率)	299 (選択率)	
1. 住宅ローンの条件	30 (17.3%)	42 (14.7%)	66*** (21.4%)	58** (19.4%)	33* (11.7%)	23*** (7.7%)	29.5***
2. ローン負担の軽減	23** (13.3%)	48*** (16.8%)	27 (8.7%)	21 (7.0%)	21 (7.4%)	11*** (3.7%)	37.0***
3. 多くの人が加入	36*** (20.8%)	41** (14.3%)	31 (10.0%)	23 (7.7%)	16*** (5.7%)	22* (7.4%)	37.4***
4. 政府が推奨	13*** (7.5%)	6 (2.1%)	5 (1.6%)	5 (1.7%)	4 (1.4%)	4 (1.3%)	24.9***
5. 推奨する人がいた	26 (15.0%)	31 (10.8%)	30 (9.7%)	30 (10.0%)	21 (7.4%)	26 (8.7%)	7.75
6. 住宅再建の補填	42*** (24.3%)	71*** (24.8%)	93 (30.1%)	93 (31.1%)	105 (37.2%)	141*** (47.2%)	45.6***
7. 生活資金の補填	30 (17.3%)	58 (20.3%)	69 (22.3%)	72 (24.1%)	73 (25.9%)	60 (20.1%)	6.60
8. 保険料負担が小	21* (12.1%)	31*** (10.8%)	52 (16.8%)	45 (15.1%)	56 (19.9%)	69*** (23.1%)	21.1***
9. 特に理由はない	25 (14.5%)	46 (16.1%)	42 (13.6%)	42 (14.0%)	44 (15.6%)	34 (11.4%)	3.37
10. わからない	19** (11.0%)	29*** (10.1%)	16 (5.2%)	20 (6.7%)	14 (5.0%)	12** (4.0%)	16.5***

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 59 は、建物の地震保険に加入している 1648 人を対象に、年代別で加入した理由について比較したものである。住宅購入層でも高い年齢層である 40 代・50 代については「1. 住宅ローンの条件とされたから」が約 2 割で有意に多く、住宅購入層の低い年齢層である 30 代以下については「2. 地震被災後の住宅ローンの支払い負担を軽減できるから」という理由で加入している人が有意に多い。

また、30 代以下の若い層では「3. 多くの人が入っているから」や「4. 政府が加入を勧めているから」という理由の人も有意に多い。

一方、70 代以上では「6. 地震被災後の住宅再建の費用をまかなう必要があるから」や「8. 保険料負担が大きくないから」という費用面の理由で加入している人が有意に多くなっている。

地震保険(建物)の非加入の理由(Q22)の年代比較

表 60 地震保険(建物)の非加入の理由の年代比較

	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	Chi 2 test
全体	120 (選択率)	102 (選択率)	135 (選択率)	163 (選択率)	181 (選択率)	183 (選択率)	
1. 地震は起きそうにない	13 (10.8%)	12 (11.8%)	9 (6.7%)	18 (11.0%)	15 (8.3%)	19 (10.4%)	2.93
2. 建物の耐震性が高い	13 (10.8%)	7** (6.9%)	18 (13.3%)	20 (12.3%)	33 (18.2%)	43*** (23.5%)	19.8***
3. リスクに見合わない	28** (23.3%)	32 (31.4%)	52 (38.5%)	54 (33.1%)	70* (38.7%)	58 (31.7%)	9.77*
4. 補償が限定的	18** (15.0%)	19 (18.6%)	38 (28.1%)	38 (23.3%)	49 (27.1%)	56** (30.6%)	13.1**
5. 保険料負担ができない	24 (20.0%)	25** (24.5%)	23 (17.0%)	38** (23.3%)	27 (14.9%)	15*** (8.2%)	19.9***
6. 加入する機会が無い	18 (15.0%)	10 (9.8%)	15 (11.1%)	12 (7.4%)	17 (9.4%)	10 (5.5%)	9.12
7. しきみがわからない	24*** (20.0%)	14 (13.7%)	10 (7.4%)	8** (4.9%)	16 (8.8%)	13 (7.1%)	23.2***
8. 存在を知らなかった	5 (4.2%)	3 (2.9%)	3 (2.2%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)	2 (1.1%)	9.15
9. 家族等から不要	6 (5.0%)	6 (5.9%)	4 (3.0%)	9 (5.5%)	4 (2.2%)	4 (2.2%)	5.91
10. その他	3 (2.5%)	6 (5.9%)	7 (5.2%)	10 (6.1%)	9 (5.0%)	18 (9.8%)	7.89
11. 理由はない	23 (19.2%)	18 (17.6%)	17 (12.6%)	39 (23.9%)	30 (16.6%)	28 (15.3%)	7.86

注) ***は 1%水準、**は 5%水準、*は 10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 60 は、建物の地震保険に加入していない 884 人を対象に、年代別で非加入の理由について比較したものである。70 代以上では、「2. 建物の免震性や耐震性が高いので、被害を受けるとは思えない」や「4. 補償が限られている」という理由で加入していない人が有意に多い。また、30 代や 50 代では「5. 保険料を負担できない」という理由で加入していない人が有意に多くなっている。そして、20 代以下では「7. 地震保険のしきみがよくわからない」という理由で加入していない人が有意に多い。

地震による自宅再建の資金調達(Q23)の年代比較

表 61 地震による自宅再建の資金調達の年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	Chi 2 test
全体	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	
1. 地震保険	140*** (28.0%)	225* (45.0%)	246*** (49.2%)	219 (43.4%)	211 (42.2%)	211 (42.2%)	53.1***
2. 火災保険	87*** (17.4%)	133 (26.6%)	134 (26.8%)	133 (26.6%)	123 (24.6%)	110 (22.0%)	19.0***
3. 公的支援金	44*** (8.8%)	61*** (12.2%)	91 (18.2%)	102 (20.4%)	108** (21.6%)	143*** (28.6%)	83.2***
4. 自身の預貯金	97*** (19.4%)	167*** (33.4%)	231*** (46.2%)	229*** (45.8%)	247*** (49.4%)	236*** (47.2%)	141.4***
5. 預貯金以外の金融資産	26*** (5.2%)	45* (9.0%)	60 (12.0%)	63 (12.6%)	64 (12.8%)	82*** (16.4%)	36.3***
6. 親族からの資金援助	39*** (7.8%)	35*** (7.0%)	23 (4.6%)	15 (3.0%)	3*** (0.6%)	5*** (1.0%)	59.1***
7. 銀行等からの借り入れ	31 (6.2%)	33 (6.6%)	58*** (11.6%)	66*** (13.2%)	27** (5.4%)	16*** (3.2%)	52.4***
8. 土地の売却代金	22 (4.4%)	12 (2.4%)	12 (2.4%)	17 (3.4%)	19 (3.8%)	15 (3.0%)	5.04
9. その他	9 (1.8%)	7 (1.4%)	3 (0.6%)	10 (2.0%)	10 (2.0%)	10 (2.0%)	4.83
10. 自宅再建は諦める	20*** (4.0%)	35* (7.0%)	35* (7.0%)	51 (10.2%)	73*** (14.6%)	65*** (13.0%)	48.2***
11. 起こらないため考えない	35*** (7.0%)	18 (3.6%)	13* (2.6%)	15 (3.0%)	18 (3.6%)	21 (4.2%)	16.0***
12. 可能性あるが考えない	216*** (43.2%)	149*** (29.8%)	104** (20.8%)	94*** (18.8%)	77*** (15.4%)	90*** (18.0%)	149.0***

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 61 は、地震により自宅が全壊した場合、自宅の再建資金の調達方法について年代別で比較したものである。まず、「1. 地震保険」が有意に多いのは30代と40代であり、半数近い選択率である。

そして、「4. 自身の預貯金」は40代以上で有意に多く、70代以上では「5. 預貯金以外の金融資産」も有意に多くなっている。さらに、50代以下では借り入れも多く、30代以下では「6. 親族からの資金援助」が、40代と50代では「7. 銀行等からの借り入れ」が有意に多い。

また、60代以上では、「3. 公的支援金」の選択率が有意に多いが、「10. 自宅の再建は諦める」の選択率も有意に多くなっている。

ちなみに、「12. そうしたことは起こるかもしれないが、考えたことはない」という人は、30代以下の若い層で有意に多くなっている。

なお、住宅再建の資金源として重要なものを3つ選んで貰った結果(Q25)についても、上記の結果と大きく変わらなかった。

地震保険による自宅再建補填率(Q24)の年代比較

表 62 地震保険による自宅再建補填率の年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	140 (100%)	225 (100%)	246 (100%)	217 (100%)	211 (100%)	211 (100%)
60%以上	54** (38.6%)	84** (37.3%)	79 (32.1%)	55** (25.3%)	59 (28.0%)	59 (28.0%)
50%	32 (22.9%)	48 (21.3%)	55 (22.4%)	65* (30.0%)	58 (27.5%)	60 (28.4%)
40%以下	13*** (9.3%)	34 (15.1%)	46 (18.7%)	43 (19.8%)	46 (21.8%)	51** (24.2%)
わからない	41 (29.3%)	59 (26.2%)	66 (26.8%)	54 (24.9%)	48 (22.7%)	41** (19.4%)
Chi 2 test	32.0***					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

表 62 は、地震により自宅が全壊した場合、再建費用として地震保険を選択した 1250 人を対象に、その補填率について年代別で比較したものである。30 代以下では 60%以上と考えている人が約 4 割と有意に多く、70 代以上では 40%以下が有意に多い。

火災保険の水災補償の認知度(Q26)の年代比較

表 63 火災保険の水災補償の認知度の年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
1. しっかりと知っていた	32 (6.4%)	38 (7.6%)	46 (9.2%)	38 (7.6%)	50** (10.0%)	28** (5.6%)
2. おおよそ知っていた	107*** (%)	114** (22.8%)	143 (28.6%)	133 (26.6%)	140 (28.0%)	168*** (33.6%)
3. 部分的に知っていた	139 (27.8%)	139 (27.8%)	136 (27.2%)	152 (30.4%)	130 (26.0%)	128 (25.6%)
4. 知らなかった	222*** (44.4%)	209* (41.8%)	175 (35.0%)	177 (35.4%)	180 (36.0%)	176 (35.2%)
Chi 2 test	40.3***					

表 63 は、火災保険の水災補償付加の認知度について年代別で比較したものである。1%水準で有意差が見られ、30 代以下で「4. 知らなかった」が 4 割を超え有意に多く、60 代以上で認知度が高い傾向が見られる。なお、各年代で性別を比較したところ、30 代以上で男女差が見られ、男性の認知度が有意に高い傾向が見られた。

火災保険(水災補償付加の有無別)加入状況(Q27)の年代比較

表 64 火災保険(水災補償付加の有無別)加入状況の年代比較

建物						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
1. 火災保険加入・水災補償付加	72*** (14.4%)	107 (21.4%)	119 (23.8%)	109 (21.8%)	128** (25.6%)	131** (26.2%)
2. 火災保険加入・水災補償非付加	71*** (14.2%)	131* (26.2%)	162 (32.4%)	185*** (37.0%)	175*** (35.0%)	168** (33.6%)
3. 火災保険加入:水災補償不明	81*** (16.2%)	101 (20.2%)	130* (26.0%)	124 (24.8%)	131* (26.2%)	123 (24.6%)
4. 火災保険加入状況不明	168*** (33.6%)	93*** (18.6%)	38*** (7.6%)	31*** (6.2%)	18*** (3.6%)	14*** (2.8%)
5. 火災保険に加入していない	108*** (21.6%)	68 (13.6%)	51** (10.2%)	51** (10.2%)	48** (9.6%)	64 (12.8%)
Chi 2 test	434.5***					

家財						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
1. 火災保険加入・水災補償付加	63*** (12.6%)	82 (16.4%)	98 (19.6%)	89 (17.8%)	105* (21.0%)	114*** (22.8%)
2. 火災保険加入・水災補償非付加	53*** (10.6%)	112 (22.4%)	132 (26.4%)	143** (28.6%)	155*** (31.0%)	148*** (29.6%)
3. 火災保険加入:水災補償不明	84*** (16.8%)	87** (17.4%)	113 (22.6%)	115 (23.0%)	126** (25.2%)	124* (24.8%)
4. 火災保険加入状況不明	172*** (34.4%)	109*** (21.8%)	52*** (10.4%)	48*** (9.6%)	25*** (5.0%)	16*** (3.2%)
5. 火災保険に加入していない	128*** (25.6%)	110 (22.0%)	105 (21.0%)	105 (21.0%)	89** (17.8%)	98 (19.6%)
Chi 2 test	350.4***					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 64 は、水災補償の付加の有無別で火災保険の加入状況について年代別で比較したものである。建物と家財で結果は大きく変わらず、30代以下で「4. 火災保険に加入しているかどうか分からない」、または「5. 火災保険に加入していない」が有意に多い。

年齢層が高くなるほど火災保険に加入している人が有意に多くなる傾向であるが、水災補償の付加状況については分かれている。ちなみに、50代以上では「2. 火災保険に加入しているが、水災補償は付加していない」が3割を超え1番多くなっている。

なお、各年代で性別の比較をすると、建物・家財ともに50代以上で男性の方が水災補償を付加している人が有意に多かった。

火災保険の水災補償の付加に影響を与えたもの(Q28)の年代比較

表 65 水災補償の付加に影響を与えたものの年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	Chi 2 test
全体	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	
1. 保険会社代理店	71** (14.2%)	83 (16.6%)	82 (16.4%)	84 (16.8%)	108** (21.6%)	113*** (22.6%)	18.4***
2. 住宅ローン貸し手	27 (5.4%)	35** (7.0%)	38*** (7.6%)	29 (5.8%)	13*** (2.6%)	5*** (1.0%)	35.7***
3. 住宅販売会社など	55*** (11.0%)	69*** (13.8%)	51** (10.2%)	35 (7.0%)	17*** (3.4%)	6*** (1.2%)	80.7***
4. 家族や知人	71*** (14.2%)	70** (14.0%)	69** (13.8%)	46 (9.2%)	33*** (6.6%)	38*** (7.6%)	31.5***
5. FPなどの専門家	28* (5.6%)	28* (5.6%)	20 (4.0%)	23 (4.6%)	12** (2.4%)	11** (2.2%)	14.4**
6. テレビ等の記事	33 (6.6%)	39 (7.8%)	40 (8.0%)	30 (6.0%)	38 (6.0%)	43 (8.6%)	3.34
7. 学校での保険教育	13*** (2.6%)	8** (1.6%)	1 (0.2%)	0** (0.0%)	1 (0.2%)	0** (0.0%)	38.6***
8. 上記以外	5* (1.0%)	5* (1.0%)	6 (1.2%)	16* (3.2%)	18** (3.6%)	14 (2.8%)	17.2***
9. 助言・参考はない	139*** (27.8%)	155*** (31.0%)	190 (38.0%)	220** (44.0%)	243*** (48.6%)	253*** (50.6%)	90.9***
10. わからない	163*** (32.6%)	100 (20.0%)	83 (16.6%)	73** (14.6%)	65*** (13.0%)	60*** (12.0%)	98.2***

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 65 は、火災保険の水災補償の付加に影響を与えたものについて年代別で比較したものである。

まず、50代以上では、「9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない」が4割を超え、有意に多い。

一方、影響を受けたものがある人を見ると、60代以上では「1. 保険会社の代理店」が約2割と有意に多くなっている。

そして、住宅購入層である40代以下では、「2. 住宅ローンの貸し手」や「3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者」の影響が有意に多い。また、40代以下では「4. 家族や知人」の影響も有意に多くなっている。

なお、サンプル数は少ないが、20代以下では「5. FPなどの保険や金融の専門家」や「7. 学校での保険教育」の影響が他の年代と比較して有意に多くなっている。

火災保険の水災補償を付加しない理由(Q29)の年代比較

表 66 火災保険の水災補償を付加しない理由の年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	Chi 2 test
全体	84 (選択率)	147 (選択率)	171 (選択率)	196 (選択率)	191 (選択率)	181 (選択率)	
1. 不要だと判断した	17 (20.2%)	47*** (32.0%)	33 (19.3%)	33 (16.8%)	30 (15.7%)	24** (13.3%)	22.0***
2. 洪水は起こらない	32 (38.1%)	53 (36.1%)	57 (33.3%)	64 (32.7%)	54 (28.3%)	36*** (19.9%)	15.6***
3. 立地上被害無	28*** (33.3%)	59** (40.1%)	85 (49.7%)	92 (46.9%)	98 (51.3%)	114*** (63.0%)	27.8***
4. 建物構造から被害無	14 (16.7%)	20 (13.6%)	17 (9.9%)	32 (16.3%)	25 (13.1%)	22 (12.2%)	4.24
5. リスクに見合わない	8 (9.5%)	17 (11.6%)	12 (7.0%)	11 (5.6%)	13 (6.8%)	11 (6.1%)	5.77
6. 補償が限定的	3 (3.6%)	7 (4.8%)	11 (6.4%)	6 (3.1%)	9 (4.7%)	10 (5.5%)	2.81
7. 保険料負担ができない	7 (8.3%)	7 (4.8%)	6 (3.5%)	10 (5.1%)	8 (4.2%)	4 (2.2%)	5.85
8. 加入する機会が無い	3 (3.6%)	6 (4.1%)	11* (6.4%)	12* (6.1%)	4 (2.1%)	3* (1.7%)	9.32*
9. 内容がわからない	4 (4.8%)	7 (4.8%)	6 (3.5%)	8 (4.1%)	7 (3.7%)	11 (6.1%)	1.88
10. 存在を知らなかった	5 (6.0%)	11 (7.5%)	16 (9.4%)	22 (11.2%)	19 (9.9%)	25 (13.8%)	5.83
11. 家族等から不要	5*** (6.0%)	4 (2.7%)	3 (1.8%)	0* (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	18.8***
12. その他	1 (1.2%)	2 (1.4%)	2 (1.2%)	1 (0.5%)	2 (1.0%)	2 (1.1%)	0.74
13. 理由はない	12 (14.3%)	11 (7.5%)	15 (8.8%)	26 (13.3%)	25 (13.1%)	16 (8.8%)	6.45

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

表 66 は、火災保険に水災補償を付加していない 970 人を対象に、付加しない理由を年代別で比較したものである。30 代では、「1. 水災補償の内容がよくわかっているが、不要だと判断した」が 32.0%で有意に多く、70 代以上では「3. 立地から洪水が起こりそうにない」という理由で付加していない人が 6 割を超え有意に多い。

5. 金融・保険リテラシーの属性分析

客観的な金融・保険リテラシー

表 67 客観的な金融・保険リテラシー

※Lは Literacy の略である	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
全体	3000 (100%)	3000 (100%)	3000 (100%)	3000 (100%)
全問(5問)正解者	141 (4.7%)	128 (4.3%)	400 (13.3%)	75 (2.5%)
4問正解者	406 (13.5%)	556 (18.5%)	528 (17.6%)	186 (6.2%)
3問正解者	583 (19.4%)	668 (22.3%)	485 (16.2%)	313 (10.4%)
2問正解者	603 (20.1%)	574 (19.1%)	427 (14.2%)	460 (15.3%)
1問正解者	469 (15.6%)	392 (13.1%)	349 (11.6%)	579 (19.3%)
全問(5問)不正解者	798 (26.6%)	682 (22.7%)	811 (27.0%)	1387 (46.2%)
内、全問「わからない」選択者	603 (75.6%)	614 (91.9%)	744 (91.7%)	1287 (92.8%)
平均正答数(5点満点)	1.92点	2.14点	2.26点	1.19点

注) 金融リテラシー: Q31 設問 1~5 の正答数、火災保険リテラシー: Q32 設問 1~5 の正答数
地震保険リテラシー: Q32 設問 6~10 の正答数、災害支援リテラシー: Q34 設問 1~5 の正答数

図 5 正答数の分布

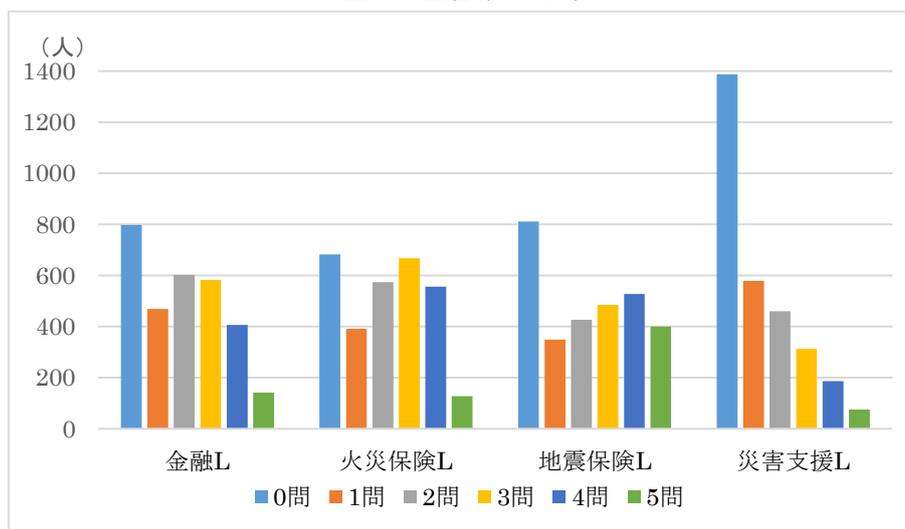


表 67 は、金融や保険等の客観的なリテラシーの水準について比較したものである。金融リテラシーは Q31 の設問 1~5 の正答数を、災害保険リテラシーは Q32 の設問 1~5 の正答数を、地震保険リテラシーは Q32 の設問 6~10 の正答数を、災害支援リテラシー(特に公的支援によるもの)は Q34 の設問 1~5 の正答数を表す。

いずれのリテラシーにおいても「全問不正解者」が1番多く、災害支援リテラシーについては半数近く(46.2%)が全問不正解者である。また、全問不正解者の内、全問「わからない」の選択者を見ると、保険や災害支援のリテラシーでは9割を超えている。

一方、全問正解者については、地震保険が13.3%と1割を超えているが、金融は4.7%、火災保険は4.3%、災害支援は2.5%である。

なお、平均正答数を見ると、5点満点中、火災保険が2.14点、地震保険が2.26点と2点を超えているが、金融は1.92点、災害支援は1.19点であり、特に災害支援に対する理解(認知)度が低い。

また、図5を見ると、災害支援リテラシーについては完全に負の相関であり、正答数が多くなるほど該当人数は減少している。また、1~5問の正答数の分布を見ると、金融リテラシーについては2問正解者が1番多く、やや左寄りの分布であり(正答数が少ない人が多い)、地震保険については4問正解者が1番多く、やや右寄りの分布である(正答数が多い人が多い)。

客観的リテラシーの年齢比較

表 68 客観的リテラシーの年代比較

金融リテラシー(Q31の正答数)						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
全問(5問)正解者	7*** (1.4%)	22 (4.4%)	33** (6.6%)	22 (4.4%)	29 (5.8%)	28 (5.6%)
4問正解者	38*** (7.6%)	61 (12.2%)	77 (15.4%)	79 (15.8%)	70 (14.0%)	81* (16.2%)
3問正解者	51*** (10.2%)	82* (16.4%)	92 (18.4%)	104 (20.8%)	126*** (25.2%)	128*** (25.6%)
2問正解者	76*** (15.2%)	87* (17.4%)	105 (21.0%)	97 (19.4%)	115* (23.0%)	123*** (24.6%)
1問正解者	96** (19.2%)	93** (18.6%)	74 (14.8%)	64* (12.8%)	74 (14.8%)	68 (13.6%)
全問(5問)不正解者	232*** (46.4%)	155** (31.0%)	119 (23.8%)	134 (26.8%)	86*** (17.2%)	72*** (14.4%)
Chi 2 test	230.6***					
内、全問「わからない」選択者	183*** (36.6%)	115* (23.0%)	84** (16.8%)	99** (19.8%)	69*** (13.8%)	53*** (10.6%)
Chi 2 test	131.3***					
平均正答数(5点満点)	1.18点	1.73点	2.07点	1.99点	2.21点	2.32点
Kruskal-Wallis test	189.4***					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

火災保険リテラシー(Q32 設問 1~5 の正答数)						
	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
全問(5 問)正解者	8*** (1.6%)	13** (2.6%)	18 (3.6%)	24 (4.8%)	31** (6.2%)	34*** (6.8%)
4 問正解者	32*** (6.4%)	57*** (11.4%)	87 (17.4%)	116*** (23.2%)	127*** (25.4%)	137*** (27.4%)
3 問正解者	73*** (14.6%)	95* (19.0%)	121 (24.2%)	106 (21.2%)	137*** (27.4%)	136*** (27.2%)
2 問正解者	94 (18.8%)	111* (22.2%)	107 (21.4%)	85 (17.0%)	85 (17.0%)	92 (18.4%)
1 問正解者	94*** (18.8%)	87*** (17.4%)	60 (12.0%)	53* (10.6%)	49** (9.8%)	49** (9.8%)
全問(5 問)不正解者	199*** (39.8%)	137*** (27.4%)	107 (21.4%)	116 (23.2%)	71*** (14.2%)	52*** (10.4%)
Chi 2 test	301.8***					
内、全問「わからない」選択者	182*** (36.4%)	117* (23.4%)	98 (19.6%)	104 (20.8%)	65*** (13.0%)	48*** (9.6%)
Chi 2 test	134.3***					
平均正答数(5 点満点)	1.34 点	1.77 点	2.15 点	2.25 点	2.59 点	2.72 点
Kruskal-Wallis test	281.3***					

地震保険リテラシー(Q32 設問 6~10 の正答数)						
	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
全問(5 問)正解者	28*** (5.6%)	51** (10.2%)	84** (16.8%)	83*** (16.6%)	87*** (17.4%)	67 (13.4%)
4 問正解者	47*** (9.4%)	65*** (13.0%)	94 (18.8%)	106*** (21.2%)	116*** (23.2%)	100 (20.0%)
3 問正解者	55*** (11.0%)	71 (14.2%)	84 (16.8%)	76 (15.2%)	89 (17.8%)	110*** (22.0%)
2 問正解者	65 (13.0%)	81 (16.2%)	65 (13.0%)	64 (12.8%)	71 (14.2%)	81 (16.2%)
1 問正解者	69* (13.8%)	67 (13.4%)	48 (9.6%)	47* (9.4%)	47* (9.4%)	71** (14.2%)
全問(5 問)不正解者	236*** (47.2%)	165*** (33.0%)	125 (25.0%)	124 (24.8%)	90*** (18.0%)	71*** (14.2%)
Chi 2 test	247.6***					
内、全問「わからない」選択者	215*** (43.0%)	152*** (30.4%)	116 (23.2%)	116 (23.2%)	81*** (16.2%)	64*** (12.8%)
Chi 2 test	157.0***					
平均正答数(5 点満点)	1.38 点	1.91 点	2.45 点	2.48 点	2.71 点	2.60 点
Kruskal-Wallis test	202.8***					

注) ***は 1%水準、**は 5%水準、*は 10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

災害支援リテラシー(Q34の正答数)						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
全問(5問)正解者	9 (1.8%)	9 (1.8%)	19 [△] (3.8%)	11 (2.2%)	15 (3.0%)	12 (2.4%)
4問正解者	20 ^{**} (4.0%)	30 (6.0%)	38 (7.6%)	34 (6.8%)	31 (6.2%)	33 (6.6%)
3問正解者	38 ^{**} (7.6%)	40 [*] (8.0%)	51 (10.2%)	46 (9.2%)	65 ^{**} (13.0%)	73 ^{***} (14.6%)
2問正解者	65 (13.0%)	59 ^{**} (11.8%)	87 (17.4%)	82 (16.4%)	78 (15.6%)	89 [*] (17.8%)
1問正解者	84 (16.8%)	82 [*] (16.4%)	80 ^{**} (16.0%)	103 (20.6%)	102 (20.4%)	128 ^{***} (25.6%)
全問(5問)不正解者	284 ^{***} (56.8%)	280 ^{***} (56.0%)	225 (45.0%)	224 (44.8%)	209 ^{**} (41.8%)	165 ^{***} (33.0%)
Chi 2 test	102.0 ^{***}					
内、全問「わからない」選択者	270 ^{***} (54.0%)	263 ^{***} (52.6%)	210 (42.0%)	216 (43.2%)	188 ^{***} (37.6%)	140 ^{***} (28.0%)
Chi 2 test	95.6 ^{***}					
平均正答数(5点満点)	0.91点	0.97点	1.31点	1.19点	1.30点	1.43点
Kruskal-Wallis test	71.4 ^{***}					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

図6 客観的リテラシーの年代比較

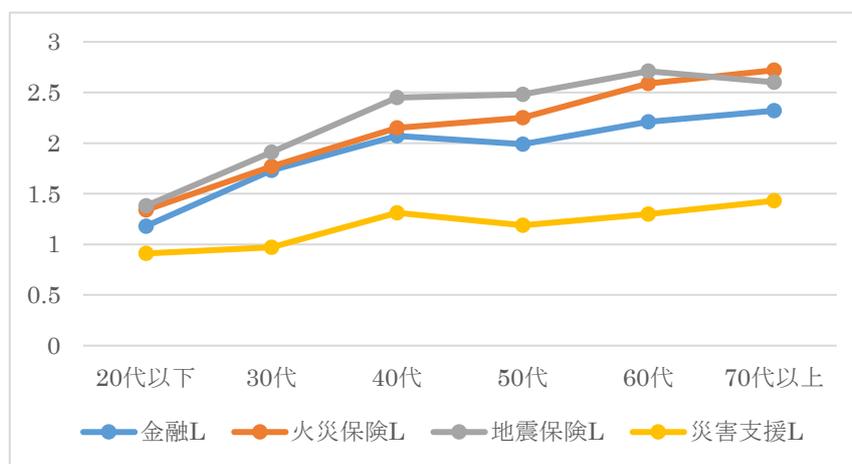


表 68 は、客観的リテラシーの水準を年代別で比較したものである。いずれのリテラシーについても、加齢につれて平均正答数は高くなる傾向が見られ、分布を見ると、30代以下で正答数が有意に低く、50~60代以上の正答数が有意に高くなっている。

なお、図6は、平均正答数を年代別でプロットしたものである。60代以下では地震保険リテラシーの水準が1番高く、70代では火災保険リテラシーの水準が1番高い。また、火災保険リテラシーは年齢が高くなるほど上昇傾向が見られるが、その他のリテラシーについては40代以降伸び率が鈍化している。

客観的リテラシーの男女比較

表 69 客観的リテラシー（平均値）の男女比較

	性別	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
20 代以下	男性	1.41	1.35	1.38	0.95
	女性	0.96	1.32	1.39	0.86
Mann-Whitney U		2.93***	0.14	-0.34	0.45
30 代	男性	2.21	2.07	2.12	1.15
	女性	1.26	1.48	1.71	0.78
Mann-Whitney U		6.50***	4.33***	2.46**	3.18***
40 代	男性	2.49	2.39	2.68	1.50
	女性	1.64	1.91	2.23	1.11
Mann-Whitney U		5.88***	3.56***	2.83***	2.45**
50 代	男性	2.39	2.56	2.84	1.33
	女性	1.60	1.94	2.13	1.05
Mann-Whitney U		5.59***	4.38***	4.33***	2.18**
60 代	男性	2.41	2.71	2.78	1.42
	女性	2.02	2.46	2.64	1.19
Mann-Whitney U		3.23***	2.26***	1.19	1.40
70 代以上	男性	2.59	2.89	2.82	1.55
	女性	2.06	2.55	2.38	1.32
Mann-Whitney U		4.46***	3.14***	3.18***	1.76*

図 7 客観的リテラシーの年代別・男女比較

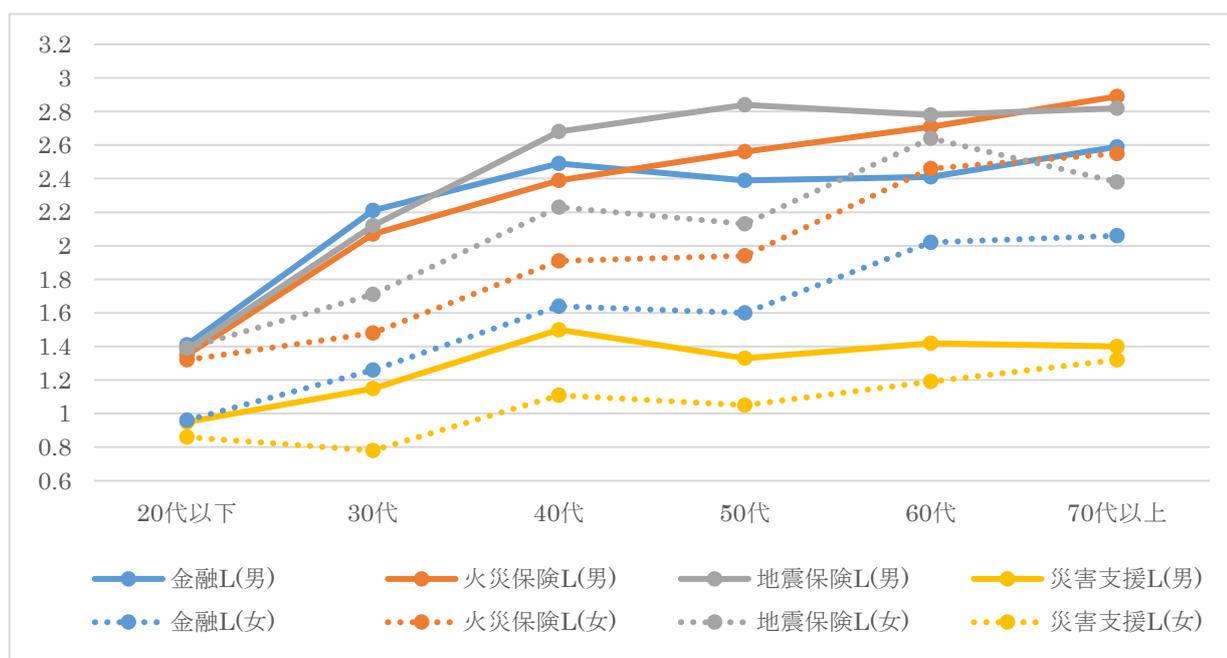


表 69(図 7)は、年代別で客観的リテラシーを男女で比較したものである。20 代以下を見ると、金融リテラシーについては男性の方が 1%水準で有意に高いが、保険リテラシーには男女で有意差は見られない。また、災害支援リテラシーについては、20 代以下と 60 代以上で高い有意差は見られない。30 代以上では、いずれのリテラシーにおいても男性の平均正答数が高い。

主観的リテラシー(Q30)の年代比較

表 70 主観的リテラシーの年代比較

①金融全般						
	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
平均よりも詳しい	60** (12.0%)	77 (15.4%)	76 (15.2%)	81 (16.2%)	90* (18.0%)	74 (14.8%)
平均的	102*** (20.4%)	133*** (26.6%)	166 (33.2%)	180 (36.0%)	190*** (38.0%)	219*** (43.8%)
平均よりも劣る	183 (36.6%)	217*** (43.4%)	205* (41.0%)	193 (38.6%)	170* (34.0%)	162*** (32.4%)
わからない	155*** (31.0%)	73 (14.6%)	53** (10.6%)	46*** (9.2%)	50*** (10.0%)	45*** (9.0%)
Chi 2 test	200.7***					
平均値(5 点満点)	2.38	2.40	2.49	2.54	2.64	2.66
Kruskal-Wallis test	25.5***					

②資産運用						
	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
平均よりも詳しい	61* (12.2%)	77 (15.4%)	73 (14.6%)	77 (15.4%)	85 (17.0%)	66 (13.2%)
平均的	92*** (18.4%)	136 (27.2%)	161 (32.2%)	156 (31.2%)	164* (32.8%)	178*** (35.6%)
平均よりも劣る	195 (39.0%)	214 (42.8%)	212 (42.4%)	217 (43.4%)	198 (39.6%)	208 (41.6%)
わからない	152*** (30.4%)	73 (14.6%)	54** (10.8%)	50*** (10.0%)	53*** (10.6%)	48*** (9.6%)
Chi 2 test	152.2***					
平均値(5 点満点)	2.31	2.41	2.45	2.42	2.53	2.47
Kruskal-Wallis test	8.25					

注) ***は 1%水準、**は 5%水準、*は 10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

③損害保険						
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)	500 (100%)
平均よりも詳しい	34 (6.8%)	31 (6.2%)	35 (7.0%)	44 (8.8%)	50** (10.0%)	41 (8.2%)
平均的	81*** (16.2%)	139 (27.8%)	152 (30.4%)	161 (32.2%)	174** (34.8%)	205*** (41.0%)
平均よりも劣る	226 (45.2%)	251* (50.2%)	251* (50.2%)	247 (49.4%)	219 (43.8%)	205*** (41.0%)
わからない	159*** (31.8%)	79 (15.8%)	62* (12.4%)	48*** (9.6%)	57*** (11.4%)	49*** (9.8%)
Chi 2 test	189.5***					
平均値(5点満点)	2.07	2.11	2.21	2.29	2.40	2.43
Kruskal-Wallis test	48.7***					

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 71 主観的リテラシー（平均値）の男女比較

年代	性別	①金融全般	②資産運用	③損害保険
20代以下	男性	2.69	2.65	2.24
	女性	2.09	1.99	1.90
Mann-Whitney U		4.37***	5.04***	2.75***
30代	男性	2.85	2.85	2.43
	女性	1.94	1.97	1.80
Mann-Whitney U		7.75***	7.38***	6.23***
40代	男性	2.76	2.76	2.45
	女性	2.23	2.13	1.97
Mann-Whitney U		4.73***	5.59***	4.69***
50代	男性	2.76	2.70	2.50
	女性	2.32	2.13	2.06
Mann-Whitney U		3.94***	4.92***	4.10***
60代	男性	2.79	2.72	2.60
	女性	2.50	2.33	2.20
Mann-Whitney U		2.45**	3.18***	4.05***
70代以上	男性	2.83	2.70	2.69
	女性	2.49	2.24	2.17
Mann-Whitney U		3.15***	4.36***	5.83***

表 70 は、金融や保険に関する知識の自己評価について年代別で比較したものである。①金融全般と③損害保険を見ると、30代・40代は「平均よりも劣る」の自己評価が①金融全般で約4割、③損害保険で半数を占めており有意に多い。そして、いずれの知識においても、60代以上は「平均的」と自己評価する人が3~4割を占め有意に多く、20代以下は「わからない」が約3割を占め有意に多い。

さらに、「平均よりもかなり詳しい」を5点から、「平均よりもかなり劣る」を1点として点数化し、平均値で比較すると、①金融全般と③損害保険では年齢が高くなるにつれ自己評価が有意に高くなるが、②資産運用については年齢と自己評価に有意差は見られない。

ちなみに、表71は、各年代で性別の自己評価を比較したものであるが、いずれの年代・知識についても男性の方が女性より自己評価が有意に高い。

客観的リテラシーと主観的リテラシー(Q30)の関係

表72 主観的リテラシーと客観的リテラシー(平均値)の比較

①金融全般	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
1. 平均よりもかなり詳しい	3.00	2.99	3.18	1.91
2. 平均よりも詳しい	2.96	2.88	3.19	1.58
3. 平均的	2.34	2.51	2.67	1.43
4. 平均よりも少し劣る	1.85	2.17	2.31	1.23
5. 平均よりもかなり劣る	1.26	1.72	1.74	0.88
6. わからない	0.93	1.07	1.08	0.54
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	593.0***	421.8***	423.3***	241.7***
Kruskal-Wallis test(わからない除く)	395.9***	201.5***	213.7***	114.0***

②資産運用全般	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
1. 平均よりもかなり詳しい	3.15	2.93	3.32	1.82
2. 平均よりも詳しい	2.98	2.89	3.10	1.63
3. 平均的	2.39	2.47	2.67	1.40
4. 平均よりも少し劣る	1.88	2.27	2.35	1.34
5. 平均よりもかなり劣る	1.32	1.82	1.85	0.92
6. わからない	0.93	1.09	1.10	0.54
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	607.8***	380.4***	388.7***	222.1***
Kruskal-Wallis test(わからない除く)	411.0***	163.3***	182.9***	92.8***

③損害保険	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
1. 平均よりもかなり詳しい	2.64	3.28	3.69	2.04
2. 平均よりも詳しい	2.80	3.22	3.45	2.01
3. 平均的	2.40	2.60	2.82	1.50
4. 平均よりも少し劣る	2.15	2.29	2.44	1.26
5. 平均よりもかなり劣る	1.46	1.75	1.75	0.89
6. わからない	1.00	1.09	1.11	0.54
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	407.6***	462.3***	471.1***	283.5***
Kruskal-Wallis test(わからない除く)	218.3***	240.2***	257.3***	145.2***

表72は、金融・保険に関する知識の自己評価別で客観的リテラシー(平均正答数)を比較したものである。いずれの知識、リテラシーについても自己評価が高い人ほど平均正答数が有意に高く、主観的評価と客観的評価には有意な正の相関が見られる。

金融・保険に関する学習経験(Q33)の年代比較

表 73 金融・保険に関する学習経験の年代比較

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	Chi 2 test
全体	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	500 (選択率)	
金融の知識	251*** (50.2%)	284 (56.8%)	308* (61.6%)	281 (56.2%)	304 (60.8%)	302 (60.4%)	18.7***
年金の知識	248*** (49.6%)	268** (53.6%)	296 (59.2%)	277 (55.4%)	324*** (64.8%)	340*** (68.0%)	60.1***
生命保険の知識	224*** (44.8%)	263* (52.6%)	292 (58.4%)	284 (56.8%)	304** (60.8%)	326*** (65.2%)	50.8***
損害保険の知識	205*** (41.0%)	247 (49.4%)	272 (54.4%)	263 (52.6%)	274 (54.8%)	298*** (59.6%)	40.0***
地震保険の知識	193*** (38.6%)	244 (48.8%)	263 (52.6%)	262 (52.4%)	264 (52.8%)	293*** (58.6%)	44.7***

表 73 は、金融・保険に関する知識の学習経験率を年代別で比較したものである。いずれの知識についても年齢が高くなるほど学習経験がある人が多くなっている。特に、20代以下は学習経験者が有意に低く、60代以上で有意に多い。

金融・保険に関する学習経験と客観的リテラシーの比較

表 74 学習経験と客観的リテラシー（平均値）の比較

	教育	金融知識	年金知識	生命保険知識	損害保険知識	地震保険知識
金融 L	有	2.33	2.30	2.28	2.31	2.31
	無	1.35	1.38	1.44	1.49	1.51
Mann-Whitney U		17.6***	16.3***	15.1***	14.7***	14.5***
火災保険 L	有	2.53	2.55	2.59	2.63	2.65
	無	1.60	1.55	1.55	1.60	1.61
Mann-Whitney U		16.2***	17.3***	18.0***	18.1***	18.3***
地震保険 L	有	2.70	2.73	2.76	2.82	2.83
	無	1.65	1.60	1.60	1.64	1.67
Mann-Whitney U		16.1***	17.1***	17.8***	18.1***	17.9***
災害支援 L	有	1.46	1.45	1.48	1.53	1.53
	無	0.82	0.81	0.81	0.82	0.84
Mann-Whitney U		13.6***	13.6***	14.4***	15.3***	14.8***

表 74 は、金融や保険の学習経験別で客観的リテラシーを比較したものである。いずれのリテラシーについても、教育経験がある人の方が有意に高い。学習内容別で比較すると、金融知識の学習経験者の金融リテラシーが 2.33 点と、金融知識以外を学んだ人よりも高く、また、地震保険の

学習経験者の地震保険のリテラシーが 2.83 点と 1 番高い。若干ではあるが、教育内容がリテラシーに与える影響がうかがえる。

表 75 金融や保険に関する学習の場（内訳）とリテラシー（平均値）の比較

金融の知識の学んだ経験有無別リテラシーの比較						
学んだ場所	金融リテラシー(Q31 正答数)			火災保険リテラシー(Q32:1~5 正答数)		
	選択者	非選択者	Mann-WU	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 学校:小学校~高校	1.82	1.92	-0.70	2.15	2.14	0.28
2. 学校:大学等	2.38	1.89	3.93***	2.47	2.12	2.77***
3. 職場	2.66	1.82	9.24***	2.88	2.04	9.46***
4. 対面型の研修等	2.62	1.90	4.06***	2.88	2.12	4.15***
5. オンライン型の研修等	2.49	1.91	2.65***	2.57	2.13	1.98**
6. 雑誌や本	2.90	1.71	15.8***	2.90	1.98	12.2***
7. テレビやラジオ	2.45	1.84	7.18***	2.73	2.05	7.82***
8. インターネット	2.57	1.73	12.6***	2.60	2.00	8.69***
9. 家族	2.00	1.91	0.98	2.15	2.13	0.11
10. 知人・友人	2.28	1.90	3.04***	2.41	2.12	2.11**
11. 保険会社の職員	2.12	1.91	1.21	2.54	2.12	2.33**
12. 保険会社の代理店	2.09	1.91	0.98	2.74	2.13	2.75***
13. 銀行などの金融機関	2.51	1.88	5.50***	2.77	2.09	5.77***
14. FP などの専門家	2.67	1.90	4.13***	2.93	2.12	4.33**
15. その他	2.91	1.90	4.49***	2.96	2.12	3.79***
16. 学んだことはない	1.35	2.33	-17.6***	1.60	2.53	-16.2***

学んだ場所	地震保険リテラシー(Q32:6~10 正答数)			災害支援リテラシー(Q34 正答数)		
	選択者	非選択者	Mann-WU	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 学校:小学校~高校	2.00	2.27	-1.71*	1.39	1.17	2.18**
2. 学校:大学等	2.66	2.23	2.87***	1.72	1.16	5.02***
3. 職場	3.18	2.14	10.0***	1.74	1.12	7.88***
4. 対面型の研修等	3.03	2.24	3.80***	1.95	1.17	4.88***
5. オンライン型の研修等	2.65	2.25	1.60	1.69	1.18	2.61***
6. 雑誌や本	3.09	2.08	11.7***	1.64	1.09	8.11***
7. テレビやラジオ	2.87	2.17	7.12***	1.55	1.13	6.06***
8. インターネット	2.81	2.10	9.10***	1.49	1.10	6.66***
9. 家族	2.42	2.24	1.64	1.22	1.18	1.47
10. 知人・友人	2.54	2.24	1.94*	1.32	1.18	2.02**
11. 保険会社の職員	2.73	2.24	2.46**	1.40	1.18	2.08**
12. 保険会社の代理店	2.70	2.25	1.84*	1.57	1.18	2.48**
13. 銀行などの金融機関	2.84	2.22	4.60***	1.44	1.17	3.08***
14. FP などの専門家	3.35	2.23	5.31***	2.00	1.17	5.66***
15. その他	2.74	2.25	1.86*	1.57	1.18	1.81*
16. 学んだことはない	1.65	2.70	-16.1***	0.82	1.46	-13.6***

年金の知識の学んだ経験有無別リテラシーの比較						
学んだ場所	金融リテラシー(Q31 正答数)			火災保険リテラシー(Q32:1~5 正答数)		
	選択者	非選択者	Mann-WU	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 学校:小学校~高校	1.44	1.93	-2.97***	1.75	2.15	-2.47**
2. 学校:大学等	2.05	1.91	0.90	2.22	2.13	0.49
3. 職場	2.48	1.82	8.23***	2.79	2.02	9.61***
4. 対面型の研修等	2.20	1.91	1.63	2.77	2.12	3.36***
5. オンライン型の研修等	2.33	1.91	1.59	2.67	2.13	1.99**
6. 雑誌や本	2.87	1.75	14.2***	2.94	2.00	11.9***
7. テレビやラジオ	2.48	1.83	7.98***	2.74	2.05	8.11***
8. インターネット	2.53	1.74	11.7***	2.67	1.98	9.91***
9. 家族	1.90	1.92	-0.08	2.12	2.14	-0.37
10. 知人・友人	2.22	1.90	2.65***	2.56	2.11	3.42***
11. 保険会社の職員	2.24	1.91	2.20**	2.44	2.13	1.84*
12. 保険会社の代理店	1.93	1.92	0.18	2.67	2.13	2.57**
13. 銀行などの金融機関	2.43	1.90	3.31***	2.58	2.12	2.79***
14. FPなどの専門家	2.44	1.91	2.75***	3.03	2.12	4.47***
15. その他	2.46	1.90	3.28***	2.77	2.12	3.79***
16. 学んだことはない	1.38	2.30	-16.3***	1.55	2.55	-17.3***

学んだ場所	地震保険リテラシー(Q32:6~10 正答数)			災害支援リテラシー(Q34 正答数)		
	選択者	非選択者	Mann-WU	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 学校:小学校~高校	1.66	2.28	-3.26***	1.24	1.18	0.69
2. 学校:大学等	2.33	2.25	0.44	1.70	1.16	4.33***
3. 職場	3.02	2.13	9.62***	1.61	1.11	7.36***
4. 対面型の研修等	2.97	2.24	3.27***	1.68	1.17	2.95***
5. オンライン型の研修等	2.73	2.25	1.53	1.73	1.18	2.66***
6. 雑誌や本	3.26	2.08	12.9***	1.68	1.10	8.13***
7. テレビやラジオ	2.86	2.17	7.22***	1.55	1.13	6.38***
8. インターネット	2.89	2.07	10.4***	1.51	1.09	6.89***
9. 家族	2.38	2.25	1.16	1.36	1.17	2.81***
10. 知人・友人	2.54	2.24	2.07**	1.50	1.17	4.15***
11. 保険会社の職員	2.63	2.24	2.08**	1.52	1.17	3.21***
12. 保険会社の代理店	2.64	2.25	1.68*	1.62	1.18	2.76***
13. 銀行などの金融機関	2.67	2.24	2.25**	1.21	1.18	0.69
14. FPなどの専門家	3.48	2.23	5.41***	2.25	1.16	6.33***
15. その他	2.71	2.24	2.31**	1.46	1.18	1.78*
16. 学んだことはない	1.60	2.73	-17.1***	0.81	1.45	-13.6***

生命保険の知識の学んだ経験有無別リテラシーの比較						
学んだ場所	金融リテラシー(Q31 正答数)			火災保険リテラシー(Q32:1~5 正答数)		
	選択者	非選択者	Mann-WU	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 学校:小学校~高校	1.70	1.92	-1.06	1.91	2.14	-1.00
2. 学校:大学等	1.93	1.92	0.03	2.20	2.13	0.33
3. 職場	2.54	1.84	7.79	2.88	2.04	9.22***
4. 対面型の研修等	2.83	1.90	4.17***	3.30	2.12	5.09***
5. オンライン型の研修等	1.98	1.92	0.38	2.61	2.13	2.14**
6. 雑誌や本	2.95	1.78	13.3***	2.97	2.03	10.7***
7. テレビやラジオ	2.53	1.86	6.87***	2.86	2.07	8.00***
8. インターネット	2.58	1.76	11.5***	2.71	2.00	9.83***
9. 家族	1.98	1.91	0.73	2.20	2.13	0.58
10. 知人・友人	2.12	1.91	1.62	2.41	2.12	1.98**
11. 保険会社の職員	2.25	1.86	4.83***	2.67	2.05	7.62***
12. 保険会社の代理店	2.30	1.88	4.30***	2.72	2.09	6.08***
13. 銀行などの金融機関	2.28	1.91	2.03**	2.66	2.12	2.74***
14. FPなどの専門家	2.40	1.90	3.27***	2.82	2.11	4.32***
15. その他	2.67	1.91	3.35***	2.87	2.12	3.34***
16. 学んだことはない	1.44	2.28	-15.1***	1.55	2.59	-18.0***

学んだ場所	地震保険リテラシー(Q32:6~10 正答数)			災害支援リテラシー(Q34 正答数)		
	選択者	非選択者	Mann-WU	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 学校:小学校~高校	1.77	2.27	-2.05**	1.43	1.18	1.49
2. 学校:大学等	2.15	2.26	-0.51	1.61	1.17	2.94***
3. 職場	3.16	2.14	9.79***	1.71	1.12	7.45***
4. 対面型の研修等	3.20	2.24	3.67***	2.37	1.17	5.31***
5. オンライン型の研修等	2.59	2.25	1.36	1.95	1.17	3.71***
6. 雑誌や本	3.34	2.11	12.1***	1.82	1.10	9.14***
7. テレビやラジオ	2.97	2.19	6.83***	1.68	1.14	6.79***
8. インターネット	2.91	2.10	9.74***	1.54	1.10	7.25***
9. 家族	2.39	2.24	1.26	1.36	1.17	2.59**
10. 知人・友人	2.63	2.24	2.32**	1.50	1.17	3.28***
11. 保険会社の職員	2.74	2.18	6.05***	1.39	1.15	4.21***
12. 保険会社の代理店	2.75	2.21	4.43***	1.51	1.16	4.19***
13. 銀行などの金融機関	2.74	2.25	2.25**	1.71	1.17	3.56***
14. FPなどの専門家	3.00	2.23	4.18***	1.78	1.17	4.51***
15. その他	3.09	2.24	3.14***	1.76	1.18	2.45**
16. 学んだことはない	1.60	2.76	-17.8***	0.81	1.48	-14.4***

損害保険の知識の学んだ経験有無別リテラシーの比較						
学んだ場所	金融リテラシー(Q31 正答数)			火災保険リテラシー(Q32:1~5 正答数)		
	選択者	非選択者	Mann-WU	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 学校:小学校~高校	1.50	1.92	-1.87*	1.69	2.14	-1.98**
2. 学校:大学等	2.02	1.92	0.44	2.16	2.14	0.06
3. 職場	2.47	1.86	6.37***	2.89	2.06	8.49***
4. 対面型の研修等	2.43	1.91	2.41**	2.93	2.12	3.41***
5. オンライン型の研修等	2.22	1.91	1.27	2.75	2.13	2.39**
6. 雑誌や本	2.94	1.80	12.5***	2.97	2.04	10.0***
7. テレビやラジオ	2.51	1.86	6.60***	2.91	2.06	8.42***
8. インターネット	2.58	1.76	11.4***	2.73	2.00	10.1***
9. 家族	1.97	1.91	0.46	2.19	2.13	0.40
10. 知人・友人	2.31	1.90	2.64***	2.46	2.12	2.29**
11. 保険会社の職員	2.28	1.88	3.94***	2.74	2.08	6.51***
12. 保険会社の代理店	2.30	1.88	4.27***	2.85	2.07	7.56***
13. 銀行などの金融機関	2.35	1.91	2.35**	2.65	2.12	2.68***
14. FPなどの専門家	2.37	1.91	2.41**	2.79	2.12	3.33***
15. その他	2.48	1.91	2.67***	2.80	2.12	3.44***
16. 学んだことはない	1.49	2.31	-14.7***	1.60	2.63	-18.1***

学んだ場所	地震保険リテラシー(Q32:6~10 正答数)			災害支援リテラシー(Q34 正答数)		
	選択者	非選択者	Mann-WU	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 学校:小学校~高校	1.71	2.27	-2.08**	1.44	1.18	1.60
2. 学校:大学等	2.31	2.26	0.19	1.76	1.17	3.38***
3. 職場	3.20	2.16	9.14***	1.72	1.13	7.13***
4. 対面型の研修等	2.87	2.25	2.45**	2.13	1.17	4.57***
5. オンライン型の研修等	2.31	2.26	0.29	1.75	1.18	2.50**
6. 雑誌や本	3.37	2.13	11.7***	1.77	1.12	8.05***
7. テレビやラジオ	3.02	2.18	7.26***	1.75	1.13	7.51***
8. インターネット	3.02	2.08	11.2***	1.57	1.10	7.75***
9. 家族	2.39	2.25	1.21	1.34	1.17	2.29**
10. 知人・友人	2.46	2.25	1.27	1.59	1.17	3.93***
11. 保険会社の職員	2.80	2.21	5.11***	1.54	1.15	4.87***
12. 保険会社の代理店	2.85	2.20	5.41***	1.53	1.16	4.52***
13. 銀行などの金融機関	2.62	2.25	1.62	1.54	1.18	2.07**
14. FPなどの専門家	3.27	2.24	4.55***	1.81	1.17	3.52***
15. その他	2.80	2.25	2.30**	1.57	1.18	1.55
16. 学んだことはない	1.64	2.82	-18.1***	0.82	1.53	-15.3***

地震保険の知識の学んだ経験有無別リテラシーの比較						
学んだ場所	金融リテラシー(Q31 正答数)			火災保険リテラシー(Q32:1~5 正答数)		
	選択者	非選択者	Mann-WU	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 学校:小学校~高校	1.54	1.92	-1.67*	1.72	2.14	-1.82*
2. 学校:大学等	1.89	1.92	-0.19	1.89	2.14	-1.13
3. 職場	2.51	1.87	6.24***	2.91	2.07	8.05***
4. 対面型の研修等	2.49	1.91	2.38**	2.94	2.13	2.98***
5. オンライン型の研修等	1.90	1.92	0.04	2.87	2.13	2.66***
6. 雑誌や本	2.95	1.80	12.3***	2.98	2.04	9.95***
7. テレビやラジオ	2.55	1.86	7.03***	2.89	2.06	8.23***
8. インターネット	2.58	1.77	11.1***	2.72	2.01	9.67***
9. 家族	1.93	1.92	0.07	2.12	2.14	-0.25
10. 知人・友人	2.25	1.91	2.13**	2.58	2.12	2.84***
11. 保険会社の職員	2.30	1.88	4.05***	2.82	2.08	7.14***
12. 保険会社の代理店	2.29	1.89	4.07***	2.92	2.07	7.93***
13. 銀行などの金融機関	2.24	1.91	1.69*	2.54	2.13	1.93*
14. FPなどの専門家	2.44	1.91	2.53**	2.94	2.12	3.75***
15. その他	2.57	1.90	3.36***	3.02	2.12	4.70***
16. 学んだことはない	1.51	2.31	-14.5***	1.61	2.65	-18.3***

学んだ場所	地震保険リテラシー(Q32:6~10 正答数)			災害支援リテラシー(Q34 正答数)		
	選択者	非選択者	Mann-WU	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 学校:小学校~高校	1.63	2.27	-2.38**	1.37	1.18	1.10
2. 学校:大学等	2.00	2.26	-1.03	1.50	1.18	1.56
3. 職場	3.26	2.17	8.97***	1.69	1.14	6.25***
4. 対面型の研修等	3.03	2.25	2.66***	2.26	1.17	4.18***
5. オンライン型の研修等	2.35	2.26	0.42	1.77	1.18	2.31**
6. 雑誌や本	3.38	2.13	11.5***	1.81	1.12	8.50***
7. テレビやラジオ	3.04	2.18	7.49***	1.69	1.14	6.89***
8. インターネット	3.03	2.08	11.2***	1.57	1.10	7.56***
9. 家族	2.38	2.25	1.12	1.35	1.17	2.23**
10. 知人・友人	2.61	2.25	1.99**	1.48	1.18	2.80***
11. 保険会社の職員	2.84	2.21	5.29***	1.53	1.16	4.73***
12. 保険会社の代理店	2.92	2.20	5.85***	1.58	1.15	4.94***
13. 銀行などの金融機関	2.74	2.25	2.01**	1.57	1.18	2.03**
14. FPなどの専門家	3.31	2.24	4.31***	1.85	1.17	3.48***
15. その他	3.00	2.24	3.25***	1.61	1.18	1.95*
16. 学んだことはない	1.67	2.83	-17.9***	0.84	1.53	-14.8***

表 75 は、金融や保険の具体的な学習の場でリテラシーを比較したものである。金融リテラシーについては「6. 雑誌や本」で学習している人のリテラシーの水準が高いが、保険リテラシーについては「14. FP などの専門家」に学んだ人のリテラシーの水準も高い。また、災害支援リテラシーについては「4. 対面型の研修、講演会、公開講座」で学習している人のリテラシーの水準も高くなっている。

6. リテラシーと自然災害に対するリスクマネジメント行動との関係

居住地の洪水リスクの把握(Q5)とリテラシーの関係

表 76 洪水リスクの把握とリテラシー（分布）の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)				
洪水リスクについて(Q5)	把握	忘れた	確認せず	知らない
全体	1521 (100%)	530 (100%)	832 (100%)	117 (100%)
全問(5問)正解者	94*** (6.2%)	18 (3.4%)	26** (3.1%)	3 (2.6%)
4問正解者	258*** (17.0%)	62 (11.7%)	77*** (9.3%)	9 (7.7%)
3問正解者	353*** (23.2%)	95 (17.9%)	124*** (14.9%)	11*** (9.4%)
2問正解者	336*** (22.1%)	108 (20.4%)	147** (17.7%)	12** (10.3%)
1問正解者	194*** (12.8%)	92 (17.4%)	163*** (19.6%)	20 (17.1%)
全問(5問)不正解者	286*** (18.8%)	155 (29.2%)	295*** (35.5%)	62*** (53.0%)
Chi 2 test	189.9***			

火災保険リテラシー(Q32設問1~5の正答数)				
洪水リスクについて(Q5)	把握	忘れた	確認せず	知らない
全体	1521 (100%)	530 (100%)	832 (100%)	117 (100%)
全問(5問)正解者	84*** (5.5%)	15* (2.8%)	26* (3.1%)	3 (2.6%)
4問正解者	351*** (23.1%)	79** (14.9%)	120*** (14.4%)	6*** (5.1%)
3問正解者	408*** (26.8%)	114 (21.5%)	132*** (15.9%)	14*** (12.0%)
2問正解者	296 (19.5%)	106 (20.0%)	156 (18.8%)	16 (13.7%)
1問正解者	152*** (10.0%)	96*** (18.1%)	124* (14.9%)	20 (17.1%)
全問(5問)不正解者	230*** (15.1%)	120 (22.6%)	274*** (32.9%)	58*** (49.6%)
Chi 2 test	227.4***			

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

地震保険リテラシー(Q32 設問 6~10 の正答数)				
洪水リスクについて(Q5)	把握	忘れた	確認せず	知らない
全体	1521 (100%)	530 (100%)	832 (100%)	117 (100%)
全問(5問)正解者	267*** (17.6%)	50*** (9.4%)	80*** (9.6%)	3*** (2.6%)
4問正解者	320*** (21.0%)	86 (16.2%)	113*** (13.6%)	9*** (7.7%)
3問正解者	276*** (18.1%)	77 (14.5%)	118 (14.2%)	14 (12.0%)
02問正解者	219 (14.4%)	76 (14.3%)	117 (14.1%)	15 (12.8%)
1問正解者	167 (11.0%)	82*** (15.5%)	86 (10.3%)	14 (12.0%)
全問(5問)不正解者	272*** (17.9%)	159 (30.0%)	318*** (38.2%)	62*** (53.0%)
Chi 2 test	203.2***			

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)				
洪水リスクについて(Q5)	把握	忘れた	確認せず	知らない
全体	1521 (100%)	530 (100%)	832 (100%)	117 (100%)
全問(5問)正解者	57*** (3.7%)	9 (1.7%)	8*** (1.0%)	1 (0.9%)
4問正解者	130*** (8.5%)	22** (4.2%)	32*** (3.8%)	2** (1.7%)
3問正解者	219*** (14.4%)	23** (4.3%)	60*** (7.2%)	11 (9.4%)
2問正解者	264*** (17.4%)	70 (13.2%)	115 (13.8%)	11 (9.4%)
1問正解者	299 (19.7%)	120** (22.6%)	145 (17.4%)	15 (12.8%)
全問(5問)不正解者	552*** (36.3%)	286*** (54.0%)	472*** (56.7%)	77*** (65.8%)
Chi 2 test	184.2***			

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 77 洪水リスクの把握とリテラシー（平均値）の比較

※Lは Literacy の略	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
浸水深を把握している	2.25	2.49	2.66	1.50
ハザードマップで確認したが忘れた	1.76	1.96	2.00	0.87
ハザードマップを知っているが確認していない	1.52	1.73	1.83	0.87
ハザードマップを知らない	1.09	1.14	1.17	0.71
Kruskal-Wallis test	170.5***	193.6***	181.0***	164.8***

表 76 と表 77 は、居住地の洪水リスクの把握状況別でリテラシーを比較したものである(表 76 は正答数の分布を、表 77 は平均正答数を比較したものである)。なお、「浸水深を把握している」

は Q5 の選択肢 1～5 の選択者(浸水深の数値を把握している人)、「忘れた」は「6. ハザードマップで確認したことはあるが忘れた」の選択者、「確認せず」は「7. ハザードマップは知っているが、立地を確認したことはない」の選択者、「知らない」は「8. ハザードマップを知らない」の選択者を意味する。

表 76(表 77)を見ると、いずれのリテラシーについても洪水リスクの把握と正答数には 1%水準で有意差があり、「浸水深を把握している」人のリテラシーが有意に高く、「忘れた」、「確認せず」、「知らない」の順でリテラシーが低くなっている。特に、いずれのリテラシーについても、「知らない(ハザードマップを知らない)」の約半数が全問不正解である。

なお、浸水深を把握している人のみを対象に、その浸水別(Q5 の選択肢 1～5)でリテラシーを比較したが、統計的な有意差は見られなかった。

居住地の土砂災害リスクの把握(Q6)とリテラシーの関係

表 78 土砂災害リスクの把握とリテラシー（分布）の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)					
土砂災害リスクについて(Q6)	リスク有	リスク無	忘れた	確認せず	知らない
全体	241 (100%)	1692 (100%)	215 (100%)	745 (100%)	107 (100%)
全問(5問)正解者	8 (3.3%)	101*** (6.0%)	6 (2.8%)	23** (3.1%)	3 (2.8%)
4問正解者	33 (13.7%)	256*** (15.1%)	27 (12.6%)	83** (11.1%)	7** (6.5%)
3問正解者	46 (19.1%)	379*** (22.4%)	37 (17.2%)	110*** (14.8%)	11** (10.3%)
2問正解者	51 (21.2%)	374*** (22.1%)	42 (19.5%)	124*** (16.6%)	12** (11.2%)
1問正解者	36 (14.9%)	247 (14.6%)	37 (17.2%)	133 (17.9%)	16 (15.0%)
全問(5問)不正解者	67 (27.8%)	335*** (19.8%)	66 (30.7%)	272*** (36.5%)	58*** (54.2%)
Chi 2 test	150.1***				

火災保険リテラシー(Q32設問1~5の正答数)					
土砂災害リスクについて(Q6)	リスク有	リスク無	忘れた	確認せず	知らない
全体	241 (100%)	1692 (100%)	215 (100%)	745 (100%)	107 (100%)
全問(5問)正解者	10 (4.1%)	95*** (5.6%)	5 (2.3%)	15*** (2.0%)	3 (2.8%)
4問正解者	58** (24.1%)	357*** (21.1%)	31 (14.4%)	106*** (14.2%)	4*** (3.7%)
3問正解者	61 (25.3%)	431*** (25.5%)	43 (20.0%)	121** (16.2%)	12*** (11.2%)
2問正解者	30*** (12.4%)	341 (20.2%)	45 (20.9%)	139 (18.7%)	19 (17.8%)
1問正解者	27 (11.2%)	185*** (10.9%)	40** (18.6%)	126*** (16.9%)	14 (13.1%)
全問(5問)不正解者	55 (22.8%)	283*** (16.7%)	51 (23.7%)	238*** (31.9%)	55*** (51.4%)
Chi 2 test	198.5***				

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

地震保険リテラシー(Q32 設問 6～10 の正答数)					
土砂災害リスクについて(Q6)	リスク有	リスク無	忘れた	確認せず	知らない
全体	241 (100%)	1692 (100%)	215 (100%)	745 (100%)	107 (100%)
全問(5問)正解者	35 (14.5%)	281*** (16.6%)	23 (10.7%)	59*** (7.9%)	2*** (1.9%)
4問正解者	38 (15.8%)	346***** (20.4%)	33 (15.3%)	101*** (13.6%)	10** (9.3%)
3問正解者	42 (17.4%)	288 (17.0%)	31 (14.4%)	111 (14.9%)	13 (12.1%)
02問正解者	38 (15.8%)	251 (14.8%)	25 (11.6%)	102 (13.7%)	11 (10.3%)
1問正解者	27 (11.2%)	199 (11.8%)	30 (14.0%)	81 (10.9%)	12 (11.2%)
全問(5問)不正解者	61 (25.3%)	327*** (19.3%)	73** (34.0%)	291*** (39.1%)	59*** (55.1%)
Chi 2 test	182.1***				

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)					
土砂災害リスクについて(Q6)	リスク有	リスク無	忘れた	確認せず	知らない
全体	241 (100%)	1692 (100%)	215 (100%)	745 (100%)	107 (100%)
全問(5問)正解者	8 (3.3%)	61*** (3.6%)	0** (0.0%)	5*** (0.7%)	1 (0.9%)
4問正解者	16 (6.6%)	130*** (7.7%)	11 (5.1%)	26*** (3.5%)	3 (2.8%)
3問正解者	33 (13.7%)	204*** (12.1%)	13** (6.0%)	50*** (6.7%)	13 (12.1%)
2問正解者	36 (14.9%)	305*** (18.0%)	31 (14.4%)	79*** (10.6%)	9** (8.4%)
1問正解者	44 (18.3%)	337 (19.9%)	47 (21.9%)	139 (18.7%)	12** (11.2%)
全問(5問)不正解者	104 (43.2%)	655*** (38.7%)	113 (52.6%)	446*** (59.9%)	69*** (64.5%)
Chi 2 test	151.5***				

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 79 土砂災害リスクの把握とリテラシー(平均値)の比較

※LはLiteracyの略	金融L	火災保険L	地震保険L	災害支援L
土砂災害リスクがある地域	1.86	2.29	2.31	1.32
土砂災害リスクがない地域	2.16	2.40	2.57	1.41
ハザードマップで確認したが忘れた	1.72	1.90	1.95	0.89
ハザードマップを知っているが確認していない	1.55	1.70	1.77	0.77
ハザードマップを知らない	1.08	1.11	1.15	0.80
Kruskal-Wallis test	124.4***	163.4***	159.4***	133.9***

表 78 と表 79 とは、居住地の土砂災害リスクの把握状況別でリテラシーを比較したものである（表 78 は正答数の分布を、表 79 は平均正答数を比較したものである）。

なお、「リスク有」は「1. 土砂災害リスクがある地域」の選択者、「リスク無」は「2. 土砂災害リスクがない地域」の選択者、「忘れた」は「3. ハザードマップで確認したことはあるが、土砂災害リスクの内容は忘れた」の選択者、「確認せず」は「4. ハザードマップは知っているが、土砂災害リスクを確認したことはない」の選択者、「知らない」は「5. ハザードマップを知らない」の選択者を意味する。

表 78(表 79)を見ると、いずれのリテラシーについても「リスク無(土砂災害リスクがない地域)」に居住している人の正答数が有意に高く、「確認せず(ハザードマップは知っているが、土砂災害リスクを確認したことはない)」や「(ハザードマップを)知らない」の正答数が低い。特に、いずれのリテラシーについても、「知らない(ハザードマップを知らない)」の過半数以上が全問不正解である。

表 79 よりリテラシーの水準を比較すると、いずれのリテラシーにおいても「リスク無(土砂災害リスクがない地域)」が 1 番高く、「リスク有(土砂災害リスクがある地域)」、「忘れた」、「確認せず」、「(ハザードマップを)知らない」の順である。

自然災害による住居の損害発生に対する心配度(Q7)とリテラシーの関係

表 80 自然災害による住居の損害発生に対する心配度とリテラシー（平均値）の比較

①地震の場合	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
非常に心配	1.71	2.09	2.22	1.23
ある程度心配	2.04	2.24	2.35	1.20
少し心配	1.98	2.15	2.27	1.15
ほとんど心配していない	2.10	2.26	2.39	1.27
全く心配していない	1.66	1.65	1.78	1.15
わからない	1.16	1.09	1.23	0.66
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	45.7***	50.8***	37.9***	17.7***
Kruskal-Wallis test(わからない除く)	26.4***	17.3***	12.1**	2.65

②火山噴火の場合	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
非常に心配	1.72	1.91	1.99	1.38
ある程度心配	1.86	1.99	2.14	1.15
少し心配	2.00	2.17	2.29	1.25
ほとんど心配していない	1.92	2.20	2.31	1.17
全く心配していない	1.96	2.18	2.30	1.19
わからない	1.20	1.22	1.44	0.83
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	25.5***	37.7***	24.3***	10.5*
Kruskal-Wallis test(わからない除く)	3.51	4.82	3.77	0.66

③津波の場合	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
非常に心配	1.44	1.82	1.77	1.18
ある程度心配	1.75	1.88	2.04	1.13
少し心配	1.84	2.00	2.02	1.11
ほとんど心配していない	1.92	2.15	2.32	1.08
全く心配していない	2.03	2.26	2.39	1.27
わからない	1.01	1.17	1.18	0.71
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	52.9***	51.2***	55.6***	22.3***
Kruskal-Wallis test(わからない除く)	26.4***	23.2***	28.8***	10.1**

④高潮・洪水・浸水の場合	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
非常に心配	1.58	1.91	1.93	1.18
ある程度心配	1.69	1.98	2.14	1.13
少し心配	1.87	2.09	2.16	1.12
ほとんど心配していない	1.96	2.14	2.30	1.16
全く心配していない	2.07	2.29	2.42	1.27
わからない	1.03	1.03	1.12	0.76
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	53.3***	54.4***	46.9***	17.0***
Kruskal-Wallis test(わからない除く)	29.2***	20.1***	18.8***	6.69

⑤土砂災害の場合	金融L	火災保険L	地震保険L	災害支援L
非常に心配	1.47	1.71	1.67	1.18
ある程度心配	1.56	1.87	2.00	1.02
少し心配	1.82	2.03	2.12	1.21
ほとんど心配していない	1.93	2.17	2.30	1.15
全く心配していない	2.12	2.31	2.45	1.27
わからない	0.96	1.06	1.19	0.71
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	76.6***	69.5***	62.0***	22.4***
Kruskal-Wallis test(わからない除く)	44.4***	32.9***	33.7***	7.71

図8 損害発生に対する心配度別リテラシーの比較

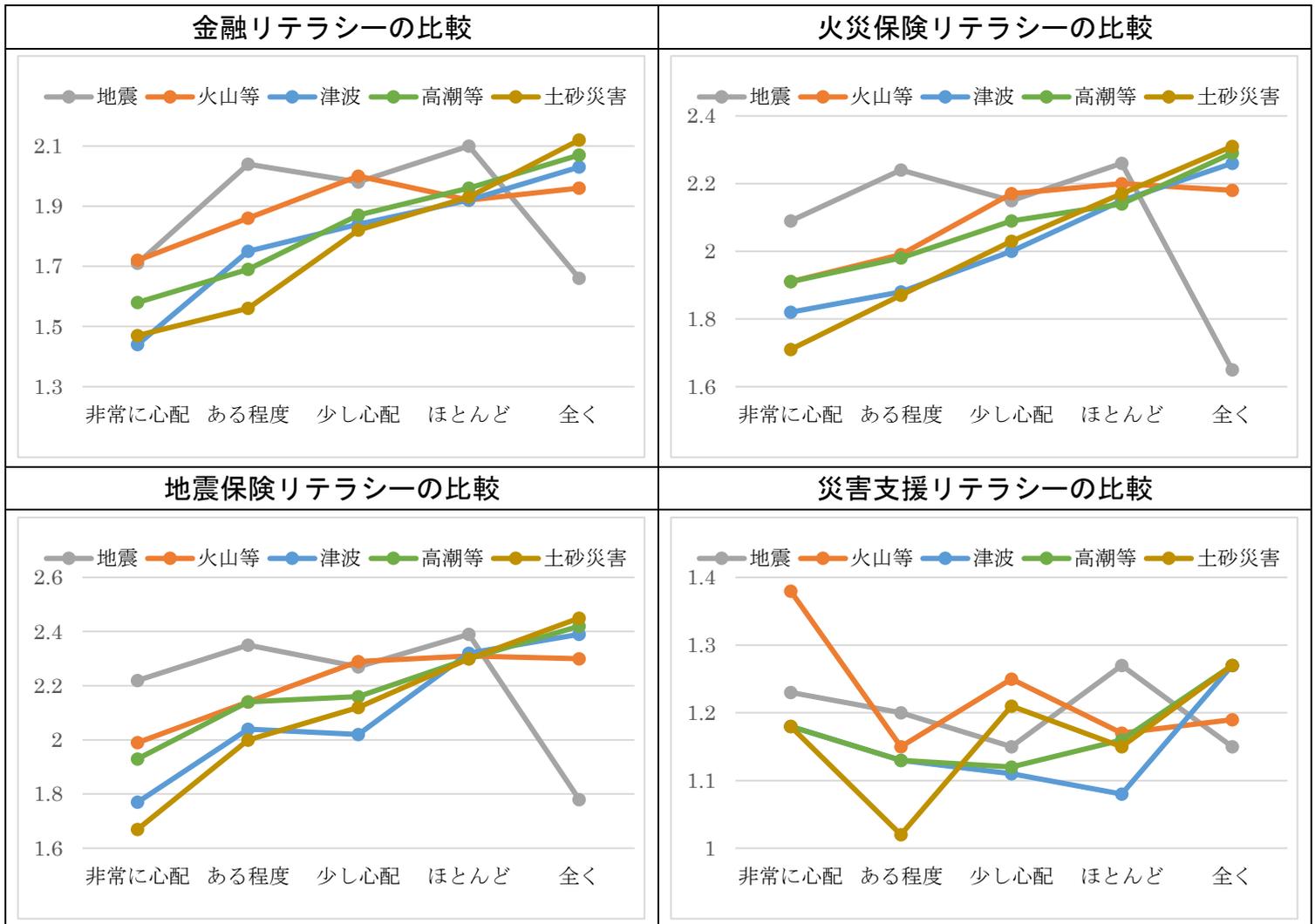


表 80 は、自然災害による住居の損害発生の可能性に対する心配度別でリテラシーを比較したものである。いずれのリテラシーについても有意差が見られ、心配の度合いが「わからない」と回答している人のリテラシーが有意に低い。「わからない」と回答した人を除いても全体的に有意差は見られるが、②火山噴火に対する心配度、及び、災害支援リテラシーには有意差が見られなく傾向である。

なお、図8は、災害種類別で心配度とリテラシーの関係をプロットしたものである。金融・保険リテラシーについて見ると、心配の度合いが低くなるほどリテラシーが高くなる傾向が見られるが、地震については「全く心配していない」のリテラシーが1番低い。また、災害支援リテラシーについては、心配度とリテラシーの水準に明確な関係性は見られない。

地震災害の備え(Q8)とリテラシーの関係

表81 地震災害の備えとリテラシー（分布）の比較

地震災害の備え(Q8)	金融リテラシー		火災保険リテラシー	
	している	していない	している	していない
全体	2312 (100%)	688 (100%)	2312 (100%)	688 (100%)
全問(5問)正解者	112 (4.8%)	29 (4.2%)	108** (4.7%)	20** (2.9%)
4問正解者	321 (13.9%)	85 (12.4%)	458*** (19.8%)	98*** (14.2%)
3問正解者	484*** (20.9%)	99*** (14.4%)	541*** (23.4%)	127*** (18.5%)
2問正解者	488** (21.1%)	115** (16.7%)	468*** (20.2%)	106*** (15.4%)
1問正解者	358 (15.5%)	111 (16.1%)	285** (12.3%)	107** (15.6%)
全問(5問)不正解者	549*** (23.7%)	249*** (36.2%)	452*** (19.6%)	230*** (33.4%)
Chi 2 test	49.2***		74.2***	

地震災害の備え(Q8)	地震保険リテラシー		災害支援リテラシー	
	している	していない	している	していない
全体	2312 (100%)	688 (100%)	2312 (100%)	688 (100%)
全問(5問)正解者	326** (14.1%)	74** (10.8%)	62 (2.7%)	13 (1.9%)
4問正解者	435*** (18.8%)	93*** (13.5%)	146 (6.3%)	40 (5.8%)
3問正解者	407*** (17.6%)	78*** (11.3%)	267*** (11.5%)	46*** (6.7%)
2問正解者	341 (14.7%)	86 (12.5%)	381*** (16.5%)	79*** (11.5%)
1問正解者	267 (11.5%)	82 (11.9%)	471*** (20.4%)	108*** (15.7%)
全問(5問)不正解者	536*** (23.2%)	275*** (40.0%)	985*** (42.6%)	402*** (58.4%)
Chi 2 test	83.0***		56.9***	

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 82 地震災害の備え（内容別）とリテラシー（平均値）の比較

金融リテラシー(Q31 の正答数)			
地震災害に対する備え(内容別)	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 家具の固定	2.03	1.83	3.53***
2. 持ち出し品の準備	2.01	1.86	2.67***
3. 非常時の食料・物資の備蓄	2.07	1.74	6.15***
4. 家族の緊急時の集合場所	2.05	1.88	2.80***
5. 自宅の免震性・耐震性の確認	2.27	1.84	5.87***
6. 住宅の耐震化の自治体補助	1.96	1.92	0.23
7. 避難訓練の参加	2.23	1.88	4.14***
8. 被害の小さい場所への転居	1.34	1.93	-3.11***
9. その他	1.83	1.92	-0.22
10. 何もしていない	1.63	2.00	-5.78***

火災保険リテラシー(Q32 設問 1~5 の正答数)			
地震災害に対する備え(内容別)	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 家具の固定	2.29	2.02	4.66***
2. 持ち出し品の準備	2.28	2.05	3.92***
3. 非常時の食料・物資の備蓄	2.34	1.90	7.64***
4. 家族の緊急時の集合場所	2.39	2.06	5.04***
5. 自宅の免震性・耐震性の確認	2.54	2.05	6.57***
6. 住宅の耐震化の自治体補助	2.06	2.14	-0.38
7. 避難訓練の参加	2.50	2.09	4.76***
8. 被害の小さい場所への転居	1.82	2.14	-1.65*
9. その他	2.29	2.13	0.53
10. 何もしていない	1.73	2.26	-7.71***

地震保険リテラシー(Q32 設問 6~10 の正答数)			
地震災害に対する備え(内容別)	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 家具の固定	2.43	2.12	4.66***
2. 持ち出し品の準備	2.43	2.15	4.23***
3. 非常時の食料・物資の備蓄	2.46	2.03	6.67***
4. 家族の緊急時の集合場所	2.55	2.17	5.05***
5. 自宅の免震性・耐震性の確認	2.74	2.15	6.93***
6. 住宅の耐震化の自治体補助	2.11	2.26	-0.62
7. 避難訓練の参加	2.65	2.20	4.45***
8. 被害の小さい場所への転居	2.05	2.26	-0.98
9. その他	2.50	2.25	0.61
10. 何もしていない	1.79	2.40	-7.89***

災害支援リテラシー(Q34の正答数)			
地震災害に対する備え(内容別)	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 家具の固定	1.35	1.06	6.12***
2. 持ち出し品の準備	1.28	1.13	3.34***
3. 非常時の食料・物資の備蓄	1.29	1.06	4.98***
4. 家族の緊急時の集合場所	2.55	2.17	5.98***
5. 自宅の免震性・耐震性の確認	2.74	2.15	5.44***
6. 住宅の耐震化の自治体補助	2.11	2.26	1.53
7. 避難訓練の参加	2.65	2.20	2.82***
8. 被害の小さい場所への転居	2.05	2.26	0.61
9. その他	2.50	2.25	-1.05
10. 何もしていない	1.79	2.40	-6.81***

図9 地震災害の備え(内容別)のリテラシーの比較

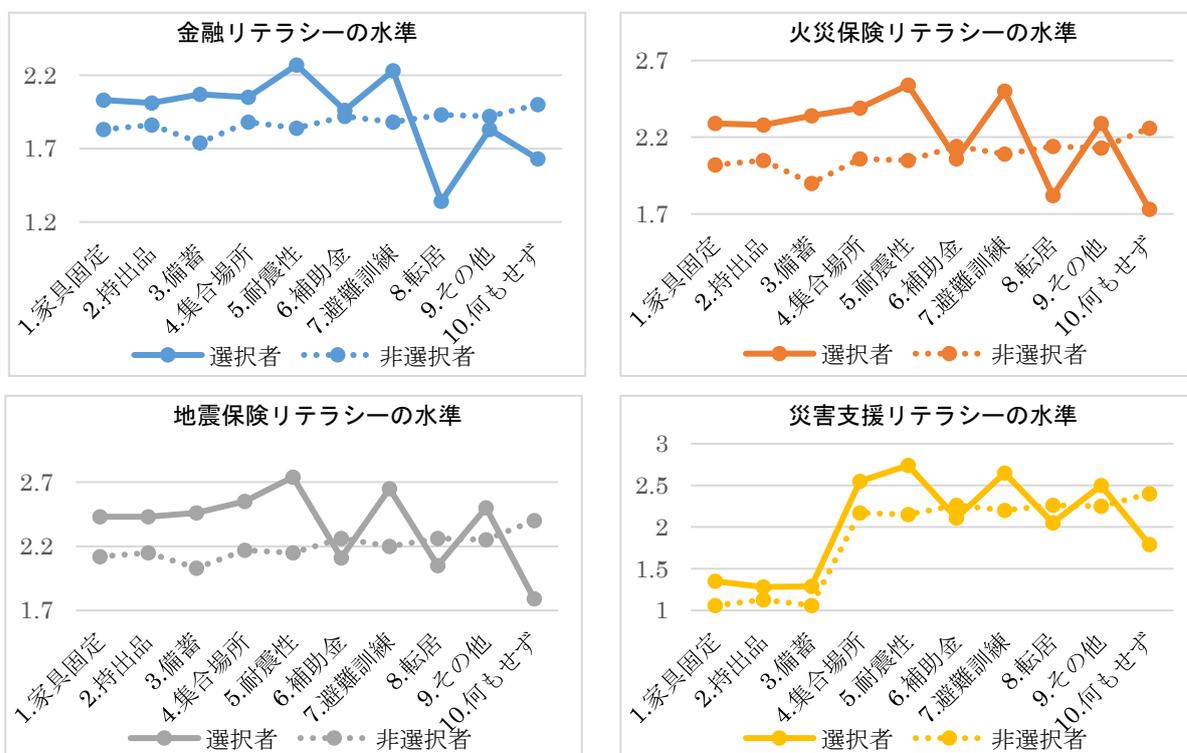


表 81 は、地震災害の備えの有無でリテラシー(正答数の分布)を比較したものである。いずれのリテラシーについても備えをしている人の平均正答数が有意に高く、特に、火災保険や地震保険リテラシーを見ると、備えをしている人の全問正解者や 4 問正答者が有意に多くなっている。また、いずれのリテラシーについても備えをしていない人の全問不正解者が有意に多く、災害支援リテラシーについては備えをしていない人の約 6 割(58.4%)が全問不正解である。

なお、表 82 は、地震災害の備えの具体的な内容別で平均正答数を比較したものである。いずれのリテラシーについても、選択肢 1~5・7(1. 家具の固定、2. 持出品の準備、3. 備蓄、4. 集合場所、5. 耐震性の確認、7. 避難訓練の参加)をしている人は、そうではない人と比べて平均正答数が有意に高い。一方、選択肢 8(被害の小さい場所への転居)については、選択者の金融リテラ

シーと火災保険リテラシーが有意に低くなっている。また、選択肢 6(耐震化について自治体の補助を受けた)については、いずれのリテラシーについても有意差が見られない。

図 9 より、リテラシーの水準を比較すると、いずれのリテラシーについても、「5. 自宅の免震性・耐震性の確認」や「7. 地域や職場、学校などで実施される避難訓練に参加している」人の平均正答数の水準が高い。また、災害支援リテラシーのみ、選択肢 1~3(1. 家具の固定、2. 持出品の準備、3. 備蓄)について、選択の有無に関わらず、平均正答数が極端に低くなっている。

保険金・公的支援金の受給状況(Q13・Q14)とリテラシーの関係

表 83 保険金・支援金の受給状況とリテラシー（分布）の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)				
受給状況	保険金(Q13)		公的支援金(Q14)	
	受け取った	受け取らなかった	受け取った	受け取らなかった
全体	237 (100%)	335 (100%)	127 (100%)	454 (100%)
全問(5問)正解者	13 (5.5%)	9 (2.7%)	11*** (8.7%)	12*** (2.6%)
4問正解者	35 (14.8%)	49 (14.6%)	13 (10.2%)	71 (15.6%)
3問正解者	52 (21.9%)	65 (19.4%)	25 (19.7%)	91 (20.0%)
2問正解者	45 (19.0%)	89 (26.6%)	30 (23.6%)	115 (25.3%)
1問正解者	44 (18.6%)	48 (14.3%)	19 (15.0%)	70 (15.4%)
全問(5問)不正解者	48 (20.3%)	75 (22.4%)	29 (22.8%)	95 (20.9%)
Chi 2 test	8.51		11.4**	

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1～5の正答数)				
受給状況	保険金(Q13)		公的支援金(Q14)	
	受け取った	受け取らなかった	受け取った	受け取らなかった
全体	237 (100%)	335 (100%)	127 (100%)	454 (100%)
全問(5問)正解者	23*** (9.7%)	12*** (3.6%)	6 (4.7%)	30 (6.6%)
4問正解者	60 (25.3%)	67 (20.0%)	30 (23.6%)	96 (21.1%)
3問正解者	54 (22.8%)	81 (24.2%)	26 (20.5%)	113 (24.9%)
2問正解者	41 (17.3%)	65 (19.4%)	27 (21.3%)	79 (17.4%)
1問正解者	28 (11.8%)	37 (11.0%)	19 (15.0%)	48 (10.6%)
全問(5問)不正解者	31*** (13.1%)	73*** (21.8%)	19 (15.0%)	88 (19.4%)
Chi 2 test	16.6***		5.18	

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6~10 の正答数)				
受給状況	保険金(Q13)		公的支援金(Q14)	
	受け取った	受け取らなかった	受け取った	受け取らなかった
全体	237 (100%)	335 (100%)	127 (100%)	454 (100%)
全問(5問)正解者	39 (16.5%)	42 (12.5%)	12 (9.4%)	68 (15.0%)
4問正解者	52 (21.9%)	59 (17.6%)	27 (21.3%)	87 (19.2%)
3問正解者	41 (17.3%)	56 (16.7%)	25 (19.7%)	74 (16.3%)
2問正解者	39 (16.5%)	64 (19.1%)	23 (18.1%)	83 (18.3%)
1問正解者	26 (11.0%)	38 (11.3%)	17 (13.4%)	46 (10.1%)
全問(5問)不正解者	40 (16.9%)	76 (22.7%)	23 (18.1%)	96 (21.1%)
Chi 2 test	5.74		4.51	

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)				
受給状況	保険金(Q13)		公的支援金(Q14)	
	受け取った	受け取らなかった	受け取った	受け取らなかった
全体	237 (100%)	335 (100%)	127 (100%)	454 (100%)
全問(5問)正解者	9 (3.8%)	7 (2.1%)	5 (3.9%)	12 (2.6%)
4問正解者	22 (9.3%)	30 (9.0%)	9 (7.1%)	43 (9.5%)
3問正解者	27 (11.4%)	41 (12.2%)	20 (15.7%)	49 (10.8%)
2問正解者	54 (22.8%)	51 (15.2%)	31** (24.4%)	75** (16.5%)
1問正解者	47 (19.8%)	81 (24.2%)	21* (16.5%)	108* (23.8%)
全問(5問)不正解者	78 (32.9%)	125 (37.3%)	41 (32.3%)	167 (36.8%)
Chi 2 test	7.80		9.55*	

表 84 保険金・支援金の受給状況とリテラシー（平均値）の比較

保険金	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
受け取った	2.09	2.65	2.66	1.56
受け取らなかった	1.98	2.20	2.33	1.38
Mann-WU	0.82	3.36***	2.29**	1.50

公的支援金	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
受け取った	2.06	2.37	2.41	1.61
受け取らなかった	2.02	2.38	2.47	1.40
Mann-WU	0.03	0.09	-0.39	1.51

表 83 は、災害被災経験者(684 人)を対象に、災害の保険金や公的支援金の受給状況でリテラシーを比較したものである(「わからない」回答者は除く)。表 83 を見ると、金融リテラシーにおいて、公的支援金を受け取った人の全問正解者が有意に多く、火災保険リテラシーにおいて、保険金を受け取った人の全問正解者が有意に多い。但し、表 84 を見ると、公的支援金の受給別で金融リテラシーの平均正答数には有意差は見られない。また、平均正答数で比較すると、保険金の受給状況別で地震保険リテラシーには 5%水準の有意差が見られ、受け取った人のリテラシーが有意に高い。火災保険リテラシーについては、分布と同様、平均値で見ても保険金を受け取った人の平均正答数が有意に高い。

被災経験後の保険加入意欲(Q15)とリテラシーの関係

表 85 被災経験後の保険加入意欲とリテラシー(分布)の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)						
	高まった	変化無	わからない		高まった	変化無
全体	410 (100%)	226 (100%)	48 (100%)		410 (100%)	226 (100%)
全問(5問)正解者	18 (4.4%)	8 (3.5%)	0 (0.0%)		18 (4.4%)	8 (3.5%)
4問正解者	52 (12.7%)	41** (18.1%)	3 (6.3%)		52 (12.7%)	41 (18.1%)
3問正解者	78 (19.0%)	48 (21.2%)	7 (14.6%)		78 (19.0%)	48 (21.2%)
2問正解者	96 (23.4%)	52 (23.0%)	6* (12.5%)		96 (23.4%)	52 (23.0%)
1問正解者	76** (18.5%)	29* (12.8%)	6 (12.5%)		76 (18.5%)	29 (12.8%)
全問(5問)不正解者	90 (22.0%)	48 (21.2%)	26*** (54.2%)		90 (22.0%)	48 (21.2%)
Chi 2 test	33.9***				6.50	

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1～5 の正答数)						
	高まった	変化無	わからない		高まった	変化無
全体	410 (100%)	226 (100%)	48 (100%)		410 (100%)	226 (100%)
全問(5問)正解者	20 (4.9%)	17* (7.5%)	0* (0.0%)		20 (4.9%)	17 (7.5%)
4問正解者	91 (22.2%)	43 (19.0%)	7 (14.6%)		91 (22.2%)	43 (19.0%)
3問正解者	90 (22.0%)	65** (28.8%)	3*** (6.3%)		90 (22.0%)	65 (28.8%)
2問正解者	79 (19.3%)	37 (16.4%)	7 (14.6%)		79 (19.3%)	37 (16.4%)
1問正解者	54 (13.2%)	22 (9.7%)	3 (6.3%)		54 (13.2%)	22 (9.7%)
全問(5問)不正解者	76** (18.5%)	42 (18.6%)	28*** (58.3%)		76 (18.5%)	42 (18.6%)
Chi 2 test	52.4***				7.33	

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6～10 の正答数)						
	高まった	変化無	わからない		高まった	変化無
全体	410 (100%)	226 (100%)	48 (100%)		410 (100%)	226 (100%)
全問(5問)正解者	53 (12.9%)	33 (14.6%)	3 (6.3%)		53 (12.9%)	33 (14.6%)
4問正解者	96*** (23.4%)	31** (13.7%)	4** (8.3%)		96*** (23.4%)	31*** (13.7%)
3問正解者	59 (14.4%)	48*** (21.2%)	3* (6.3%)		59** (14.4%)	48** (21.2%)
2問正解者	69 (16.8%)	45 (19.9%)	3** (6.3%)		69 (16.8%)	45 (19.9%)
1問正解者	51 (12.4%)	20 (8.8%)	6 (12.5%)		51 (12.4%)	20 (8.8%)
全問(5問)不正解者	82*** (20.0%)	49 (21.7%)	29*** (60.4%)		82 (20.0%)	49 (21.7%)
Chi 2 test	56.3***				13.9**	

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)						
	高まった	変化無	わからない		高まった	変化無
全体	410 (100%)	226 (100%)	48 (100%)		410 (100%)	226 (100%)
全問(5問)正解者	12 (2.9%)	4 (1.8%)	1 (2.1%)		12 (2.9%)	4 (1.8%)
4問正解者	36 (8.8%)	19 (8.4%)	1 (2.1%)		36 (8.8%)	19 (8.4%)
3問正解者	54 (13.2%)	25 (11.1%)	5 (10.4%)		54 (13.2%)	25 (11.1%)
2問正解者	76 (18.5%)	44 (19.5%)	2*** (4.2%)		76 (18.5%)	44 (19.5%)
1問正解者	93 (22.7%)	46 (20.4%)	6 (12.5%)		93 (22.7%)	46 (20.4%)
全問(5問)不正解者	139*** (33.9%)	88 (38.9%)	33*** (68.8%)		139 (33.9%)	88 (38.9%)
Chi 2 test	25.4***				2.78	

表 86 被災経験後の保険加入意欲とリテラシー（平均値）の比較

	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
1. 大きく高まった	1.74	2.41	2.53	1.81
2. 高まった	2.01	2.41	2.56	1.51
3. 少し高まった	1.98	2.19	2.39	1.35
4. ほとんど変化なかった	2.10	2.44	2.40	1.38
5. 全く変化なかった	2.20	2.37	2.43	1.26
6. わからない	1.06	1.13	1.08	0.71
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	22.7***	27.8***	28.3***	22.3***
Mann-WU test(わからない除く)	4.35	2.77	1.27	6.64

表 85 は、被災経験のある 684 人を対象に、保険に対する加入意欲の変化別でリテラシーを比較したものである。「高まった」は「大きく」と「少し」を含む。「変化無」は「ほとんど」と「全く」の計である。いずれのリテラシーにおいても「わからない」と回答する人で全問不正解者が有意に多いため、「わからない」と回答した人を除くと、地震保険リテラシー以外は有意性が見られなくなる。地震保険リテラシーを見ると、被災経験後に保険に対する加入意欲が「高まった」と回答した人は 4 問正解者が約 2 割と有意に多く、「変化無」と比較して平均正答数が多い傾向が見られる。但し、表 86 より平均正答数を比較すると、「わからない」を除くと保険に対する加入意欲とリテラシーには有意差は見られない。

地震保険の加入状況(Q16)とリテラシーの関係

表 87 建物の地震保険の加入状況とリテラシー（分布）の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)						
建物の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	1648 (100%)	884 (100%)	468 (100%)		1648 (100%)	884 (100%)
全問(5問)正解者	92** (5.6%)	44 (5.0%)	5 (1.1%)		92 (5.6%)	44 (5.0%)
4問正解者	235 (14.3%)	142*** (16.1%)	29*** (6.2%)		235 (14.3%)	142 (16.1%)
3問正解者	342** (20.8%)	189 (21.4%)	52*** (11.1%)		342 (20.8%)	189 (21.4%)
2問正解者	349 (21.2%)	184 (20.8%)	70*** (15.0%)		349 (21.2%)	184 (20.8%)
1問正解者	259 (15.7%)	111*** (12.6%)	99*** (21.2%)		259 (15.7%)	111 (12.6%)
全問(5問)不正解者	371*** (22.5%)	214 (24.2%)	213*** (45.5%)		371 (22.5%)	214 (24.2%)
Chi 2 test	156.3***				6.44	

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1～5の正答数)						
建物の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	1648 (100%)	884 (100%)	468 (100%)		1648 (100%)	884 (100%)
全問(5問)正解者	86*** (5.2%)	38 (4.3%)	4*** (0.9%)		86 (5.2%)	38 (4.3%)
4問正解者	348*** (21.1%)	172 (19.5%)	36*** (7.7%)		348 (21.1%)	172 (19.5%)
3問正解者	420*** (25.5%)	199 (22.5%)	49*** (10.5%)		420* (25.5%)	199* (22.5%)
2問正解者	319 (19.4%)	166 (18.8%)	89 (19.0%)		319 (19.4%)	166 (18.8%)
1問正解者	182*** (11.0%)	108 (12.2%)	102*** (21.8%)		182 (11.0%)	108 (12.2%)
全問(5問)不正解者	293*** (17.8%)	201 (22.7%)	188*** (40.2%)		293*** (17.8%)	201*** (22.7%)
Chi 2 test	202.7***				11.9**	

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6~10 の正答数)						
建物の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	1648 (100%)	884 (100%)	468 (100%)		1648 (100%)	884 (100%)
全問(5問)正解者	248*** (15.0%)	138** (15.6%)	14*** (3.0%)		248 (15.0%)	138 (15.6%)
4問正解者	351*** (21.3%)	142 (16.1%)	35*** (7.5%)		351*** (21.3%)	142*** (16.1%)
3問正解者	297*** (18.0%)	145 (16.4%)	43*** (9.2%)		297 (18.0%)	145 (16.4%)
2問正解者	243 (14.7%)	130 (14.7%)	54 (11.5%)		243 (14.7%)	130 (14.7%)
1問正解者	180 (10.9%)	93 (10.5%)	76*** (16.2%)		180 (10.9%)	93 (10.5%)
全問(5問)不正解者	329*** (20.0%)	236 (26.7%)	246*** (52.6%)		329*** (20.0%)	236*** (26.7%)
Chi 2 test		259.9***			20.9***	

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)						
建物の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	1648 (100%)	884 (100%)	468 (100%)		1648 (100%)	884 (100%)
全問(5問)正解者	46 (2.8%)	27 (3.1%)	2*** (0.4%)		46 (2.8%)	27 (3.1%)
4問正解者	116** (7.0%)	60 (6.8%)	10*** (2.1%)		116 (7.0%)	60 (6.8%)
3問正解者	173 (10.5%)	117*** (13.2%)	23*** (4.9%)		173** (10.5%)	117** (13.2%)
2問正解者	288*** (17.5%)	121 (13.7%)	51*** (10.9%)		288** (17.5%)	121** (13.7%)
1問正解者	337 (20.4%)	172 (19.5%)	70*** (15.0%)		337 (20.4%)	172 (19.5%)
全問(5問)不正解者	688*** (41.7%)	387 (43.8%)	312*** (66.7%)		688 (41.7%)	387 (43.8%)
Chi 2 test		113.6***			9.91*	

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

表 88 家財の地震保険の加入状況とリテラシー（分布）の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)						
家財の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	1225 (100%)	1203 (100%)	572 (100%)		1225 (100%)	1203 (100%)
全問(5問)正解者	69** (5.6%)	62 (5.2%)	10*** (1.7%)		69 (5.6%)	62 (5.2%)
4問正解者	171 (14.0%)	197*** (16.4%)	38*** (6.6%)		171 (14.0%)	197 (16.4%)
3問正解者	273*** (22.3%)	244 (20.3%)	66*** (11.5%)		273 (22.3%)	244 (20.3%)
2問正解者	273** (22.3%)	245 (20.4%)	85*** (14.9%)		273 (22.3%)	245 (20.4%)
1問正解者	187 (15.3%)	168** (14.0%)	114*** (19.9%)		187 (15.3%)	168 (14.0%)
全問(5問)不正解者	252*** (20.6%)	287*** (23.9%)	259*** (45.3%)		252 (20.6%)	287 (23.9%)
Chi 2 test	179.7***				8.44	

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1~5の正答数)						
家財の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	1225 (100%)	1203 (100%)	572 (100%)		1225 (100%)	1203 (100%)
全問(5問)正解者	69*** (5.6%)	55 (4.6%)	4*** (0.7%)		69 (5.6%)	55 (4.6%)
4問正解者	281*** (22.9%)	232 (19.3%)	43*** (7.5%)		281** (22.9%)	232** (19.3%)
3問正解者	323*** (26.4%)	273 (22.7%)	72*** (12.6%)		323** (26.4%)	273 (22.7%)
2問正解者	236 (19.3%)	235 (19.5%)	103 (18.0%)		236 (19.3%)	235 (19.5%)
1問正解者	125*** (10.2%)	145 (12.1%)	122*** (21.3%)		125 (10.2%)	145 (12.1%)
全問(5問)不正解者	191*** (15.6%)	263 (21.9%)	228*** (39.9%)		191*** (15.6%)	263*** (21.9%)
Chi 2 test	247.4***				23.2***	

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6~10 の正答数)						
家財の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	1225 (100%)	1203 (100%)	572 (100%)		1225 (100%)	1203 (100%)
全問(5問)正解者	204*** (16.7%)	172 (14.3%)	24*** (4.2%)		204 (16.7%)	172 (14.3%)
4問正解者	273*** (22.3%)	208 (17.3%)	47*** (8.2%)		273*** (22.3%)	208*** (17.3%)
3問正解者	232*** (18.9%)	195 (16.2%)	58*** (10.1%)		232 (18.9%)	195 (16.2%)
2問正解者	165 (13.5%)	192** (16.0%)	70 (12.2%)		165 (13.5%)	192 (16.0%)
1問正解者	138 (11.3%)	126 (10.5%)	85*** (14.9%)		138 (11.3%)	126 (10.5%)
全問(5問)不正解者	213*** (17.4%)	310 (25.8%)	288*** (50.3%)		213*** (17.4%)	310*** (25.8%)
Chi 2 test					35.1***	

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)						
家財の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	1225 (100%)	1203 (100%)	572 (100%)		1225 (100%)	1203 (100%)
全問(5問)正解者	33 (2.7%)	38 (3.2%)	4*** (0.7%)		33 (2.7%)	38 (3.2%)
4問正解者	98*** (8.0%)	76 (6.3%)	12*** (2.1%)		98 (8.0%)	76 (6.3%)
3問正解者	129 (10.5%)	155*** (12.9%)	29*** (5.1%)		129 (10.5%)	155 (12.9%)
2問正解者	216*** (17.6%)	181 (15.0%)	63*** (11.0%)		216 (17.6%)	181 (15.0%)
1問正解者	267*** (21.8%)	224 (18.6%)	88*** (15.4%)		267 (21.8%)	224 (18.6%)
全問(5問)不正解者	482*** (39.3%)	529** (44.0%)	376*** (65.7%)		482** (39.3%)	529** (44.0%)
Chi 2 test					14.4**	

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

表 89 建物更生共済（JA）の地震保険の加入状況とリテラシー（分布）の比較

金融リテラシー(Q31 の正答数の正答数)					
JA の地震保険	加入	非加入	わからない	加入	非加入
全体	237 (100%)	1994 (100%)	769 (100%)	237 (100%)	1994 (100%)
全問(5問)正解者	12 (5.1%)	115*** (5.8%)	14*** (1.8%)	12 (5.1%)	115 (5.8%)
4問正解者	27 (11.4%)	316*** (15.8%)	63*** (8.2%)	27 (11.4%)	316 (15.8%)
3問正解者	43 (18.1%)	431*** (21.6%)	109*** (14.2%)	43 (18.1%)	431 (21.6%)
2問正解者	50 (21.1%)	418 (21.0%)	135** (17.6%)	50 (21.1%)	418 (21.0%)
1問正解者	40 (16.9%)	285*** (14.3%)	144*** (18.7%)	40 (16.9%)	285 (14.3%)
全問(5問)不正解者	65 (27.4%)	429*** (21.5%)	304*** (39.5%)	65 (27.4%)	429 (21.5%)
Chi 2 test	137.8***			8.44	

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1～5 の正答数)					
JA の地震保険	加入	非加入	わからない	加入	非加入
全体	237 (100%)	1994 (100%)	769 (100%)	237 (100%)	1994 (100%)
全問(5問)正解者	7 (3.0%)	112*** (5.6%)	9*** (1.2%)	7* (3.0%)	112* (5.6%)
4問正解者	48 (20.3%)	420*** (21.1%)	88*** (11.4%)	48 (20.3%)	420 (21.1%)
3問正解者	50 (21.1%)	492*** (24.7%)	126*** (16.4%)	50 (21.1%)	492 (24.7%)
2問正解者	45 (19.0%)	403** (20.2%)	126** (16.4%)	45 (19.0%)	403 (20.2%)
1問正解者	21** (8.9%)	220*** (11.0%)	151*** (19.6%)	21 (8.9%)	220 (11.0%)
全問(5問)不正解者	66** (27.8%)	347*** (17.4%)	269*** (35.0%)	66*** (27.8%)	347*** (17.4%)
Chi 2 test	189.7***			17.6***	

注) ***は 1%水準、**は 5%水準、*は 10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6~10 の正答数)						
JA の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	237 (100%)	1994 (100%)	769 (100%)		237 (100%)	1994 (100%)
全問(5問)正解者	23 (9.7%)	327*** (16.4%)	50*** (6.5%)		23*** (9.7%)	327*** (16.4%)
4問正解者	30** (12.7%)	415*** (20.8%)	83*** (10.8%)		30*** (12.7%)	415*** (20.8%)
3問正解者	41 (17.3%)	348*** (17.5%)	96*** (12.5%)		41 (17.3%)	348 (17.5%)
2問正解者	43 (18.1%)	293 (14.7%)	91** (11.8%)		43 (18.1%)	293 (14.7%)
1問正解者	29 (12.2%)	207*** (10.4%)	113*** (14.7%)		29 (12.2%)	207 (10.4%)
全問(5問)不正解者	71 (30.0%)	404*** (20.3%)	336*** (43.7%)		71*** (30.0%)	404*** (20.3%)
Chi 2 test		215.7***			24.8***	

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)						
JA の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	237 (100%)	1994 (100%)	769 (100%)		237 (100%)	1994 (100%)
全問(5問)正解者	4 (1.7%)	64*** (3.2%)	7*** (0.9%)		4 (1.7%)	64 (3.2%)
4問正解者	18 (7.6%)	141*** (7.1%)	27*** (3.5%)		18 (7.6%)	141 (7.1%)
3問正解者	32 (13.5%)	234*** (11.7%)	47*** (6.1%)		32 (13.5%)	234 (11.7%)
2問正解者	43 (18.1%)	322 (16.1%)	95*** (12.4%)		43 (18.1%)	322 (16.1%)
1問正解者	36 (15.2%)	415*** (20.8%)	128** (16.6%)		36 (15.2%)	415 (20.8%)
全問(5問)不正解者	104 (43.9%)	818*** (41.0%)	465*** (60.5%)		104 (43.9%)	818 (41.0%)
Chi 2 test		103.2***			6.49	

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

表 90 その他の震損害補償保険の加入状況とリテラシー（分布）の比較

金融リテラシー(Q31の正答数の正答数)					
その他の地震保険	加入	非加入	わからない		
全体	208 (100%)	1932 (100%)	860 (100%)	加入	208 (100%)
				非加入	1932 (100%)
全問(5問)正解者	8 (3.8%)	118*** (6.1%)	15*** (1.7%)	加入	8 (3.8%)
4問正解者	20 (9.6%)	321*** (16.6%)	65*** (7.6%)	非加入	321*** (16.6%)
3問正解者	46 (22.1%)	415*** (21.5%)	122*** (14.2%)	加入	46 (22.1%)
2問正解者	51 (24.5%)	398 (20.6%)	154 (17.9%)	非加入	398 (20.6%)
1問正解者	39 (18.8%)	263*** (13.6%)	167*** (19.4%)	加入	39** (18.8%)
全問(5問)不正解者	44 (21.2%)	417*** (21.6%)	337*** (39.2%)	非加入	263** (13.6%)
Chi 2 test	170.5***			12.3**	

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1~5 の正答数)					
その他の地震保険	加入	非加入	わからない		
全体	208 (100%)	1932 (100%)	860 (100%)	加入	208 (100%)
				非加入	1932 (100%)
全問(5問)正解者	5 (2.4%)	110*** (5.7%)	13*** (1.5%)	加入	5 (2.4%)
4問正解者	48* (23.1%)	416*** (21.5%)	92*** (10.7%)	非加入	416 (21.5%)
3問正解者	57* (27.4%)	476*** (24.6%)	135*** (15.7%)	加入	57 (27.4%)
2問正解者	42 (20.2%)	371 (19.2%)	161 (18.7%)	非加入	371 (19.2%)
1問正解者	21 (10.1%)	205*** (10.6%)	166*** (19.3%)	加入	21 (10.1%)
全問(5問)不正解者	35** (16.8%)	354*** (18.3%)	293*** (34.1%)	非加入	205 (10.6%)
Chi 2 test	194.9***			4.94	

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6~10 の正答数)						
その他の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	208 (100%)	1932 (100%)	860 (100%)		208 (100%)	1932 (100%)
全問(5問)正解者	28 (13.5%)	320*** (16.6%)	52*** (6.0%)		28 (13.5%)	320 (16.6%)
4問正解者	42 (20.2%)	400*** (20.7%)	86*** (10.0%)		42 (20.2%)	400 (20.7%)
3問正解者	35 (16.8%)	332** (17.2%)	118** (13.7%)		35 (16.8%)	332 (17.2%)
2問正解者	34 (16.3%)	281 (14.5%)	112 (13.0%)		34 (16.3%)	281 (14.5%)
1問正解者	26 (12.5%)	195*** (10.1%)	128*** (14.9%)		26 (12.5%)	195 (10.1%)
全問(5問)不正解者	43** (20.7%)	404*** (20.9%)	364*** (42.3%)		43 (20.7%)	404 (20.9%)
Chi 2 test					2.62	

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)						
その他の地震保険	加入	非加入	わからない		加入	非加入
全体	208 (100%)	1932 (100%)	860 (100%)		208 (100%)	1932 (100%)
全問(5問)正解者	8 (3.8%)	60*** (3.1%)	7*** (0.8%)		8 (3.8%)	60 (3.1%)
4問正解者	18 (8.7%)	142*** (7.3%)	26*** (3.0%)		18 (8.7%)	142 (7.3%)
3問正解者	26 (12.5%)	236*** (12.2%)	51*** (5.9%)		26 (12.5%)	236 (12.2%)
2問正解者	39 (18.8%)	313 (16.2%)	108*** (12.6%)		39 (18.8%)	313 (16.2%)
1問正解者	50 (24.0%)	387 (20.0%)	142** (16.5%)		50 (24.0%)	387 (20.0%)
全問(5問)不正解者	67*** (32.2%)	794*** (41.1%)	526*** (61.2%)		67 (32.2%)	794 (41.1%)
Chi 2 test					6.67	

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

表 91 地震保険の加入状況とリテラシー（平均値）の比較

建物の地震保険	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
加入している	2.05	2.37	2.55	1.29
加入していない	2.07	2.17	2.31	1.29
わからない	1.15	1.26	1.12	0.62
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	142.1***	187.2***	235.3***	100.6
Mann-WU test(わからない除く)	-0.41	3.06***	3.12***	0.38

家財の地震保険	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
加入している	2.11	2.48	2.67	1.34
加入していない	2.07	2.19	2.32	1.28
わからない	1.20	1.29	1.24	0.65
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	160.3***	234.3***	256.1***	120.1***
Mann-WU test(わからない除く)	0.58	4.56***	4.98***	1.45

建物更生共済(JA)の地震保険	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
加入している	1.84	2.06	2.00	1.31
加入していない	2.13	2.38	2.57	1.33
わからない	1.38	1.53	1.51	0.78
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	133.8***	164.0***	200.4***	94.0***
Mann-WU test(わからない除く)	-2.79***	-2.83***	-4.83***	-0.23

その他の地震損害を補償するの保険	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
加入している	1.92	2.37	2.44	1.53
加入していない	2.16	2.38	2.56	1.34
わからない	1.37	1.54	1.52	0.76
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	158.7***	178.2***	203.8***	127.1***
Mann-WU test(わからない除く)	-2.21**	-0.05	-1.02	2.06**

図 10 地震保険加入者のリテラシー（平均正答数）の比較

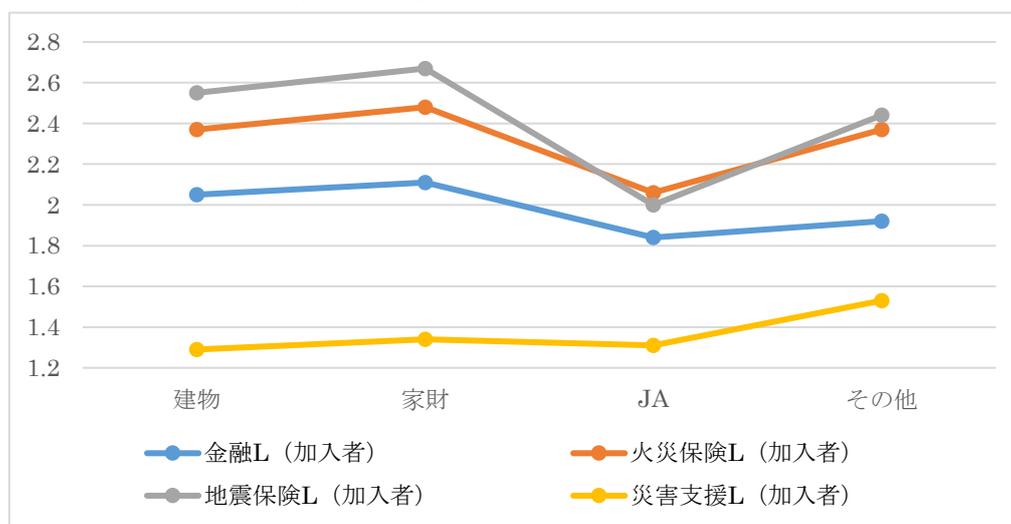


表 87～表 90 は各種地震保険の加入状況別でリテラシー(正答数の分布)について比較したものである(表 87 は建物、表 88 は家財、表 89 は建物更生共済(JA)、表 90 はその他の地震損害を補償する保険である)。

まず、地震保険の加入状況別で正答数の分布を比較すると、いずれの保険とリテラシーの種類についても、「わからない」の選択者のリテラシーが低い。従って、「わからない」選択者を除く加入者と非加入者と比較すると、建物の地震保険の加入状況で金融リテラシーと災害支援リテラシーには有意差が見られなくなる(全体的に金融リテラシーと災害支援リテラシーは、地震保険の加入の有無別で有意差が見られなくなる傾向である)。

ちなみに、地震保険リテラシーに注目すると、建物・家財の地震保険加入者の正答数は4問正解者が有意に多いが、JAの地震保険やその他の地震保険加入者の正答数は非加入者より有意に低い。

なお、表 91 は、地震保険の加入状況別で平均正答数を比較したものである(図 10 は加入者の平均正答数をプロットしたものである)。金融や保険リテラシーについては、建物・家財の地震保険の加入者の平均正答数が高く、次にその他の地震保険加入者、JAの地震保険加入者の順である。一方、災害支援リテラシーについては、その他の地震保険加入者の平均正答数が高く、建物の地震保険加入者の平均正答数が低くなっている。

地震保険の加入状況に影響を与えたもの(Q17)とリテラシーの関係

表 92 地震保険の加入状況に影響を与えたもの（平均値）の比較

金融リテラシー(Q31 の正答数)			
影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 保険会社の代理店	2.06	1.89	2.51**
2. 住宅ローンの貸し手	2.12	1.90	2.10**
3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	2.03	1.90	1.41
4. 家族や知人	1.93	1.92	0.27
5. FP などの保険や金融の専門家	2.02	1.91	0.94
6. 保険会社、代理店、比較サイトなどの HP	2.40	1.88	5.12***
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事	2.40	1.86	6.10***
8. 上記以外	2.13	1.91	0.88
9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない	1.98	1.89	1.59
10. わからない/忘れた	1.21	2.05	-11.0***

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1~5 の正答数)			
影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 保険会社の代理店	2.47	2.06	5.67***
2. 住宅ローンの貸し手	2.45	2.11	3.04***
3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	2.27	2.12	1.62
4. 家族や知人	2.24	2.12	1.45
5. FP などの保険や金融の専門家	2.54	2.12	3.21***
6. 保険会社、代理店、比較サイトなどの HP	2.66	2.09	5.38***
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事	2.62	2.08	5.98***
8. 上記以外	2.58	2.13	1.94*
9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない	2.12	2.14	-0.28
10. わからない/忘れた	1.24	2.30	-13.5***

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6~10 の正答数)			
影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 保険会社の代理店	2.55	2.19	4.39***
2. 住宅ローンの貸し手	2.71	2.22	3.92***
3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	2.61	2.22	3.74***
4. 家族や知人	2.39	2.23	1.83*
5. FP などの保険や金融の専門家	2.76	2.23	3.51***
6. 保険会社、代理店、比較サイトなどの HP	2.99	2.19	6.62***
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事	2.81	2.19	5.93***
8. 上記以外	2.87	2.25	2.36**
9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない	2.24	2.26	-0.36
10. わからない/忘れた	1.18	2.45	-14.1***

災害支援リテラシー(Q34の正答数)			
影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 保険会社の代理店	1.40	1.14	4.53***
2. 住宅ローンの貸し手	1.43	1.17	3.64***
3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	1.26	1.18	1.37
4. 家族や知人	1.35	1.16	3.45***
5. FPなどの保険や金融の専門家	1.58	1.17	3.86***
6. 保険会社、代理店、比較サイトなどのHP	1.76	1.14	6.50***
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事	1.55	1.14	5.55***
8. 上記以外	1.49	1.18	1.08
9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない	1.13	1.21	-1.87*
10. わからない/忘れた	0.99	1.27	-9.13***

図 11 地震保険の加入状況に影響を与えたものとりテラシー（平均正答数）の比較

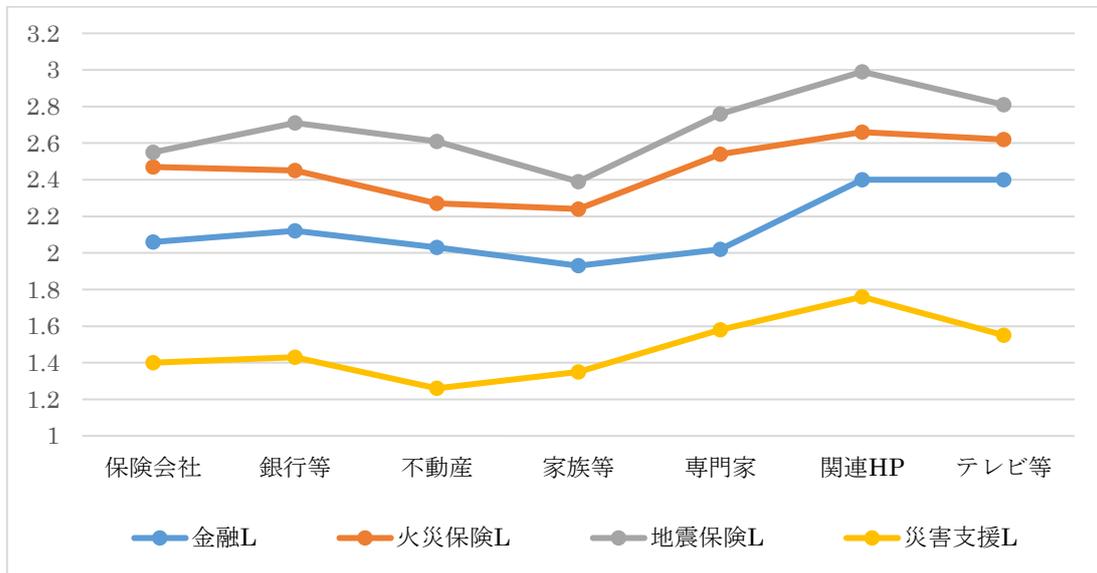


表 92 は、地震保険に加入するか否かに影響を与えた内容別で平均正答数を比較したものである。

まず、「10. わからない／忘れた」を選択した人のリテラシーが 1%水準で有意に低い。また、「9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない」については、選択の有無でリテラシーに 5%水準以上の有意差は見られなかった。

影響を受けた人について、その具体的な内容別で比較すると、「4. 家族や知人」の助言を受けたかどうかで有意差は見られない傾向である（但し、災害支援リテラシーについては有意差が見られる）。

ちなみに、図 11 は、選択肢 1～7 の選択者の平均正答数をプロットしたものである。図 11 を見ると、いずれのリテラシーについても「6. 保険会社、代理店、比較サイトなどの HP」を参考に行っている人のリテラシーの水準が高い。

地震保険料の割引適用の状況(Q18)とリテラシーの関係

表 93 地震保険料の割引適用状況とリテラシー（平均値）の比較

地震保険料の割引適用状況	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
割引を受けている	2.36	2.65	3.08	1.67
割引を受けているがどれかはわからない	1.98	2.21	2.45	1.21
割引を受けているかどうかわからない	1.93	2.19	2.33	1.05
割引を受けていない	2.06	2.51	2.61	1.43
Kruskal-Wallis test	16.2***	27.7***	40.5***	45.4***

表 94 地震保険料の割引適用内容とリテラシー（平均値）の比較

割引適用内容	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
建築年割引	2.38	2.87	3.24	1.70
耐震等級割引	2.32	2.66	3.07	1.67
免震建築物割引	2.38	2.38	2.90	1.52
耐震診断割引	2.40	1.90	2.55	1.85
Kruskal-Wallis test	0.07	10.2**	2.72	1.12

表 93 は、建物か家財の地震保険に加入している 1721 人を対象に、地震保険料の割引適用状況別で平均正答数を比較したものである。いずれのリテラシーについても「割引を受けている」（Q18 の選択肢 1～4 いずれかの選択者）のリテラシーの水準が高く、次に「割引を受けていない」のリテラシーが高い。「割引を受けているがどれかはわからない」または「割引を受けているかどうかわからない」と回答した人のリテラシーが低くなっている。

なお、表 94 は、割引を受けている人を対象に、割引の内容別でリテラシーを比較したものである。火災保険リテラシーのみ 5%水準の有意差があり、ペアごとの検定結果を見ると、「建築年割引」を受けている人のリテラシーは、「耐震診断割引」を受けている人よりも有意に高くなっている。

地震保険(建物)の保険金額の設定(Q19)とリテラシーの関係

表 95 地震保険(建物)の保険金額の設定とリテラシー(平均値)の比較

保険金額の設定	金融L	火災保険L	地震保険L	災害支援L
100%(火災保険金額と同様)	2.43	2.55	2.54	1.57
50%超~100%未満	2.29	2.70	3.03	1.83
50%ちょうど	2.65	3.02	3.45	1.54
30%超~50%未満	2.56	2.81	3.26	1.84
30%ちょうど	2.23	2.61	2.68	1.81
30%未満	2.20	2.59	2.67	1.61
わからない	1.73	2.04	2.15	1.02
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	106.6***	112.4***	151.8***	90.6***
Kruskal-Wallis test(わからない除く)	10.1*	11.5**	34.1***	7.13

表 95 は、建物の地震保険加入者 1648 人を対象に、地震保険金額の設定別(火災保険金額の何割に設定しているか)で平均正答数を比較したものである。いずれのリテラシーについても「わからない」と回答している人の平均正答数が低いため 1%水準で有意差が見られるが、「わからない」を除くと、災害支援リテラシーについては有意差が見られない。

ちなみに、地震保険の保険金額は 30%~50%で設定することになっているが、金融・保険リテラシーについては「50%ちょうど」または「30%超~50%未満」設定者のリテラシーが高くなっている。

地震保険(建物)の加入に影響を与えたもの(Q20)とリテラシーの関係

表 96 地震保険(建物)の加入に影響を与えたものとリテラシー(平均値)の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)			
加入に影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 自分自身の考え	2.33	1.81	6.93***
2. 保険会社の代理店の勧め	1.96	2.07	-0.92
3. 住宅ローンの貸し手の勧め	2.09	2.05	0.38
4. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	1.95	2.07	-1.14
5. 家族や知人の勧め	1.99	2.07	-0.77
6. FPなどの保険や金融の専門家の勧め	2.02	2.05	0.01
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの推奨記事	2.57	2.03	2.74***
8. 学校での保険教育	2.25	2.05	0.27
9. 上記以外	1.92	2.06	-0.70
10. わからない/忘れた	1.42	2.12	-5.71***

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1~5 の正答数)			
加入に影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 自分自身の考え	2.71	2.07	8.65***
2. 保険会社の代理店の勧め	2.44	2.36	0.69
3. 住宅ローンの貸し手の勧め	2.33	2.37	-0.45
4. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	2.20	2.40	-1.97**
5. 家族や知人の勧め	2.23	2.41	-2.11**
6. FPなどの保険や金融の専門家の勧め	2.48	2.36	0.56
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの推奨記事	2.41	2.37	-0.01
8. 学校での保険教育	2.13	2.37	-0.50
9. 上記以外	2.22	2.37	-0.83
10. わからない/忘れた	1.55	2.4	-6.99***

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6~10 の正答数)			
加入に影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 自分自身の考え	2.89	2.26	7.46***
2. 保険会社の代理店の勧め	2.57	2.55	0.04
3. 住宅ローンの貸し手の勧め	2.59	2.54	0.34
4. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	2.44	2.57	-1.14
5. 家族や知人の勧め	2.42	2.59	-1.79*
6. FPなどの保険や金融の専門家の勧め	2.69	2.54	0.56
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの推奨記事	2.81	2.54	1.23
8. 学校での保険教育	1.88	2.55	-1.11
9. 上記以外	2.20	2.56	-1.52
10. わからない/忘れた	1.71	2.64	-6.29***

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)			
加入に影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 自分自身の考え	1.51	1.10	6.08***
2. 保険会社の代理店の勧め	1.40	1.27	1.85*
3. 住宅ローンの貸し手の勧め	1.29	1.29	0.03
4. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	1.14	1.32	-1.43
5. 家族や知人の勧め	1.34	1.28	0.74
6. FPなどの保険や金融の専門家の勧め	1.69	1.28	2.21**
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの推奨記事	1.63	1.28	2.59**
8. 学校での保険教育	1.88	1.29	1.56
9. 上記以外	1.14	1.29	-0.72
10. わからない/忘れた	0.72	1.35	-6.09***

表 96 は、建物の地震保険加入者 1648 人を対象に、加入に影響を与えたもの別で平均正答数を比較したものである。いずれのリテラシーについても「1. 自分自身の考え」で加入している人のリテラシーが 1%水準で有意に高く、「10. わからない/忘れた」と回答している人のリテラシーが低い。

自分自身の考え以外のものについて見ると、全体的に有意差が見られなくなる。有意差のあるものを見ると、「7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの推奨記事」が加入に影響したと回答した人の金融リテラシーと災害支援リテラシーが有意に高い。また、災害リテラシーについては「6. FPなどの専門家の勧め」で加入した人のリテラシーも有意に高くなっている。

地震保険(建物)の加入理由(Q21)とリテラシーの関係

表 97 地震保険(建物)の加入理由別とリテラシー(平均値)の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)			
地震保険(建物)に加入した理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 住宅ローンの条件とされたから	1.88	2.08	-1.71*
2. 地震被災後の住宅ローンの支払い負担を軽減できるから	2.26	2.03	1.78*
3. 多くの人が入っているから	1.86	2.07	-1.69*
4. 政府が加入を勧めているから	2.54	2.04	1.89*
5. 勧めてくれる人・会社があったから	2.04	2.05	-0.02
6. 地震被災後の住宅再建の費用をまかなう必要があるから	2.37	1.89	6.06***
7. 地震被災後の生活資金をまかなうことができるから	2.22	2.00	2.43**
8. 保険料負担が大きくないから	2.37	1.99	3.73***
9. 特に理由はない	1.92	2.07	-1.56
10. わからない	1.35	2.10	-5.08***

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1~5 の正答数)			
地震保険(建物)に加入した理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 住宅ローンの条件とされたから	2.07	2.42	-3.49***
2. 地震被災後の住宅ローンの支払い負担を軽減できるから	2.46	2.36	0.63
3. 多くの人が入っているから	2.21	2.39	-1.54
4. 政府が加入を勧めているから	2.57	2.36	0.62
5. 勧めてくれる人・会社があったから	2.25	2.38	-1.17
6. 地震被災後の住宅再建の費用をまかなう必要があるから	2.83	2.14	8.76***
7. 地震被災後の生活資金をまかなうことができるから	2.75	2.26	5.23***
8. 保険料負担が大きくないから	2.71	2.30	4.07***
9. 特に理由はない	2.06	2.42	-3.22***
10. わからない	1.29	2.44	-7.56***

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6～10 の正答数)			
地震保険(建物)に加入した理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 住宅ローンの条件とされたから	2.31	2.59	-2.39**
2. 地震被災後の住宅ローンの支払い負担を軽減できるから	2.81	2.52	1.90*
3. 多くの人が入っているから	2.43	2.56	-0.94
4. 政府が加入を勧めているから	2.81	2.54	0.94
5. 勧めてくれる人・会社があったから	2.45	2.56	-0.86
6. 地震被災後の住宅再建の費用をまかなう必要があるから	2.96	2.35	6.64***
7. 地震被災後の生活資金をまかなうことができるから	2.99	2.43	5.46***
8. 保険料負担が大きくないから	2.77	2.50	2.14**
9. 特に理由はない	2.36	2.58	-1.70*
10. わからない	1.50	2.62	-6.36***

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)			
地震保険(建物)に加入した理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 住宅ローンの条件とされたから	1.19	1.31	-0.80
2. 地震被災後の住宅ローンの支払い負担を軽減できるから	1.54	1.26	2.87***
3. 多くの人が入っているから	1.30	1.29	0.41
4. 政府が加入を勧めているから	1.68	1.28	2.34**
5. 勧めてくれる人・会社があったから	1.38	1.28	1.16
6. 地震被災後の住宅再建の費用をまかなう必要があるから	1.56	1.16	5.74***
7. 地震被災後の生活資金をまかなうことができるから	1.64	1.19	5.53***
8. 保険料負担が大きくないから	1.57	1.24	4.00***
9. 特に理由はない	1.04	1.33	-3.58***
10. わからない	0.74	1.33	-4.78***

表 97 は、建物の地震保険に加入した 1648 人を対象に、加入した理由別で平均正答数を比較したものである。

まず、いずれのリテラシーについても「わからない」の選択者のリテラシーが有意に低く、「9. 特に理由はない」の選択者も有意に低い傾向である。

そして、理由がある人を見ると、いずれのリテラシーについても「6. 地震被災後の住宅再建の費用をまかなう必要があるから」、「7. 地震被災後の生活資金をまかなうことができるから」、「8. 保険料負担が大きくないから」の選択者の平均正答数が 5%水準以上で有意に高く、被災後の対処を考えていたり、被災後の費用を考慮すれば保険料の負担は大きくないと考えていたりする人のリテラシーの水準が高い。

一方、「1. 住宅ローンの条件とされたから」という理由で加入した人は、金融リテラシーや保険リテラシーが有意に低い傾向が見られる。

地震保険(建物)の非加入の理由(Q22)とリテラシーの関係

表 98 地震保険(建物)の非加入の理由別とリテラシー(平均値)の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)			
非加入の理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 大きな地震が起こりそうにない	2.10	2.07	0.16
2. 建物の免震性や耐震性が高いので、被害を受けるとは思えない	2.50	2.00	3.46***
3. 保険料がリスクに見合わない	2.56	1.83	6.71***
4. 補償が限られている	2.54	1.92	5.17***
5. 保険料を負担できない	1.76	2.14	-2.72***
6. 加入する機会がなかった	1.57	2.13	-3.15***
7. 地震保険のしくみがよくわからない	1.51	2.14	-3.57***
8. 地震保険の存在を知らなかった	1.00	2.09	-2.72***
9. 家族や知人から地震保険は不要だと聞いたことがある	1.64	2.09	-1.63
10. その他	2.49	2.05	2.02**
11. 理由はない	1.63	2.17	-3.98***

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1~5の正答数)			
非加入の理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 大きな地震が起こりそうにない	2.19	2.16	0.13
2. 建物の免震性や耐震性が高いので、被害を受けるとは思えない	2.61	2.09	3.52***
3. 保険料がリスクに見合わない	2.66	1.92	6.60***
4. 補償が限られている	2.70	1.99	5.75***
5. 保険料を負担できない	1.93	2.21	-2.19**
6. 加入する機会がなかった	1.74	2.21	-2.58**
7. 地震保険のしくみがよくわからない	1.75	2.21	-2.60***
8. 地震保険の存在を知らなかった	1.33	2.18	-2.13**
9. 家族や知人から地震保険は不要だと聞いたことがある	1.64	2.19	-2.01**
10. その他	2.17	2.17	0.08
11. 理由はない	1.72	2.26	-3.84***

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6~10の正答数)			
非加入の理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 大きな地震が起こりそうにない	2.29	2.32	-0.11
2. 建物の免震性や耐震性が高いので、被害を受けるとは思えない	2.90	2.21	4.11***
3. 保険料がリスクに見合わない	2.89	2.03	6.61***
4. 補償が限られている	2.90	2.12	5.52***
5. 保険料を負担できない	2.05	2.37	-2.03**
6. 加入する機会がなかった	1.83	2.36	-2.56**
7. 地震保険のしくみがよくわからない	1.71	2.38	-3.25***
8. 地震保険の存在を知らなかった	1.33	2.33	-2.14**
9. 家族や知人から地震保険は不要だと聞いたことがある	2.12	2.32	-0.63
10. その他	2.64	2.29	1.38
11. 理由はない	1.72	2.44	-4.53***

災害支援リテラシー(Q34の正答数)			
非加入の理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 大きな地震が起こりそうにない	1.50	1.27	1.77*
2. 建物の免震性や耐震性が高いので、被害を受けるとは思えない	1.59	1.24	3.24***
3. 保険料がリスクに見合わない	1.52	1.17	3.43***
4. 補償が限られている	1.54	1.21	2.72***
5. 保険料を負担できない	1.12	1.33	-1.89*
6. 加入する機会がなかった	0.98	1.32	-1.98**
7. 地震保険のしくみがよくわからない	1.14	1.31	-1.01
8. 地震保険の存在を知らなかった	1.33	1.29	-0.42
9. 家族や知人から地震保険は不要だと聞いたことがある	1.24	1.29	-0.08
10. その他	1.19	1.30	-0.82
11. 理由はない	0.99	1.35	-3.01***

表 98 は、建物の地震保険に加入していない 884 人を対象に、非加入の理由別で平均正答数を比較したものである。まず、「11. 理由はない」と回答している人は、いずれのリテラシーについても平均正答数は有意に低い。

そして、理由がある人でリテラシーを比較すると、「2. 建物の免震性や耐震性が高いので、被害を受けるとは思えない」、「3. 保険料がリスクに見合わない」、「4. 補償が限られている」の選択者の平均正答数が 1%水準で有意に高く、建物の耐震性を高くしている人や保険料の費用対効果を考えて加入していない人のリテラシーが高くなっている。

一方、「5. 保険料を負担できない」、「6. 加入する機会がなかった」、「7. 地震保険のしくみがよくわからない」、「8. 地震保険の存在を知らなかった」の理由で地震保険に加入していない人の金融や保険のリテラシーが有意に低い。

地震による自宅再建の資金調達(Q23・Q25)とリテラシーの関係

表 99 地震による自宅再建の資金調達とリテラシー（平均値）の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)			
自宅の再建資金	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 地震保険	2.11	1.78	5.96***
2. 火災保険(地震保険を除く)	2.10	1.86	3.78***
3. 公的支援金	2.29	1.83	6.62***
4. 自身の預貯金	2.36	1.62	13.0***
5. 自身の預貯金以外の金融資産	2.88	1.79	12.2***
6. 親族からの資金援助	2.11	1.91	1.33
7. 銀行等からの借り入れ	2.27	1.89	3.84***
8. 土地の売却代金	2.35	1.90	3.09***
9. その他	1.80	1.92	-0.50
10. 自宅の再建は諦める	2.06	1.90	1.81*
11. そうしたことは起こることはないので、考えたことはない	1.60	1.93	-2.44**
12. そうしたことは起こるかもしれないが、考えたことはない	1.32	2.11	-12.2***

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1~5 の正答数)			
自宅の再建資金	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 地震保険	2.43	1.92	8.80***
2. 火災保険(地震保険を除く)	2.32	2.08	3.53***
3. 公的支援金	2.62	2.03	8.11***
4. 自身の預貯金	2.60	1.82	13.4***
5. 自身の預貯金以外の金融資産	2.90	2.04	9.41***
6. 親族からの資金援助	2.08	2.14	-0.50
7. 銀行等からの借り入れ	2.60	2.10	4.76***
8. 土地の売却代金	2.44	2.13	1.99**
9. その他	2.27	2.13	0.66
10. 自宅の再建は諦める	2.39	2.11	2.93***
11. そうしたことは起こることはないので、考えたことはない	1.74	2.15	-2.75***
12. そうしたことは起こるかもしれないが、考えたことはない	1.45	2.36	-13.8***

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6～10 の正答数)			
自宅の再建資金	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 地震保険	2.66	1.97	10.4***
2. 火災保険(地震保険を除く)	2.49	2.18	4.05***
3. 公的支援金	2.81	2.13	7.98***
4. 自身の預貯金	2.81	1.88	13.9***
5. 自身の預貯金以外の金融資産	3.09	2.15	9.20***
6. 親族からの資金援助	2.47	2.25	1.33
7. 銀行等からの借入れ	2.91	2.20	5.75***
8. 土地の売却代金	2.79	2.24	3.06***
9. その他	2.35	2.26	0.39
10. 自宅の再建は諦める	2.42	2.24	1.62
11. そうしたことは起こることはないので、考えたことはない	1.83	2.27	-2.73***
12. そうしたことは起こるかもしれないが、考えたことはない	1.45	2.52	-14.0***

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)			
自宅の再建資金	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 地震保険	1.36	1.06	6.32***
2. 火災保険(地震保険を除く)	1.38	1.13	4.51***
3. 公的支援金	1.61	1.09	8.44***
4. 自身の預貯金	1.44	1.01	9.11***
5. 自身の預貯金以外の金融資産	1.51	1.14	4.72***
6. 親族からの資金援助	1.58	1.17	3.09***
7. 銀行等からの借入れ	1.64	1.15	5.32***
8. 土地の売却代金	1.44	1.18	2.56**
9. その他	1.31	1.18	0.20
10. 自宅の再建は諦める	1.28	1.18	1.08
11. そうしたことは起こることはないので、考えたことはない	0.93	1.20	-1.91*
12. そうしたことは起こるかもしれないが、考えたことはない	0.73	1.33	-11.2***

表 100 住宅再建の資金源とリテラシー（平均値）の比較（住宅再建資金を考えている人）

金融リテラシー(Q31 の正答数)			
住宅再建の資金源	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 地震保険	2.09	2.25	-2.09**
2. 火災保険	2.03	2.23	-2.93***
3. 公的支援金	2.12	2.16	-0.48
4. 自身の預貯金	2.28	1.89	5.29***
5. 自身の預貯金以外の金融資産	2.82	2.00	9.06***
6. 親族からの資金援助	1.68	2.17	-3.18***
7. 銀行等からの借入れ	2.18	2.14	0.38
8. 土地の売却代金	2.04	2.15	-0.66
9. その他	1.76	2.16	-1.79*

火災保険リテラシー(Q32 の選択肢 1~5 の正答数)			
住宅再建の資金源	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 地震保険	2.42	2.35	0.95
2. 火災保険	2.32	2.44	-1.66*
3. 公的支援金	2.43	2.37	0.75
4. 自身の預貯金	2.49	2.20	3.77***
5. 自身の預貯金以外の金融資産	2.73	2.32	4.33***
6. 親族からの資金援助	1.93	2.42	-3.15***
7. 銀行等からの借り入れ	2.55	2.37	1.40
8. 土地の売却代金	2.50	2.39	0.71
9. その他	1.98	2.40	-1.66*

地震保険リテラシー(Q32 の選択肢 6~10 の正答数)			
住宅再建の資金源	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 地震保険	2.63	2.47	1.93*
2. 火災保険	2.50	2.63	-1.52
3. 公的支援金	2.62	2.55	0.64
4. 自身の預貯金	2.68	2.36	3.70***
5. 自身の預貯金以外の金融資産	2.92	2.50	4.09***
6. 親族からの資金援助	2.20	2.59	-2.18**
7. 銀行等からの借り入れ	2.88	2.54	2.51**
8. 土地の売却代金	2.67	2.57	0.62
9. その他	2.22	2.58	-1.32

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)			
住宅再建の資金源	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 地震保険	1.38	1.35	0.61
2. 火災保険	1.32	1.40	-1.40
3. 公的支援金	1.48	1.31	3.07***
4. 自身の預貯金	1.43	1.25	2.62***
5. 自身の預貯金以外の金融資産	1.43	1.35	0.55
6. 親族からの資金援助	1.24	1.37	-0.63
7. 銀行等からの借り入れ	1.42	1.36	0.68
8. 土地の売却代金	1.40	1.36	0.79
9. その他	1.17	1.37	-1.40

図 12 住宅再建の資金源別のリテラシー（平均正答数）の比較

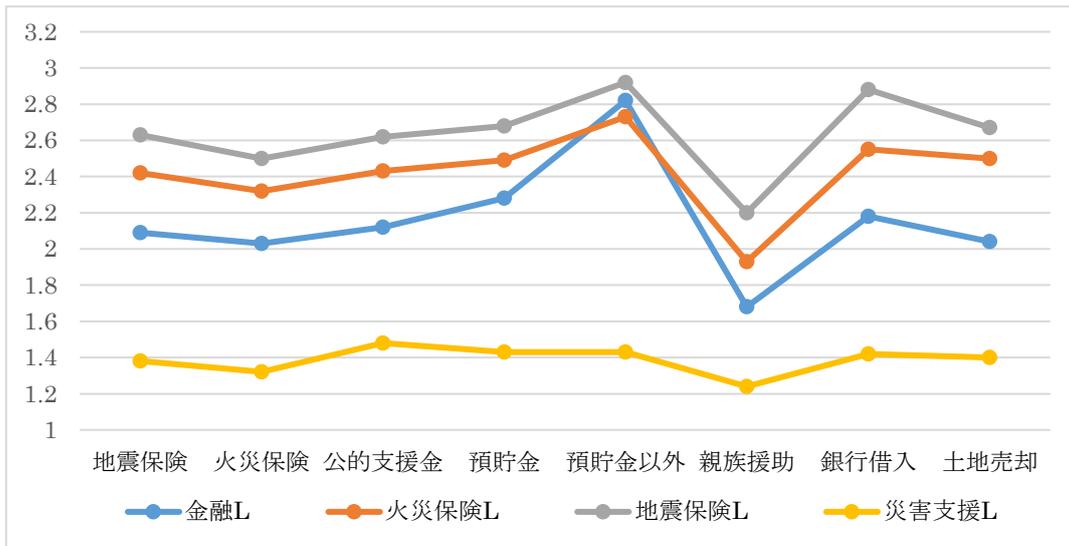


表 99 は、地震により自宅が全壊した場合、自宅の再建資金(予定)別で平均正答数を比較したものである。まず、いずれのリテラシーについても「12. そうしたことは起こるかもしれないが、考えたことはない」の平均正答数が有意に低く、次に「11. そうしたことは起こることはないので、考えたことはない」の平均正答数が低い。また、「10. 自宅の再建は諦める」を選択した人は、非選択者と比較して平均正答数は高いが、火災保険リテラシー以外に高い有意差は見られない。

一方、再建資金として想定している資金別で見ると、「6. 親族からの資金援助」以外は有意差が見られ、選択者の平均正答数が有意に高い(但し、災害支援リテラシーについては「6. 親族からの資金援助」の選択者の平均正答数も有意に高い)。

なお、表 100 は、住宅再建資金を選んだ 1871 人を対象に、重要なものを 3 つ選んで貰った結果から、資金別でリテラシーを比較したものである(図 12 は再建資金源別で平均正答数をプロットしたものである)。表 99 の結果と同様、「4. 自身の預貯金」や「5. 自身の預貯金以外の金融資産」を資金源として考えている人の平均正答数が有意に高いが、表 99 とは異なり、再建資金として「1. 地震保険」や「2. 火災保険」を選んだ人のリテラシーが有意に低い傾向が見られる(あるいは、有意差が見られない)。

地震保険による自宅再建補填率(Q24)とリテラシーの関係

表 101 地震保険による自宅再建補填率とリテラシー（平均値）の比較

再建費用の補填度	金融L	火災保険L	地震保険L	災害支援L
1. 100%程度(ほぼ全て)	2.00	2.44	2.28	1.41
2. 90%程度	1.88	2.27	2.85	1.94
3. 80%程度	2.26	2.37	2.68	1.48
4. 70%程度	2.22	2.58	2.84	1.70
5. 60%程度	2.00	2.42	2.73	1.43
6. 50%程度	2.31	2.66	3.01	1.49
7. 40%程度	2.78	2.93	2.89	1.67
8. 30%程度	2.60	2.90	3.22	1.46
9. 20%程度	2.93	3.20	3.50	1.78
10. 10%程度	2.69	3.38	2.85	1.85
11. 0%程度(ごくわずか)	1.18	1.64	1.73	1.00
12. わからない	1.53	1.82	1.97	0.85
Kruskal-Wallis test(わからない含む)	92.3***	94.2***	92.9***	62.7***
Kruskal-Wallis test(わからない除く)	32.8***	27.9***	32.0***	9.26

図 13 地震保険による自宅再建補填率とリテラシー（平均値）の比較

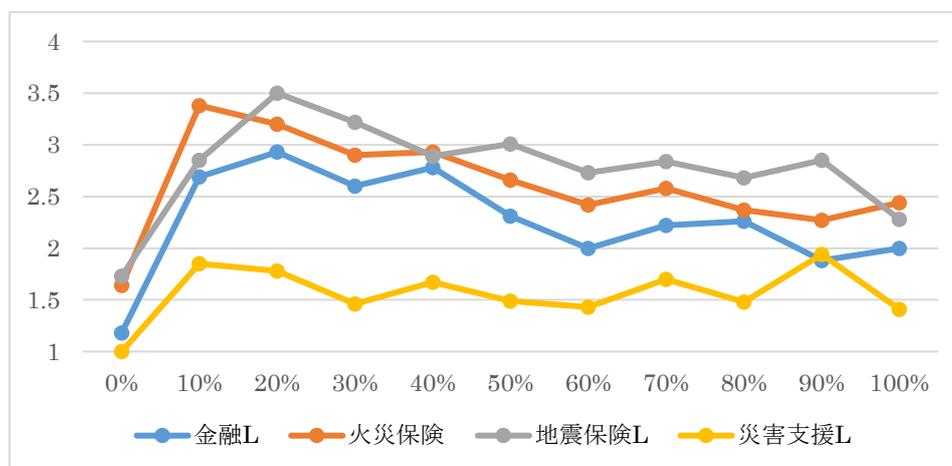


表 101 は、自宅の再建資金として地震保険を選択した 1250 人を対象に、地震保険による再建費用の補填率別で平均正答数を比較したものである。いずれのリテラシーについても「0%程度(ごくわずか)」や「わからない」を選択した人のリテラシーが低いため、1%水準の有意差が見られるが、「12. わからない」を除くと災害支援リテラシーには有意差が見られない。

金融・保険リテラシーについては「12. わからない」を除いても 1%水準で有意差である(「11」と「12」の両方を除いても 1%水準の有意差であった)。

図 13 を見ると、全体的に 10%~20%の補填率を想定している人のリテラシーの水準が高く、それ以上になると、補填率が高くなるほどリテラシーの水準が低くなる傾向である(但し、災害支援リテラシーについては、補填率とリテラシーの水準に明確な関係は見られない)。

火災保険の水災補償の認知度(Q26)とリテラシーの関係

表 102 火災保険の水災補償の認知度とリテラシー（分布）の比較

金融リテラシー(Q31 の正答数)				
水災補償について	しっかり知っていた	おおよそ知っていた	部分的に知っていた	知らなかった
全体	232 (100%)	805 (100%)	824 (100%)	1139 (100%)
全問(5問)正解者	24*** (10.3%)	47* (5.8%)	40 (4.9%)	30*** (2.6%)
4問正解者	51*** (22.0%)	136*** (16.9%)	93** (11.3%)	126*** (11.1%)
3問正解者	66*** (28.4%)	198*** (24.6%)	154 (18.7%)	165*** (14.5%)
2問正解者	41 (17.7%)	173 (21.5%)	176 (21.4%)	213 (18.7%)
1問正解者	24** (10.3%)	113 (14.0%)	139 (16.9%)	193 (16.9%)
全問(5問)不正解者	26*** (11.2%)	138*** (17.1%)	222 (26.9%)	412*** (36.2%)
Chi 2 test	188.6***			

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1~5 の正答数)				
水災補償について	しっかり知っていた	おおよそ知っていた	部分的に知っていた	知らなかった
全体	232 (100%)	805 (100%)	824 (100%)	1139 (100%)
全問(5問)正解者	39*** (16.8%)	52*** (6.5%)	11*** (1.3%)	26*** (2.3%)
4問正解者	69*** (29.7%)	210*** (26.1%)	152 (18.4%)	125*** (11.0%)
3問正解者	66** (28.4%)	193 (24.0%)	198 (24.0%)	211*** (18.5%)
2問正解者	27*** (11.6%)	152 (18.9%)	169 (20.5%)	226 (19.8%)
1問正解者	18** (7.8%)	77*** (9.6%)	121 (14.7%)	176*** (15.5%)
全問(5問)不正解者	13*** (5.6%)	121*** (15.0%)	173 (21.0%)	375*** (32.9%)
Chi 2 test	341.9***			

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6～10 の正答数)				
水災補償について	しっかり知っていた	おおよそ知っていた	部分的に知っていた	知らなかった
全体	232 (100%)	805 (100%)	824 (100%)	1139 (100%)
全問(5問)正解者	81*** (34.9%)	138*** (17.1%)	95* (11.5%)	86*** (7.6%)
4問正解者	68*** (29.3%)	178*** (22.1%)	139 (16.9%)	143*** (12.6%)
3問正解者	28* (12.1%)	164*** (20.4%)	145 (17.6%)	148*** (13.0%)
2問正解者	22** (9.5%)	106 (13.2%)	134** (16.3%)	165 (14.5%)
1問正解者	15*** (6.5%)	82 (10.2%)	108 (13.1%)	144 (12.6%)
全問(5問)不正解者	18*** (7.8%)	137*** (17.0%)	203* (24.6%)	453*** (39.8%)
Chi 2 test	331.8***			

災害支援融リテラシー(Q34 の正答数)				
水災補償について	しっかり知っていた	おおよそ知っていた	部分的に知っていた	知らなかった
全体	232 (100%)	805 (100%)	824 (100%)	1139 (100%)
全問(5問)正解者	17*** (7.3%)	27* (3.4%)	19 (2.3%)	12*** (1.1%)
4問正解者	30*** (12.9%)	64** (8.0%)	57 (6.9%)	35*** (3.1%)
3問正解者	38*** (16.4%)	120*** (14.9%)	75 (9.1%)	80*** (7.0%)
2問正解者	42 (18.1%)	141** (17.5%)	130 (15.8%)	147*** (12.9%)
1問正解者	48 (20.7%)	161 (20.0%)	158 (19.2%)	212 (18.6%)
全問(5問)不正解者	57*** (24.6%)	292*** (36.3%)	385 (46.7%)	653*** (57.3%)
Chi 2 test	190.7***			

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、■は有意に少ないことを意味する。

表 103 水災補償の認知度とリテラシー（平均値）の比較

水災補償の認知度	金融 L	火災保険 L	地震保険 L	災害支援 L
1. しっかりと知っていた	2.71	3.19	3.53	1.94
2. おおよそ知っていた	2.28	2.56	2.72	1.48
3. 部分的に知っていた	1.85	2.08	2.24	1.17
4. 知らなかった	1.55	1.66	1.69	0.83
Kruskal-Wallis test	172.3***	277.3***	289.7***	174.7***

表 102 と表 103 は、火災保険の水災補償付加に対する認知度別でリテラシーを比較したものである(表 102 は正答数の分布を、表 103 は平均正答数を比較したものである)。水災補償の認知度とリテラシーの水準には高い正の相関が見られ、いずれのリテラシーについても、水災補償について「しっかり知っていた」や「おおよそ知っていた」人は、4~5 問正答者が有意に多い(平均正答数も高い)。一方、水災補償について「知らなかった」と回答している人のリテラシーは有意に低く、金融・保険リテラシーについては 3~4 割が全問不正解、災害支援については 6 割弱が全問不正解である。

火災保険(水災補償付加の有無別)の加入状況(Q27)とリテラシーの関係

表 104 建物の火災保険(水災補償付加の有無別)の加入状況とリテラシー(分布)の比較

金融リテラシー(Q31 の正答数)					
	加入・付加	加入・非付加	加入・付加不明	加入自体不明	非加入
全体	666 (100%)	892 (100%)	690 (100%)	362 (100%)	390 (100%)
全問(5問)正解者	37 (5.6%)	52* (5.8%)	32 (4.6%)	6*** (1.7%)	14 (3.6%)
4問正解者	103* (15.5%)	151*** (16.9%)	84 (12.2%)	24*** (6.6%)	44 (11.3%)
3問正解者	158*** (23.7%)	216*** (24.2%)	106*** (15.4%)	39*** (10.8%)	64 (16.4%)
2問正解者	141 (21.2%)	180 (20.2%)	149 (21.6%)	60* (16.6%)	73 (18.7%)
1問正解者	95 (14.3%)	137 (15.4%)	115 (16.7%)	66 (18.2%)	56 (14.4%)
全問(5問)不正解者	132*** (19.8%)	156*** (17.5%)	204** (29.6%)	167*** (46.1%)	139*** (35.6%)
Chi 2 test	187.3***				

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1～5 の正答数)					
	加入・付加	加入・非付加	加入・付加不明	加入自体不明	非加入
全体	666 (100%)	892 (100%)	690 (100%)	362 (100%)	390 (100%)
全問(5問)正解者	46*** (6.9%)	50** (5.6%)	19** (2.8%)	2*** (0.6%)	11 (2.8%)
4問正解者	178*** (26.7%)	193*** (21.6%)	103*** (14.9%)	21*** (5.8%)	61 (15.6%)
3問正解者	159 (23.9%)	237*** (26.6%)	173** (25.1%)	38** (10.5%)	61*** (15.6%)
2問正解者	113 (17.0%)	185 (20.7%)	127 (18.4%)	79 (21.8%)	70 (17.9%)
1問正解者	62*** (9.3%)	101* (11.3%)	97 (14.1%)	82*** (22.7%)	50 (12.8%)
全問(5問)不正解者	108*** (16.2%)	126*** (14.1%)	171 (24.8%)	140*** (38.7%)	137*** (35.1%)
Chi 2 test	289.4***				

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6～10 の正答数)					
	加入・付加	加入・非付加	加入・付加不明	加入自体不明	非加入
全体	666 (100%)	892 (100%)	690 (100%)	362 (100%)	390 (100%)
全問(5問)正解者	129*** (19.4%)	151*** (16.9%)	73** (10.6%)	9*** (2.5%)	38** (9.7%)
4問正解者	152*** (22.8%)	193*** (21.6%)	105* (15.2%)	29*** (8.0%)	49*** (12.6%)
3問正解者	104 (15.6%)	173*** (19.4%)	123 (17.8%)	37*** (10.2%)	48** (12.3%)
2問正解者	87 (13.1%)	127 (14.2%)	112* (16.2%)	49 (13.5%)	52 (13.3%)
1問正解者	70 (10.5%)	94 (10.5%)	86 (12.5%)	54** (14.9%)	45 (11.5%)
全問(5問)不正解者	124*** (18.6%)	154*** (17.3%)	191 (27.7%)	184*** (50.8%)	158*** (40.5%)
Chi 2 test	289.8***				

災害支援リテラシー(Q34の正答数)					
	加入・付加	加入・非付加	加入・付加不明	加入自体不明	非加入
全体	666 (100%)	892 (100%)	690 (100%)	362 (100%)	390 (100%)
全問(5問)正解者	28*** (4.2%)	29* (3.3%)	9** (1.3%)	3** (0.8%)	6 (1.5%)
4問正解者	63*** (9.5%)	60 (6.7%)	29** (4.2%)	10*** (2.8%)	24 (6.2%)
3問正解者	91*** (13.7%)	107* (12.0%)	51*** (7.4%)	21*** (5.8%)	43 (11.0%)
2問正解者	123** (18.5%)	151 (16.9%)	109 (15.8%)	38*** (10.5%)	39*** (10.0%)
1問正解者	127 (19.1%)	186 (20.9%)	142 (20.6%)	52** (14.4%)	72 (18.5%)
全問(5問)不正解者	234*** (35.1%)	359*** (40.2%)	350*** (50.7%)	238*** (65.7%)	206*** (52.8%)
Chi 2 test	150.9***				

注) ***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意差があることを表す。また、調整済み残差より、■は有意に多い、□は有意に少ないことを意味する。

表 105 火災保険(水災補償付加の有無別)の加入状況とリテラシー(平均値)の比較

火災保険(建物)加入状況	金融L	火災保険L	地震保険L	災害支援L
1. 火災保険加入・水災補償付加	2.17	2.56	2.72	1.56
2. 火災保険加入・水災補償非付加	2.25	2.47	2.68	1.34
3. 火災保険加入・水災補償不明	1.78	2.00	2.12	0.98
4. 火災保険加入不明	1.19	1.24	1.17	0.68
5. 火災保険非加入	1.64	1.72	1.74	1.04
Kruskal-Wallis test(全体)	167.5***	250.2***	266.5***	131.9***
Kruskal-Wallis test(選択肢1と2に限定)	1.02	-1.60	-0.58	-2.83***

火災保険(家財)加入状況	金融L	火災保険L	地震保険L	災害支援L
1. 火災保険加入・水災補償付加	2.23	2.66	2.82	1.59
2. 火災保険加入・水災補償非付加	2.27	2.55	2.73	1.39
3. 火災保険加入・水災補償不明	1.80	2.04	2.19	1.00
4. 火災保険加入不明	1.23	1.28	1.25	0.68
5. 火災保険非加入	1.82	1.87	1.94	1.12
Kruskal-Wallis test(全体)	155.8***	268.5***	263.6***	134.0***
Kruskal-Wallis test(選択肢1と2に限定)	0.45	-1.91*	-1.13	-2.29**

表 104 と表 105 は、火災保険の加入状況(水災補償付加の有無別)でリテラシーを比較したものである(表 104 は正答数の分布を、表 105 は平均正答数を比較したものである。なお、表 104 は建物について見たものであるが、家財についても大きくは変わらなかった)。

表 104 を見ると、いずれのリテラシーについても「1. 火災保険には加入しており、水災補償も付加している(加入・付加)」と「2. 火災保険には加入しているが、水災補償は付加していない(加入・非付加)」の正答数が有意に高く、「3. 火災保険に加入しているが、水災補償を付加しているかは

わからない(加入・付加不明)」、「4. 火災保険に加入しているかどうかわからない(加入自体不明)」、「5. 火災保険に加入していない(非加入)」と回答している人ほど全問不正解者が有意に多い傾向である(特に「4」の加入自体が不明な人の全問不正解者が多い)。

表 105 の平均正答数を比較すると、水災補償の付加状況に関わらず火災保険に加入している人の平均正答数が高く、水災補償の付加の有無で金融や保険リテラシーに高い有意性は見られない。但し、災害支援リテラシーについては有意差が見られ、水災補償を付加している人の災害支援リテラシーの水準は付加していない人と比較して有意に高い。

火災保険の水災補償の付加に影響を与えたもの(Q28)とリテラシーの関係

表 106 水災補償の付加に影響を与えたものとリテラシー（平均値）の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)			
影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 保険会社の代理店	2.08	1.88	2.90***
2. 住宅ローンの貸し手	2.03	1.91	0.95
3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	1.92	1.92	0.08
4. 家族や知人	1.65	1.92	-0.84
5. FPなどの保険や金融の専門家	2.05	1.91	0.73
6. 保険会社、代理店、比較サイトなどのHP	2.08	1.81	4.77***
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事	1.90	1.92	-0.21
8. 上記以外	2.03	1.91	0.97
9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない	2.34	1.88	4.38***
10. わからない/忘れた	1.26	2.06	-11.2***

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1~5の正答数)			
影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 保険会社の代理店	2.53	2.05	6.52***
2. 住宅ローンの貸し手	2.27	2.13	0.94
3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	2.24	2.13	1.07
4. 家族や知人	2.17	2.13	0.30
5. FPなどの保険や金融の専門家	2.37	2.13	1.67*
6. 保険会社、代理店、比較サイトなどのHP	2.55	2.10	4.08***
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事	2.13	2.14	-0.04
8. 上記以外	2.59	2.13	2.23**
9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない	2.25	2.06	3.27***
10. わからない/忘れた	1.35	2.31	-13.1***

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6~10の正答数)			
影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 保険会社の代理店	2.58	2.19	4.71***
2. 住宅ローンの貸し手	2.50	2.24	1.72*
3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	2.43	2.24	1.60
4. 家族や知人	2.33	2.25	0.82
5. FPなどの保険や金融の専門家	2.67	2.24	2.64***
6. 保険会社、代理店、比較サイトなどのHP	2.90	2.20	5.56***
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事	2.22	2.26	-0.06
8. 上記以外	2.58	2.25	1.42
9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない	2.36	2.19	2.62***
10. わからない/忘れた	1.40	2.45	-12.5***

災害支援リテラシー(Q34の正答数)			
影響を与えたもの	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 保険会社の代理店	1.47	1.12	5.90***
2. 住宅ローンの貸し手	1.60	1.16	3.83***
3. 住宅の販売会社、建築会社、不動産の仲介業者	1.27	1.18	1.31
4. 家族や知人	1.38	1.16	3.02***
5. FPなどの保険や金融の専門家	1.61	1.17	3.62***
6. 保険会社、代理店、比較サイトなどのHP	1.57	1.16	4.78***
7. テレビ、新聞、雑誌、インターネットの記事	1.52	1.18	1.70*
8. 上記以外	1.48	1.18	1.27
9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない	1.17	1.19	-0.35
10. わからない/忘れた	0.70	1.29	-9.63***

図 14 水災補償の付加に影響を与えたものとリテラシー（平均正答数）の比較

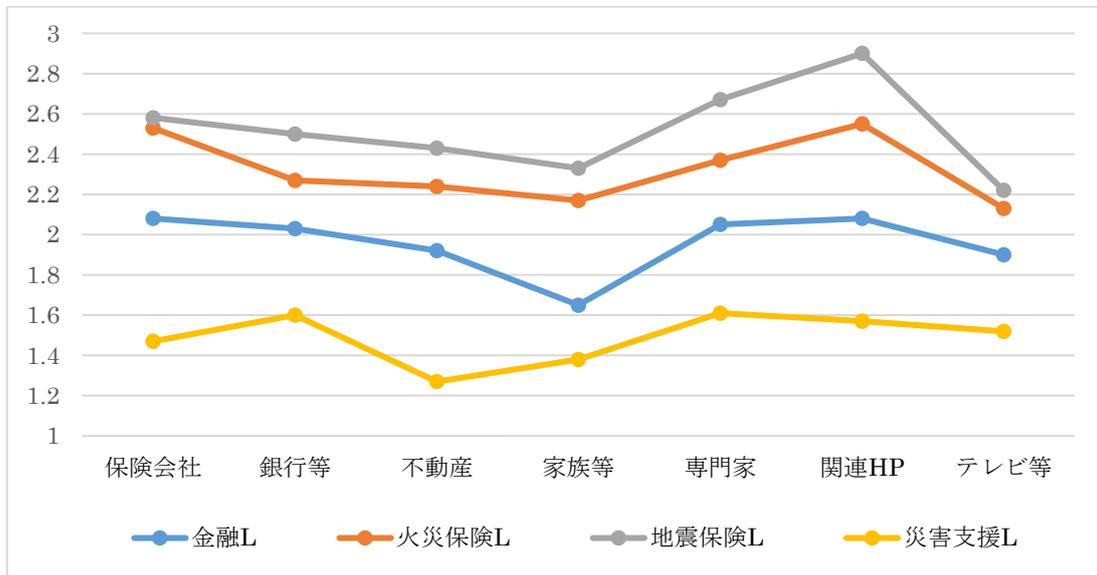


表 106 は、火災保険に水災補償を付加するか否かに影響を与えたもので平均正答数を比較したものである。いずれのリテラシーにおいても「10. わからない／忘れた」の選択者のリテラシーが1%水準で有意に低い。また、「9. 助言を受けたり、参考にしたりしたものはない」を選択した人の金融・保険リテラシーが有意に高い。

一方、影響を受けたものがある人を見ると、「1. 保険会社の代理店」や「6. 保険会社、代理店、比較サイトなどのHP」を参考にしたりした人のリテラシーが有意に高い。また、地震保険リテラシーや災害支援リテラシーについては「5. FPなどの保険や金融の専門家」の影響を受けた人のリテラシーが有意に高くなっている。

なお、図 14 は、水災補償の付加に影響を与えたものの内容別で平均正答数をプロットしたものである。火災保険と地震保険については「6. 保険会社、代理店、比較サイトなどのHP」の影響を受けた人のリテラシーの水準が高い。

火災保険の水災補償を付加しない理由(Q29)とリテラシーの関係

表 107 火災保険の水災補償を付加しない理由とリテラシー（平均値）の比較

金融リテラシー(Q31の正答数)			
火災保険に水災補償を付加しない理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 水災補償の内容及びよくわかっているが、不要だと判断した	2.51	2.17	2.70***
2. 大きな洪水が起こりそうにない	2.28	2.21	0.71
3. 立地から洪水の被害を受けそうにない	2.34	2.13	2.19**
4. 建物の構造(たとえば、高層階)から、洪水の被害を受けるとは思えない	2.55	2.18	2.56**
5. 保険料がリスクに見合わない	2.63	2.20	2.38**
6. 補償が限られている	2.72	2.21	2.31**
7. 保険料を負担できない	1.55	2.26	-3.06***
8. 加入する機会がなかった	1.90	2.25	-1.43
9. 水災補償の内容及びよくわからない	2.19	2.23	-0.23
10. 水災補償の存在を知らなかった	2.03	2.25	-1.33
11. 家族や知人から水災補償は不要だと聞いたことがある	1.57	2.24	-1.67*
12. その他	1.80	2.24	-0.96
13. 理由はない	1.70	2.30	-3.79***

火災保険リテラシー(Q32 選択肢 1~5 の正答数)			
火災保険に水災補償を付加しない理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 水災補償の内容及びよくわかっているが、不要だと判断した	2.89	2.36	4.24***
2. 大きな洪水が起こりそうにない	2.46	2.47	-0.31
3. 立地から洪水の被害を受けそうにない	2.68	2.25	4.66***
4. 建物の構造(たとえば、高層階)から、洪水の被害を受けるとは思えない	2.78	2.41	2.54**
5. 保険料がリスクに見合わない	2.65	2.45	1.00
6. 補償が限られている	2.83	2.44	1.78*
7. 保険料を負担できない	2.31	2.47	-0.82
8. 加入する機会がなかった	1.97	2.48	-2.31**
9. 水災補償の内容及びよくわからない	2.37	2.47	-0.60
10. 水災補償の存在を知らなかった	2.39	2.47	-0.85
11. 家族や知人から水災補償は不要だと聞いたことがある	1.93	2.47	-1.52
12. その他	2.30	2.46	-0.50
13. 理由はない	1.78	2.55	-4.70***

地震保険リテラシー(Q32 選択肢 6～10 の正答数)			
火災保険に水災補償を付加しない理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 水災補償の内容がよくわかっているが、不要だと判断した	3.04	2.58	3.33***
2. 大きな洪水が起こりそうにない	2.74	2.64	0.88
3. 立地から洪水の被害を受けそうにない	2.95	2.40	4.86***
4. 建物の構造(たとえば、高層階)から、洪水の被害を受けるとは思えない	3.14	2.59	3.36***
5. 保険料がリスクに見合わない	3.17	2.63	2.69***
6. 補償が限られている	3.37	2.63	2.95***
7. 保険料を負担できない	2.71	2.66	0.06
8. 加入する機会がなかった	2.18	2.69	-1.89*
9. 水災補償の内容がよくわからない	2.58	2.67	-0.39
10. 水災補償の存在を知らなかった	2.44	2.69	-1.80*
11. 家族や知人から水災補償は不要だと聞いたことがある	2.07	2.68	-1.38
12. その他	2.50	2.67	-0.32
13. 理由はない	1.81	2.77	-5.07***

災害支援リテラシー(Q34 の正答数)			
火災保険に水災補償を付加しない理由	選択者	非選択者	Mann-WU
1. 水災補償の内容がよくわかっているが、不要だと判断した	1.63	1.30	2.81***
2. 大きな洪水が起こりそうにない	1.41	1.34	1.08
3. 立地から洪水の被害を受けそうにない	1.51	1.21	3.43***
4. 建物の構造(たとえば、高層階)から、洪水の被害を受けるとは思えない	1.54	1.33	1.82*
5. 保険料がリスクに見合わない	1.60	1.34	1.49
6. 補償が限られている	1.91	1.33	2.44**
7. 保険料を負担できない	1.21	1.37	-0.39
8. 加入する機会がなかった	1.18	1.37	-0.99
9. 水災補償の内容がよくわからない	1.23	1.36	-0.60
10. 水災補償の存在を知らなかった	0.95	1.40	-2.43**
11. 家族や知人から水災補償は不要だと聞いたことがある	1.64	1.35	0.98
12. その他	1.20	1.36	-0.58
13. 理由はない	0.91	1.41	-3.82***

表 107 は、火災保険加入者で水災補償を付加していない 970 人を対象に、その理由別で平均正答数を比較したものである。いずれのリテラシーにおいても、「1. 水災補償の内容がよくわかっているが、不要だと判断した」、「3. 立地から洪水の被害を受けそうにない」、「4. 建物の構造から、洪水の被害を受けるとは思えない」、「6. 補償が限られている」という理由で水災補償を付加していない人のリテラシーが有意に高い。また、金融リテラシーや地震保険リテラシーについては、「5. 保険料がリスクに見合わない」の理由で付加していない人のリテラシーも有意に高くなっている。いずれのリテラシーについても「13. 理由はない」の選択者のリテラシーの水準が有意に低い。

7. むすび

我々は、いわゆるプロテクションギャップが日本では大きいという問題意識から、その理由について金融・保険リテラシーの低さが影響しているのではないかを調べるために、2022年8月にアンケート調査を実施した。本稿はその回答結果の概要を報告した。

たとえば、次のような結果が得られている。本調査では、リテラシーを金融、火災保険、地震保険、災害支援の4種類にわけている。いずれのリテラシーについても洪水リスクの把握と正答数には1%水準で有意差があり、「浸水深を把握している」人のリテラシーが有意に高く、「忘れた」、「確認せず」、「知らない」の順でリテラシーが低くなっている。居住地の土砂災害リスクについては、いずれのリテラシーにおいても「リスク無（土砂災害リスクがない地域）」が1番高く、「リスク有（土砂災害リスクがある地域）」、「忘れた」、「確認せず」、「（ハザードマップを）知らない」の順である。

地震保険の加入状況別で平均正答数を比較してみると、金融や保険リテラシーについては、建物・家財の地震保険の加入者の平均正答数が高い。地震保険料の割引適用状況別に評価すると、いずれのリテラシーについても「割引を受けている」のリテラシーの水準が高く、次に「割引を受けていない」のリテラシーが高い。「割引を受けているがどれかはわからない」または「割引を受けているかどうかわからない」と回答した人のリテラシーが低くなっている。

建物の地震保険加入者に関しては、いずれのリテラシーについても「自分自身の考え」で加入している人のリテラシーが1%水準で有意に高く、「わからない／忘れた」と回答している人のリテラシーが低かった。一方で、「地震被災後の住宅再建の費用をまかなう必要があるから」や「地震被災後の生活資金をまかなうことができるから」を地震保険の加入理由とする人のリテラシーはいずれのリテラシーも高かった。他方で、「保険料を負担できない」、「加入する機会がなかった」、「地震保険のしくみがよくわからない」、「地震保険の存在を知らなかった」の理由で地震保険に加入していない人の金融や保険のリテラシーは低かった。

水災補償についても同様であり、水災補償の認知度とリテラシーの水準には高い正の相関が見られた。

調査結果の予備的な分析からは、金融・保険リテラシーが低いことはリスク認識を鈍らせ、保険加入を妨げていると指摘できよう。今後より詳細に分析を行う予定である。

参考文献

- 家森信善 [2021] 「保険教育、保険リテラシーと保険購入行動—リスクに備える手段としての保険への理解を深めるために—」『保険学雑誌』652号 pp.19-45。
- Sanjeewa, W.S. and H. Ouyang. [2019] “Consumers’ Insurance Literacy: Literature Review, Conceptual Definition, and Approach for a Measurement Instrument.” *European Journal of Business and Management* 11(26): 49-65.
- Sanjeewa, W.S., H. Ouyang, Y. Gao, and Y. Liu, [2019] “Decision Making in Personal Insurance: Impact of Insurance Literacy.” *Sustainability* 11(6795): 1-24
- Sheehan, Matt, [2021] “Japan’s earthquake protection gap estimated at \$25bn by Swiss Re,” 11th March 2021. <https://www.reinsurancene.ws/japans-earthquake-protection-gap-estimated-at-25bn-by-swiss-re/>
- Swiss Re Institute [2022] “Resilience Index 2022: risks to resilience on the rise again after a year of respite, June 2022. <https://www.swissre.com/dam/jcr:3f36e9da-fe0f-401d-8648-9a12770ffc0f/2022-june-sigma-resilience-index-en.pdf>
- Tennyson, S. [2011] “Consumers’ insurance literacy: Evidence from Survey Data.” *Finance Services Review* 20: 165-179.